

藤井寺市 男女共同参画に関するアンケート 調査結果報告書

令和7年6月

藤 井 寺 市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果のまとめ.....	2
1	回答者の属性等について.....	2
2	男女の役割やあり方について.....	2
3	男女平等に対する意識について.....	2
4	暴力・DV（ドメスティック・バイオレンス）について.....	2
5	男女共同参画や女性に関する市の取り組みの認知状況について.....	3
6	男女共同参画を進めていくために必要な取り組みについて.....	3
III	調査結果.....	4

I 調査の概要

1 調査の目的

「第4期男女共同参画のための藤井寺市行動計画～スクラムチャレンジプラン～」の計画期間が令和7年度末で終了することから、次期計画の策定に向け、今後の施策展開に反映させるための基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

2 調査対象

市内在住の18歳以上を対象に無作為抽出

3 調査期間

令和7年4月23日～5月14日

4 調査方法

郵送による配布・回収及びWEBによる回答

5 回収状況

配布数	回収数	回収率
1,500通	681通	45.4%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。
- ・【府調査比較】として、「男女共同参画にかかる府民意識調査」（令和6年度調査）から、【国調査比較】として、「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和6年度調査）から数値を引用しています。

Ⅱ 調査結果のまとめ

1 回答者の属性等について

回答者については「男性」が43.2%、「女性」が55.4%となっており、男性よりも女性の方が多くなっています。年齢については、「70歳以上」が最も多く、次いで「50～59歳」、「60～69歳」となっており、中高年層の回答が多くなっています。

配偶者またはパートナーの有無についてみると、「いる」と答えた割合が高くなっています。

職業については、回答者本人、配偶者（パートナー）ともに「正規社員・職員」の割合が最も高くなっています。

2 男女の役割やあり方について

『1. 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい』『2. 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要がない』『3. 離婚という選択をしてもよい』『8. 結婚や出産に関わらず、女性も仕事を辞めずに続ける方がよい』で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”が高くなっています。

一方、『4. 「男は仕事、女は家庭」に同感だ』『子育てや介護は、男性より女性の方が適している』で「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた“そう思わない”が高くなっています。特に、性別でみると、男女に大きな差が見られ、女性で割合が高くなっています。

3 男女平等に対する意識について

家庭での役割分担の理想と現実の考え方の傾向をみると、理想と現実ともに『1. 生活費を得る』で「主に夫が担う」が、『7. 子どもの教育やしつけをする』で「夫婦で分担する」が、『2. 家計の管理をする』で「主に妻が担う」が、『3. 高額の買い物の決定をする』で「話し合いで決める」が高くなっていますが、割合をみると、『1. 生活費を得る』の「主に夫が担う」では、理想は33.6%であるのに対し、現実では56.0%となっており、『7. 子どもの教育やしつけをする』の「夫婦で分担する」では、理想は68.3%であるのに対し、現実では44.8%と、大きな差がみられ、理想と現実ギャップがあることがうかがえます。

男女平等に関する認識については「学校生活の場で」では平等と感じる人が多い一方で、「政治の場で」「社会の習慣やしきたりで」「社会全体で」では男性が優遇されているとの認識が強く見られます。また、あらゆる分野において、男性が優遇されていると感じる人の割合は、男性よりも女性の方が高くなっています。

4 暴力・DV（ドメスティック・バイオレンス）について

暴力に該当する行為について、「殴られた・蹴られた」といった暴力的な行為には、ほとんどの人が「暴力だと思う」と回答しています。しかし、「デート代を無理やり出させられたりプレゼントを要求されたりした」「スマホの中身を勝手にチェックされた」「何を言っても無視をする」に対しては、「暴力だと思わない」の割合が、他の項目よりも高い傾向にあります。

また、実際にDVを経験したことがあるかについては、「大きな声でどなられたり、罵倒されたりした」の割合が最も高く、男女ともに他の項目よりも高くなっています。

相談先については、「家族・親戚」や「友人・知人」に相談するケースが多くなっていますが、「警察」を除き、公的な機関や専門機関に相談した人の割合は低くなっています。また、「相談しなかった」の割合も 12.2%となっており、相談しなかった理由として、「相談しても無駄だと思うから」「相談するほどのことではないと思うから」の割合が最も高くなっており、また、「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」の割合も高く、より一層の窓口の周知徹底、相談しやすいしくみづくり等、ニーズに合った窓口体制の整備が必要です。

5 男女共同参画や女性に関する市の取り組みの認知状況について

認知状況をみると、「広報紙・ホームページによる啓発」の割合が 21.0%と最も高く、次いで「人権悩みの相談室」「藤井寺市男女共同参画フォーラム」となっていますが、一方で「どれも見聞きしたことがない」の割合が 49.3%となっており、市が実施している取り組みの周知啓発を促進していくことが重要となります。

6 男女共同参画を進めていくために必要な取り組みについて

「性別に関わらず、自分の意志で多様な働き方を選択できる環境を整備すること」「保育や介護のサービス、施設を充実させること」「結婚や出産を経ても働き続けられる制度が普及すること」が上位に挙がっています。

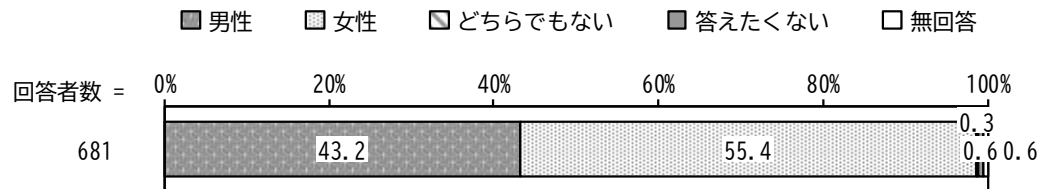
性別でみると、男性では「職場や地域の意思決定の場に女性が参画すること」の割合が女性よりも高く、女性では「男性は仕事、女性は家事・育児といった性別役割分担意識を改めること」の割合が男性より高くなっており、性別によって必要な取り組みに差があることがうかがえます。

Ⅲ 調査結果

問1. あなたの性別を教えてください。

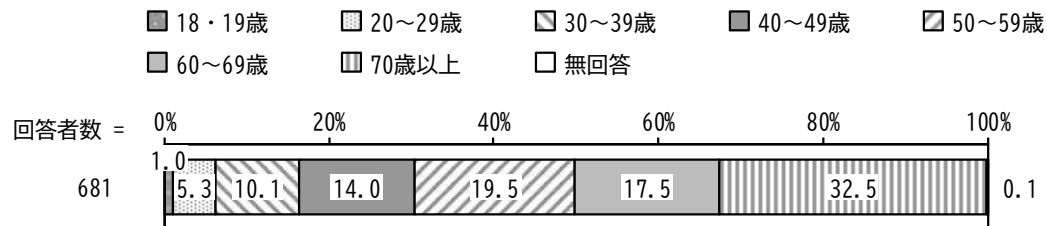
※本調査は、男女共同参画に関する意識などを調査するため、性別を回答いただいています。選択肢の「どちらでもない」は、性の多様性を考慮したものです。戸籍上の区分とは別に、ご自身の主観によりご記入ください。

「男性」の割合が43.2%、「女性」の割合が55.4%となっています。



問2. あなたの年齢を教えてください。

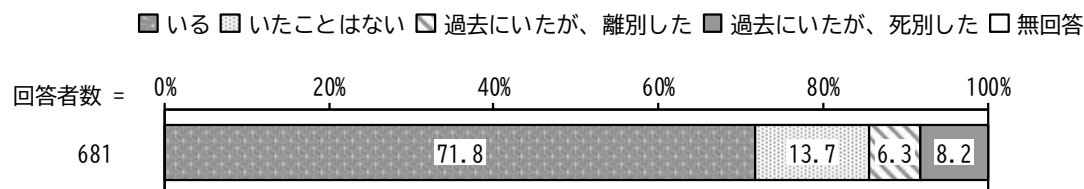
「70歳以上」の割合が32.5%と最も高く、次いで「50～59歳」の割合が19.5%、「60～69歳」の割合が17.5%となっています。



問3. あなたに配偶者またはパートナー（※）はいますか。

※パートナー：事実婚、生活の本拠を共にする交際相手のこと

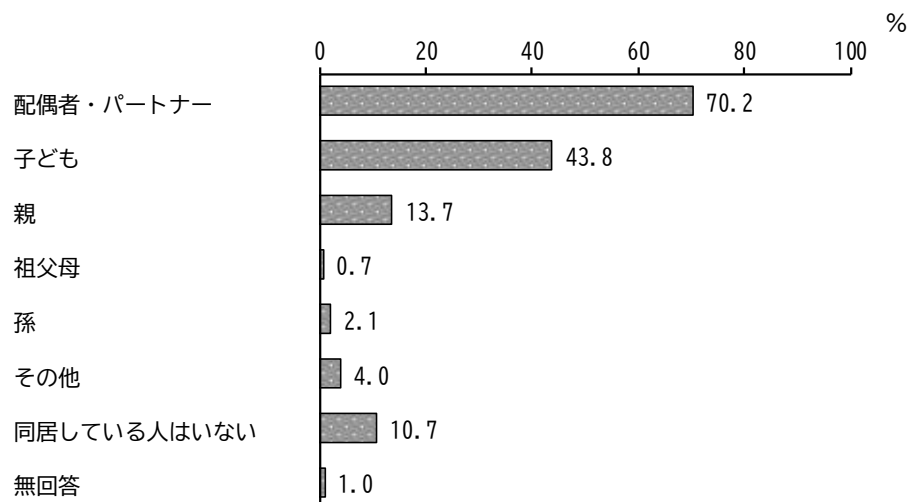
「いる」の割合が71.8%と最も高く、次いで「いたことはない」の割合が13.7%となっています。



問4. あなたが同居している家族構成を教えてください。(○は複数選択可)

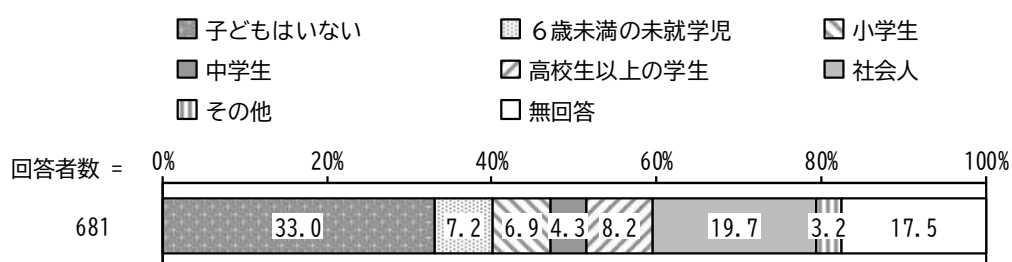
「配偶者・パートナー」の割合が70.2%と最も高く、次いで「子ども」の割合が43.8%、「親」の割合が13.7%となっています。

回答者数 = 681



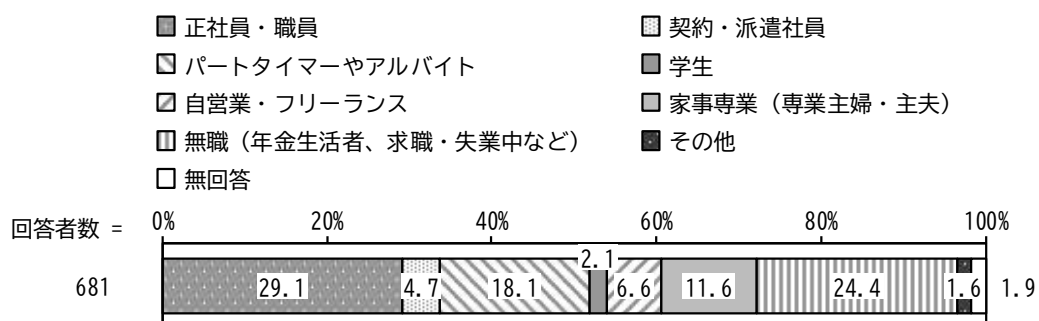
問5. あなたが同居している一番下のお子さんについて教えてください。

「子どもはいない」の割合が33.0%と最も高く、次いで「社会人」の割合が19.7%となっています。



問6. あなたの状況で最も近いものを教えてください。

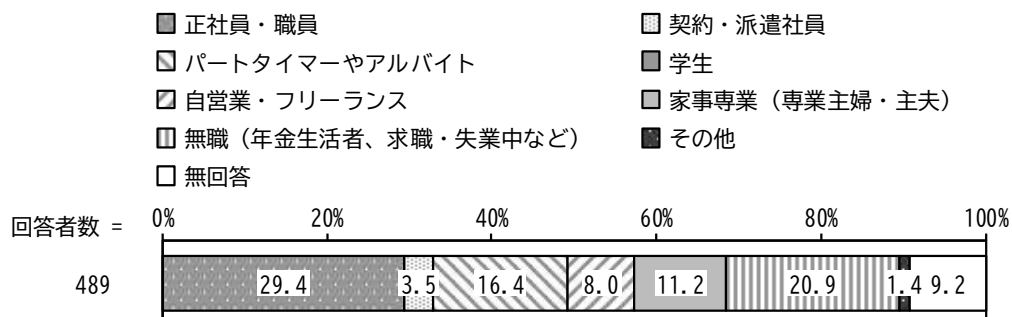
「正社員・職員」の割合が29.1%と最も高く、次いで「無職（年金生活者、求職・失業中など）」の割合が24.4%、「パートタイマーやアルバイト」の割合が18.1%となっています。



問3で「いる」と答えた方にお聞きします。

問7. あなたの配偶者（パートナー）の状況で最も近いものを教えてください。

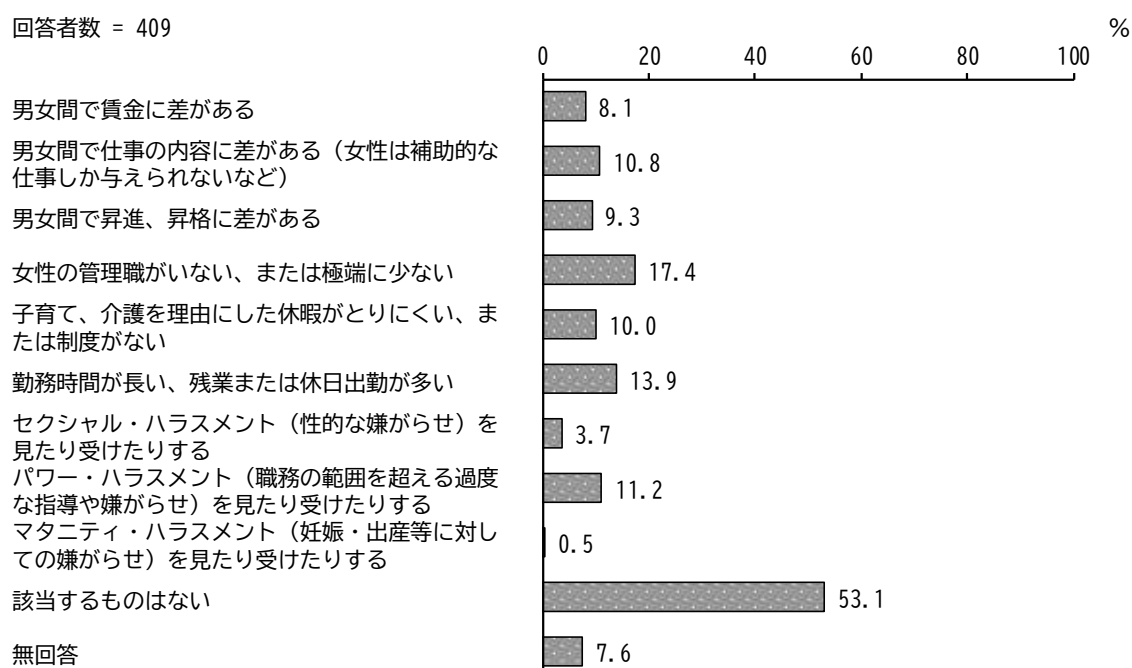
「正社員・職員」の割合が29.4%と最も高く、次いで「無職（年金生活者、求職・失業中など）」の割合が20.9%、「パートタイマーやアルバイト」の割合が16.4%となっています。



問6で「正社員・職員」「契約・派遣社員」「パートタイマーやアルバイト」「自営業・フリーランス」「その他」と答えた方にお聞きします。

問8. あなたの職場では以下のようなことがありますか。（○は複数選択可）

「該当するものはない」の割合が53.1%と最も高く、次いで「女性の管理職が少ない、または極端に少ない」の割合が17.4%、「勤務時間が長い、残業または休日出勤が多い」の割合が13.9%となっています。



【性別】

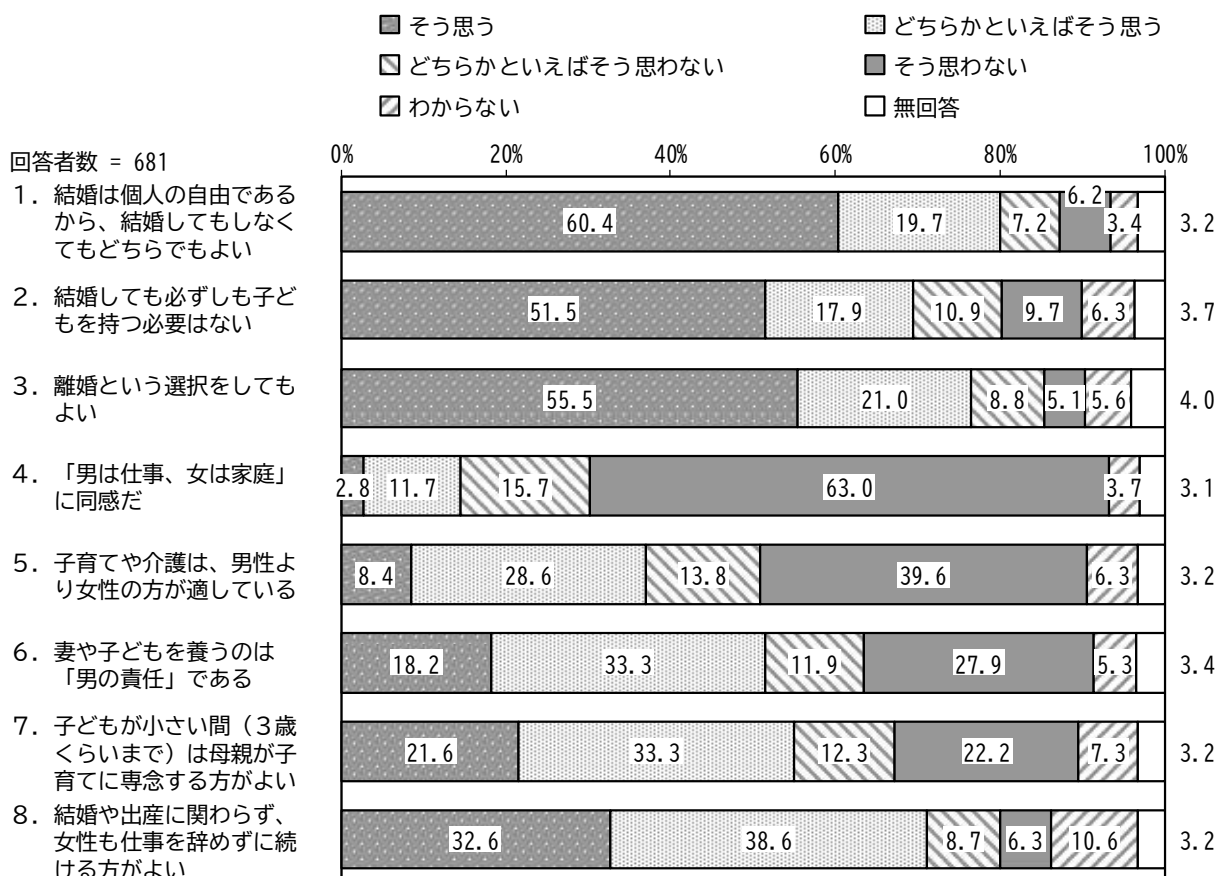
性別にみると、「男女間で仕事の内容に差がある（女性は補助的な仕事しか与えられないなど）」、「女性の管理職が少ない、または極端に少ない」の割合が男性で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	男女間で賃金に差がある	男女間で仕事の内容に差がある（女性は補助的な仕事しか与えられないなど）	男女間で昇進、昇格に差がある	女性の管理職が少ない、または極端に少ない	子育て、介護を理由にした休暇がとりにくい、または制度がない	勤務時間が長い、残業または休日出勤が多い	セクシャル・ハラスメント（性的な嫌がらせ）を見たり受けたりする	パワー・ハラスメント（職務の範囲を超える過度な指導や嫌がらせ）を見たり受けたりする	マタニティ・ハラスメント（妊娠・出産等に対しての嫌がらせ）を見たり受けたりする	該当するものはない	無回答
全 体	409	8.1	10.8	9.3	17.4	10.0	13.9	3.7	11.2	0.5	53.1	7.6
男性	185	9.7	17.3	10.8	21.6	11.4	16.8	2.2	9.2	0.5	50.3	7.6
女性	219	6.4	5.0	7.8	13.2	8.7	11.9	4.6	11.9	0.5	55.7	7.8

問9. 男女の役割やあり方についてどう思いますか。（○はそれぞれ1つずつ）

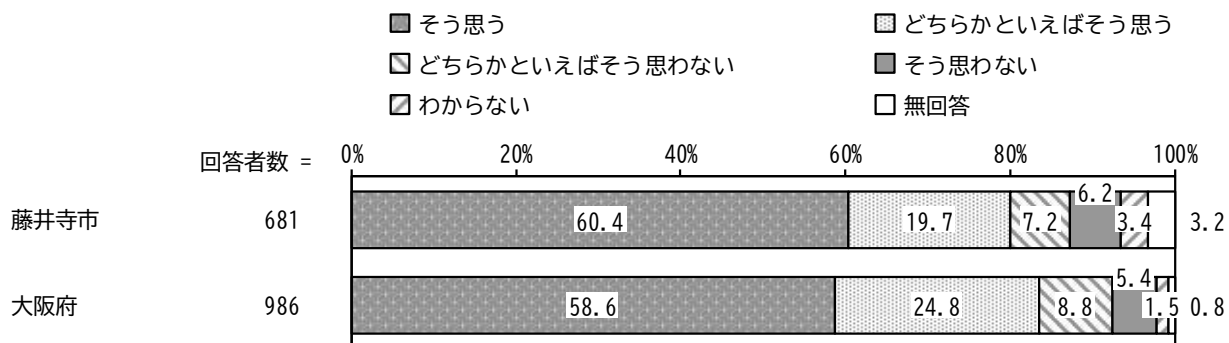
『1. 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”が高くなっています。一方、『4. 「男は仕事、女は家庭」に同感だ』で「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた“そう思わない”が高くなっています。



1. 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

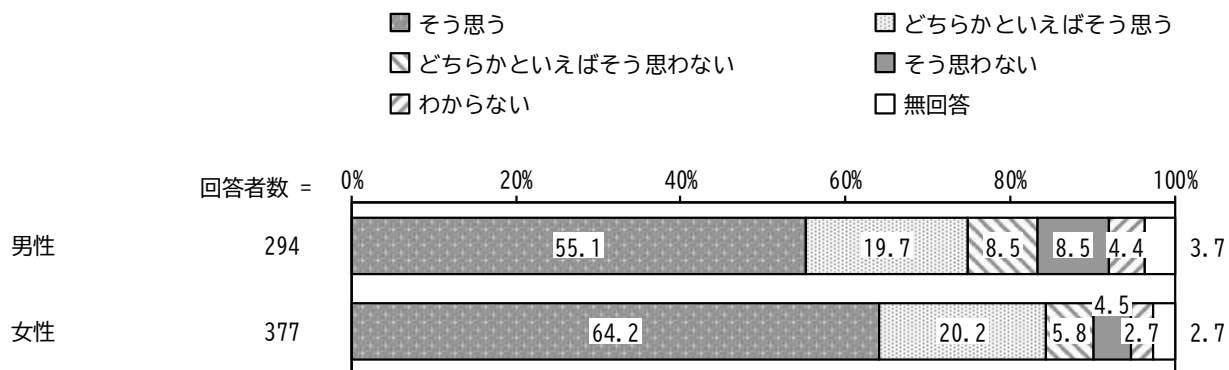
【府調査比較】

大阪府調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」の割合が低くなっています。



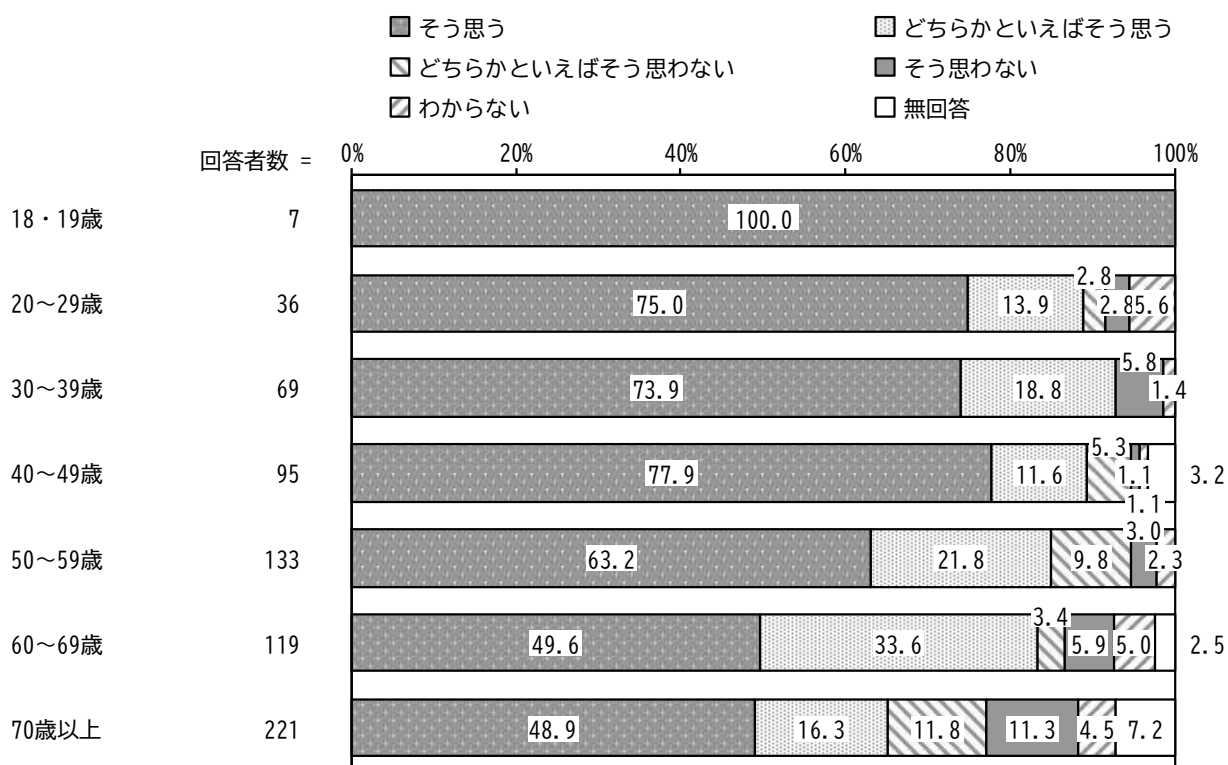
【性別】

性別にみると、“そう思う”の割合が女性で高くなっています。



【年齢別】

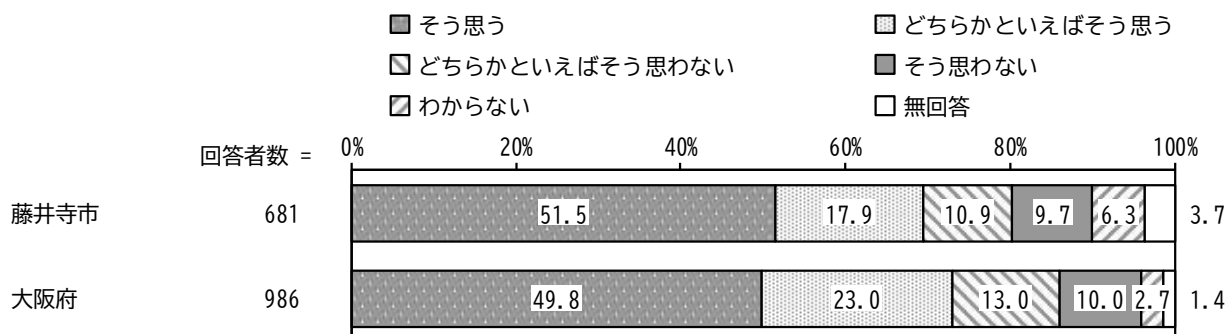
年齢別にみると、“そう思う”の割合が30～39歳から70歳以上にかけて低くなっています。



2. 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

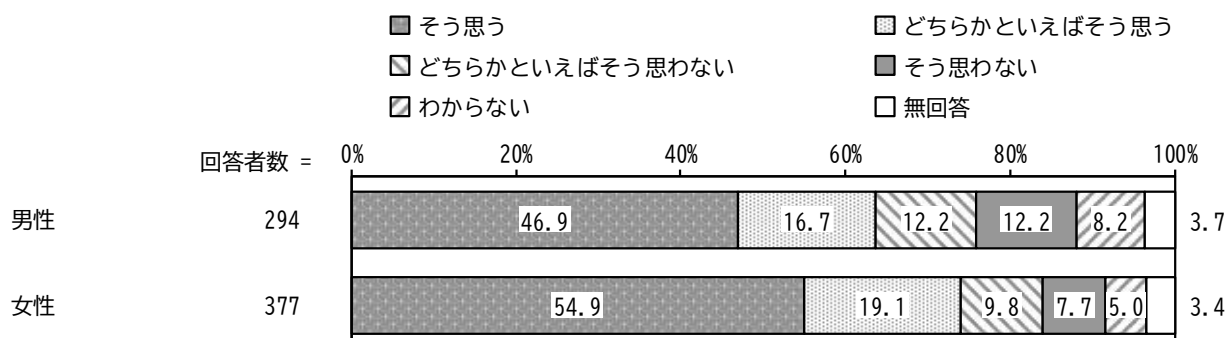
【府調査比較】

大阪府調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」の割合が低くなっています。



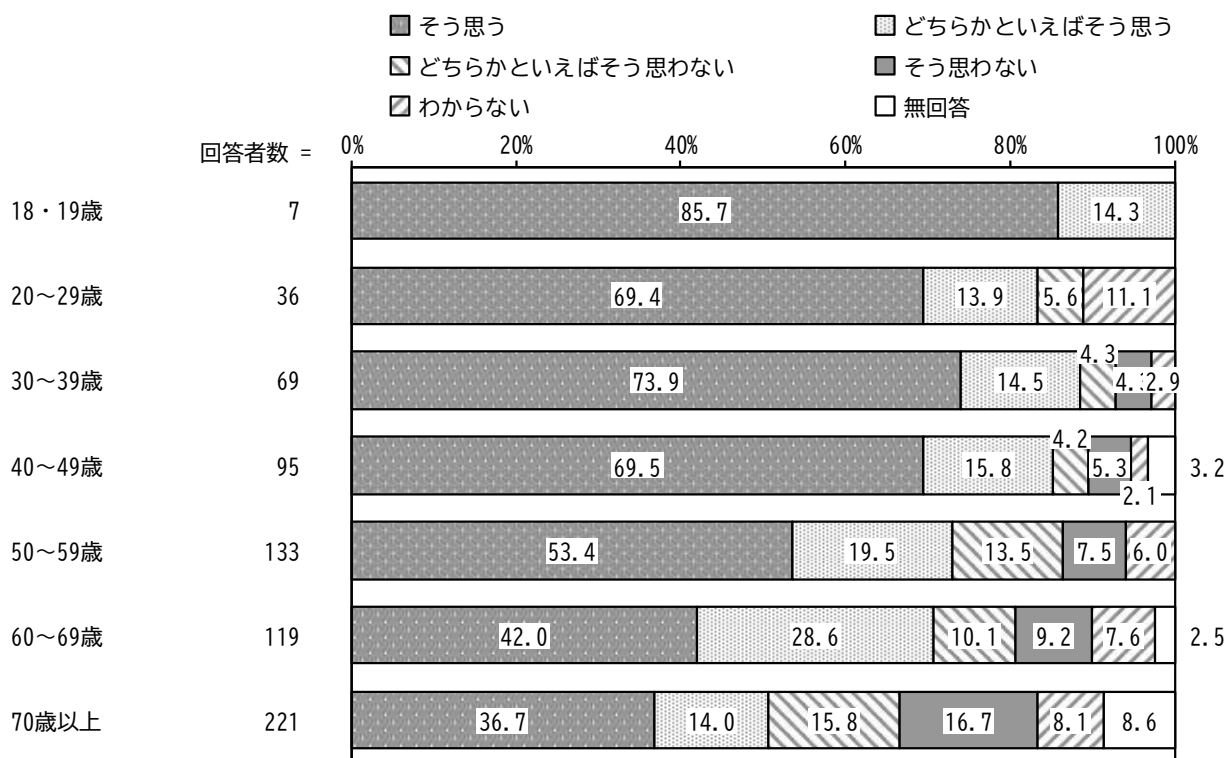
【性別】

性別にみると、“そう思う”の割合が女性で高くなっています。



【年齢別】

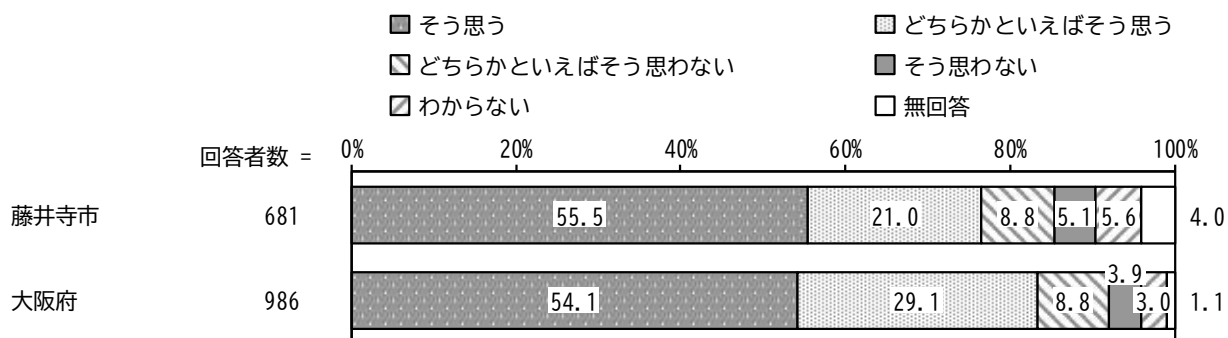
年齢別にみると、“そう思う”の割合が30～39歳から70歳以上にかけて低くなっています。



3. 離婚という選択をしてもよい

【府調査比較】

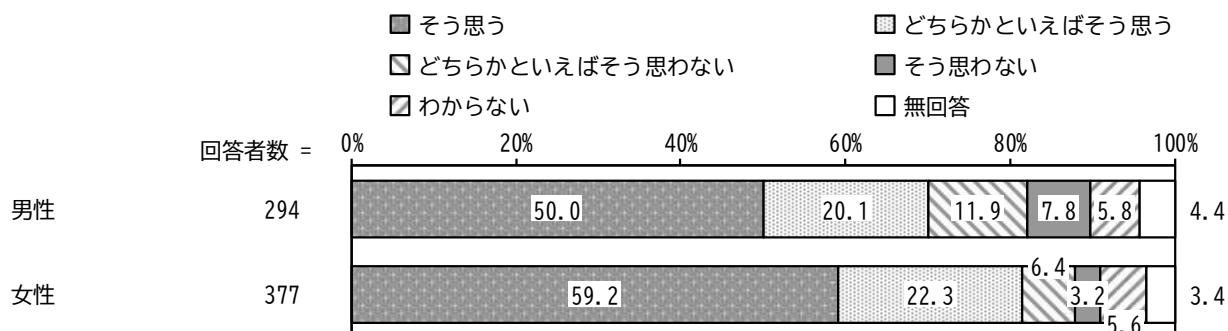
大阪府調査と比較すると、“そう思う”の割合が低くなっています。



※府調査では、項目が『結婚してもうまいかいないときは離婚すればよい』となっていました。

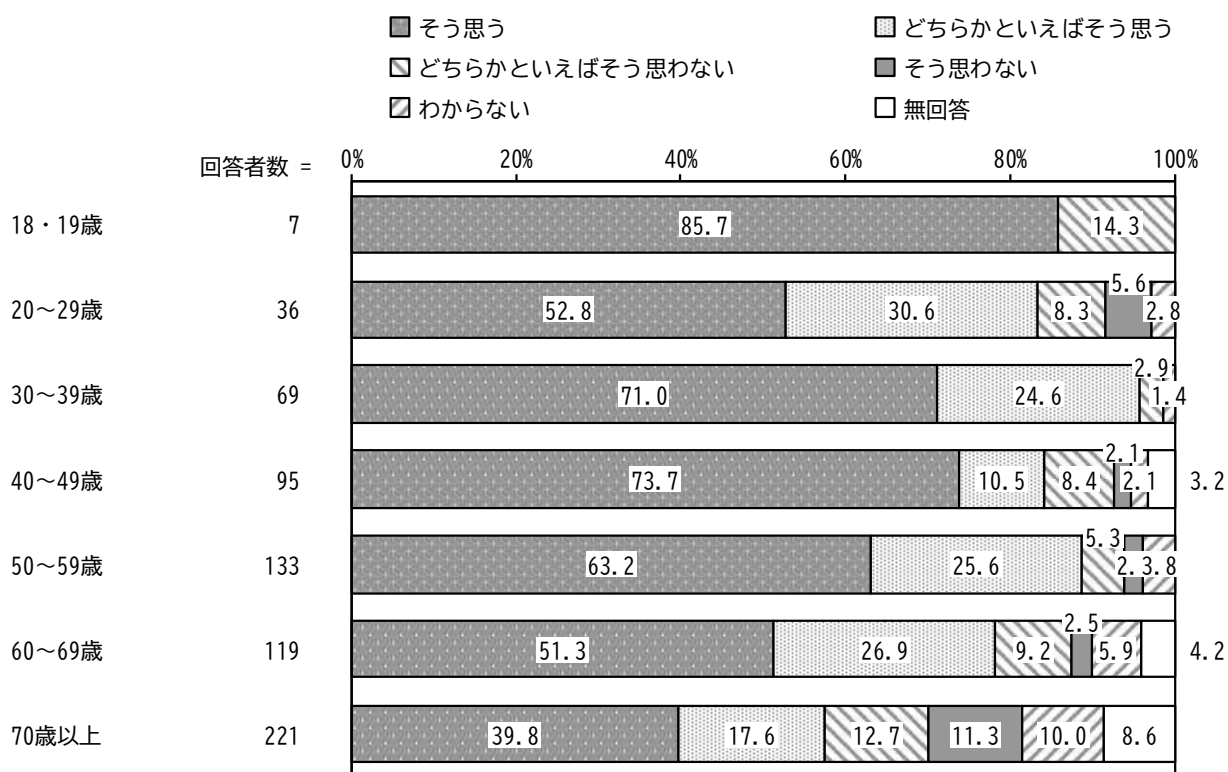
【性別】

性別にみると、“そう思う”の割合が女性で高くなっています。



【年齢別】

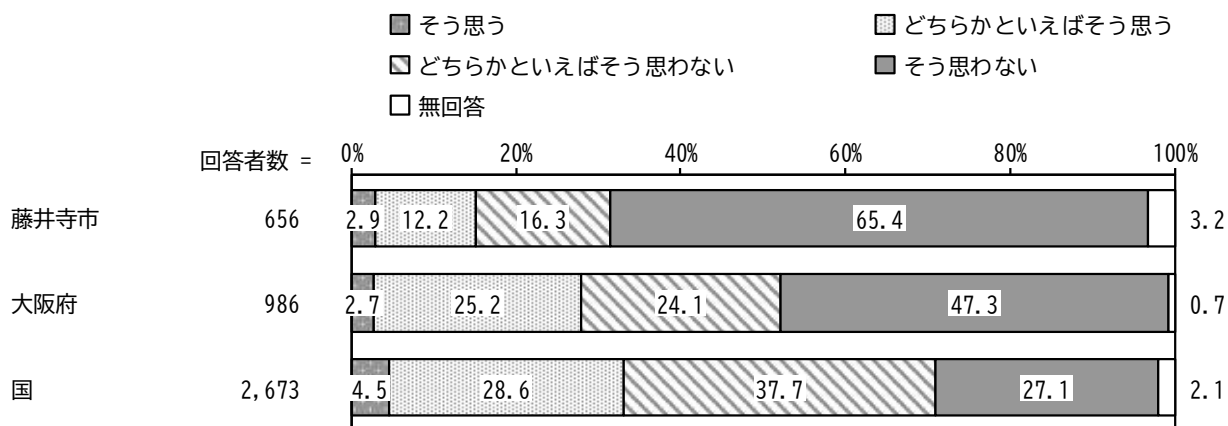
年齢別にみると、“そう思う”の割合が50～59歳から70歳以上にかけて低くなる傾向にあります。



4. 「男は仕事、女は家庭」に同感だ

【府・国調査比較 参考】

大阪府調査、国調査と比較すると、“そう思う”の割合が低くなっています。

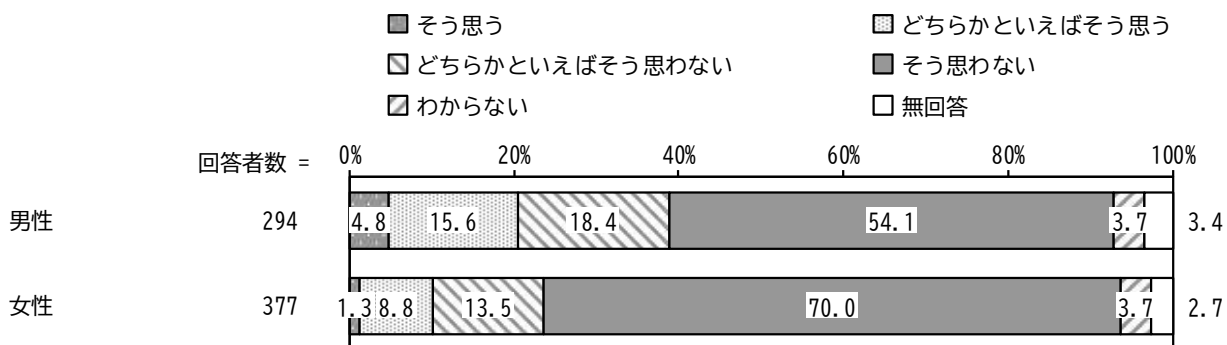


※府・国調査の選択肢と一致するように、「わからない」を除いた集計で比較をしています。

国調査では、『「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。』という問になっており、選択肢は「そう思う」が「賛成」、「どちらかといえばそう思う」が「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえばそう思わない」が「どちらかといえば反対」、「そう思わない」が「反対」となっていました。

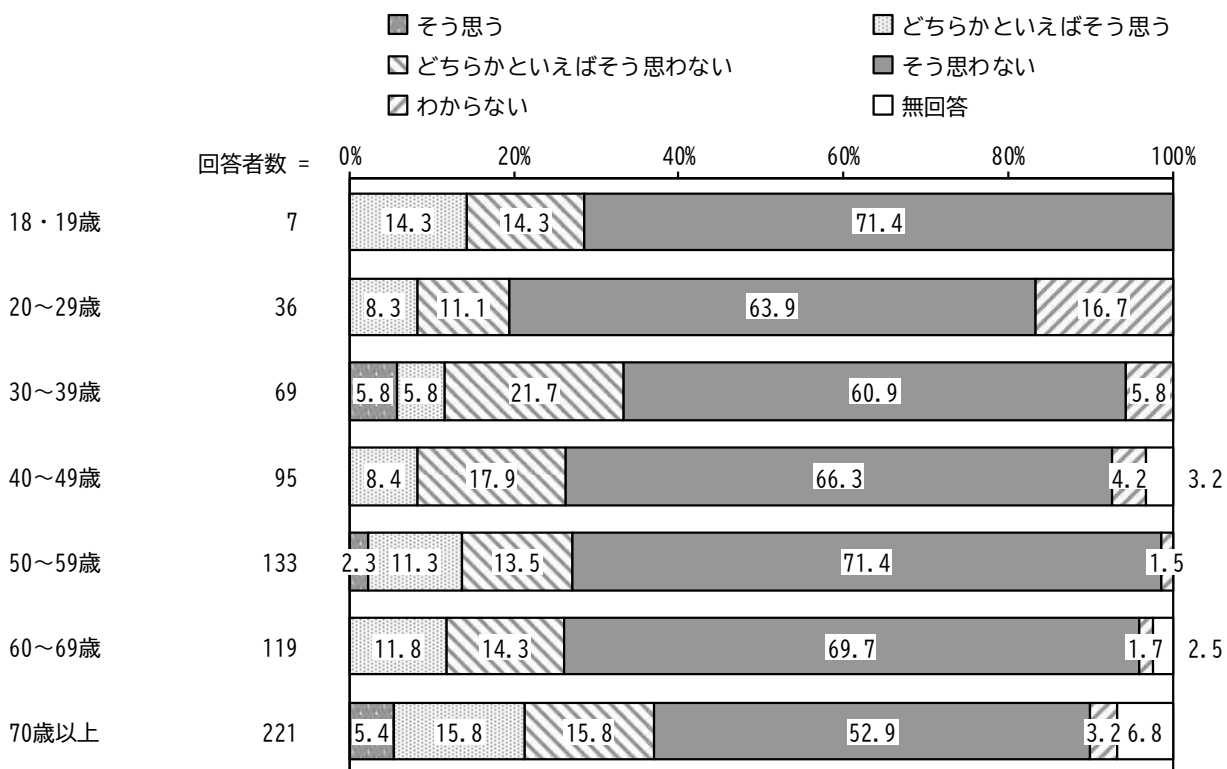
【性別】

性別にみると、“そう思う”の割合が男性で高くなっています。



【年齢別】

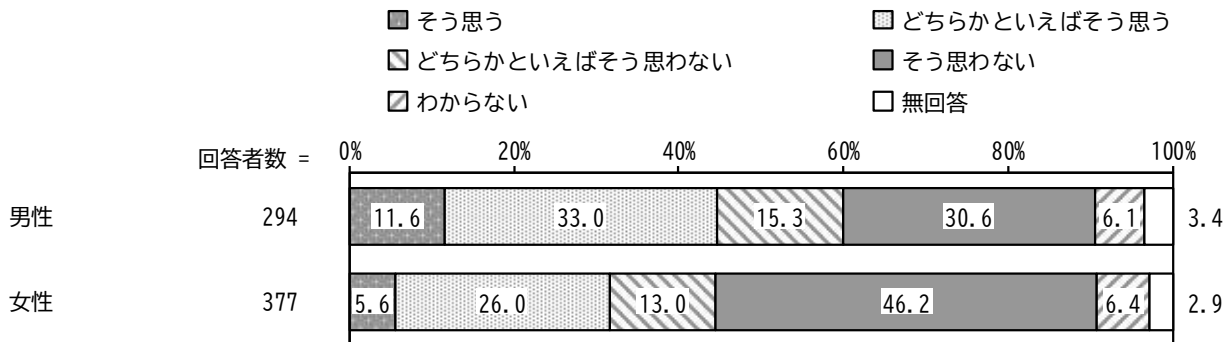
年齢別にみると、“そう思う”の割合が40～49歳から70歳以上にかけて高くなる傾向にあります。



5. 子育てや介護は、男性より女性の方が適している

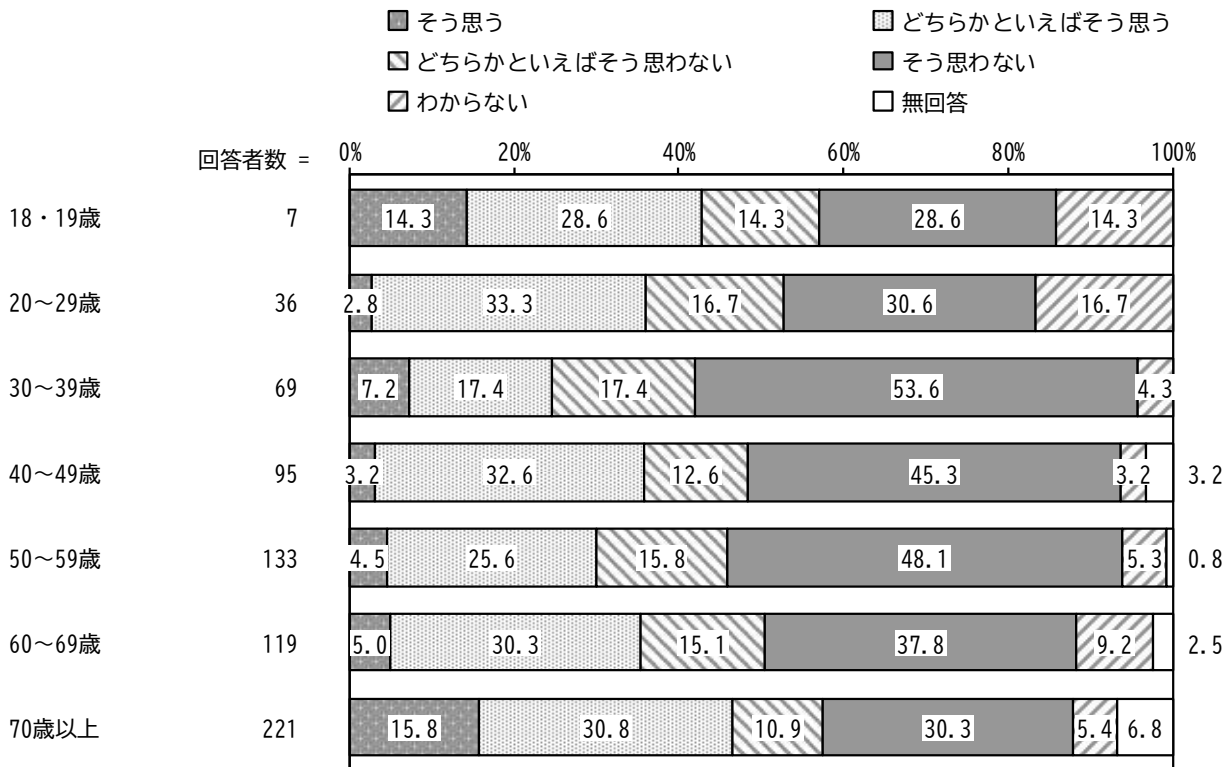
【性別】

性別にみると、“そう思う”の割合が男性で高くなっています。



【年齢別】

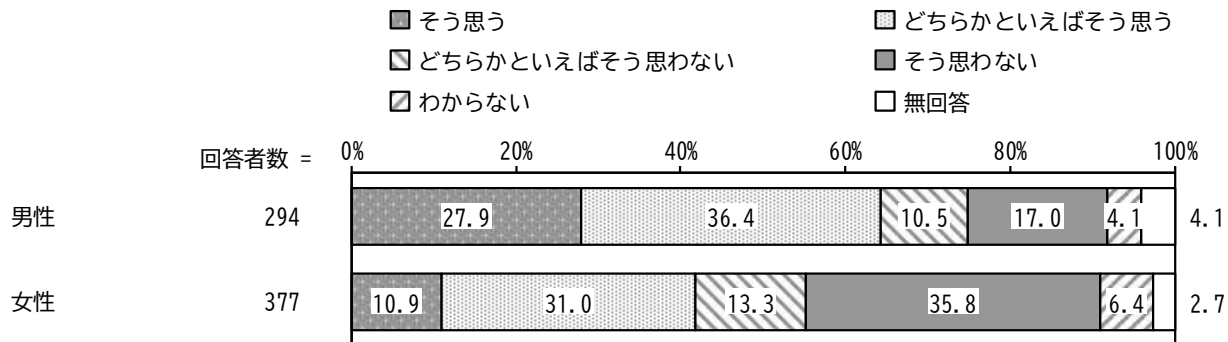
年齢別にみると、“そう思う”の割合が50～59歳から70歳以上にかけて高くなる傾向にあります。



6. 妻や子どもを養うのは「男の責任」である

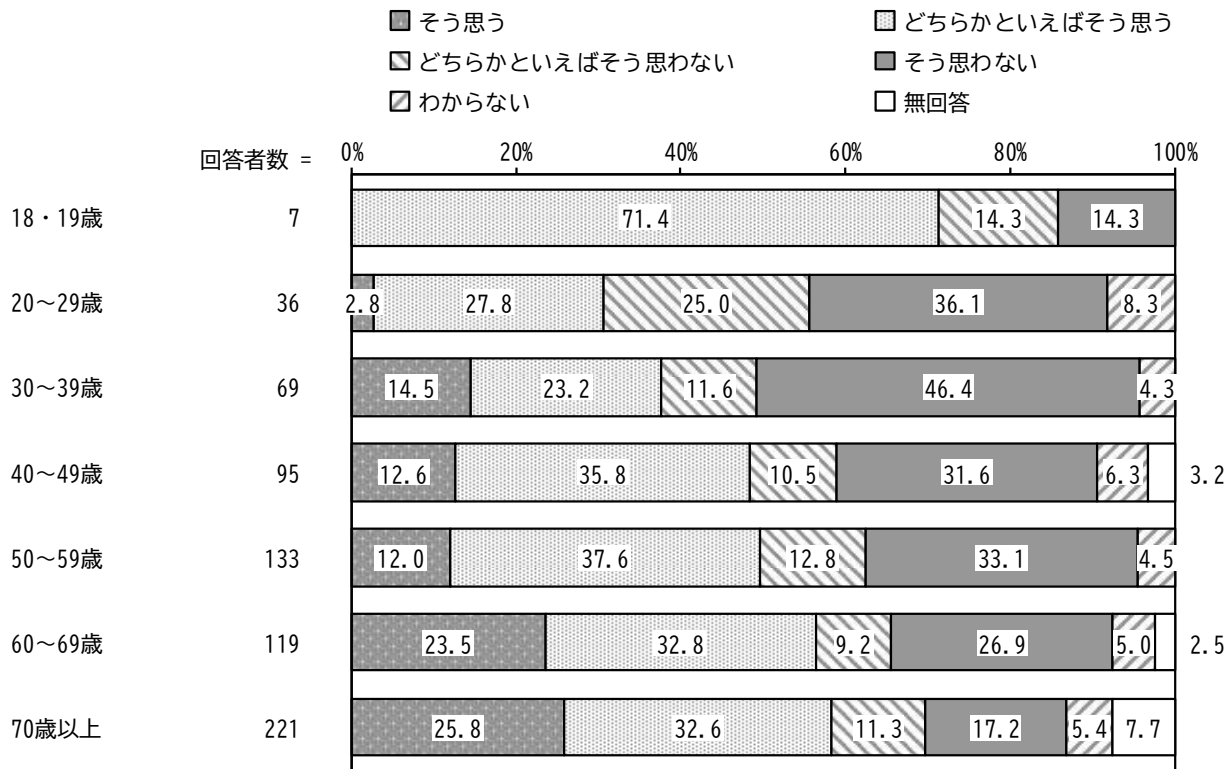
【性別】

性別にみると、“そう思う”の割合が男性で高くなっています。



【年齢別】

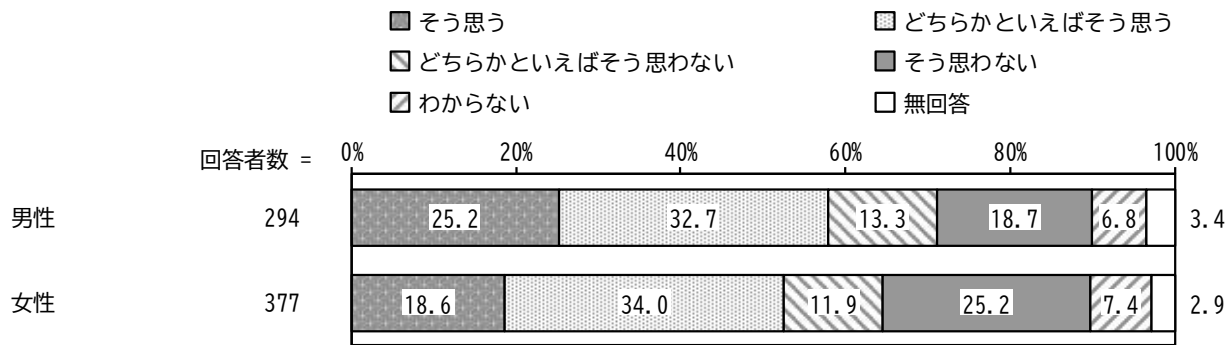
年齢別にみると、“そう思う”の割合が20～29歳から70歳以上にかけて高くなっています。



7. 子どもが小さい間（3歳くらいまで）は母親が子育てに専念する方がよい

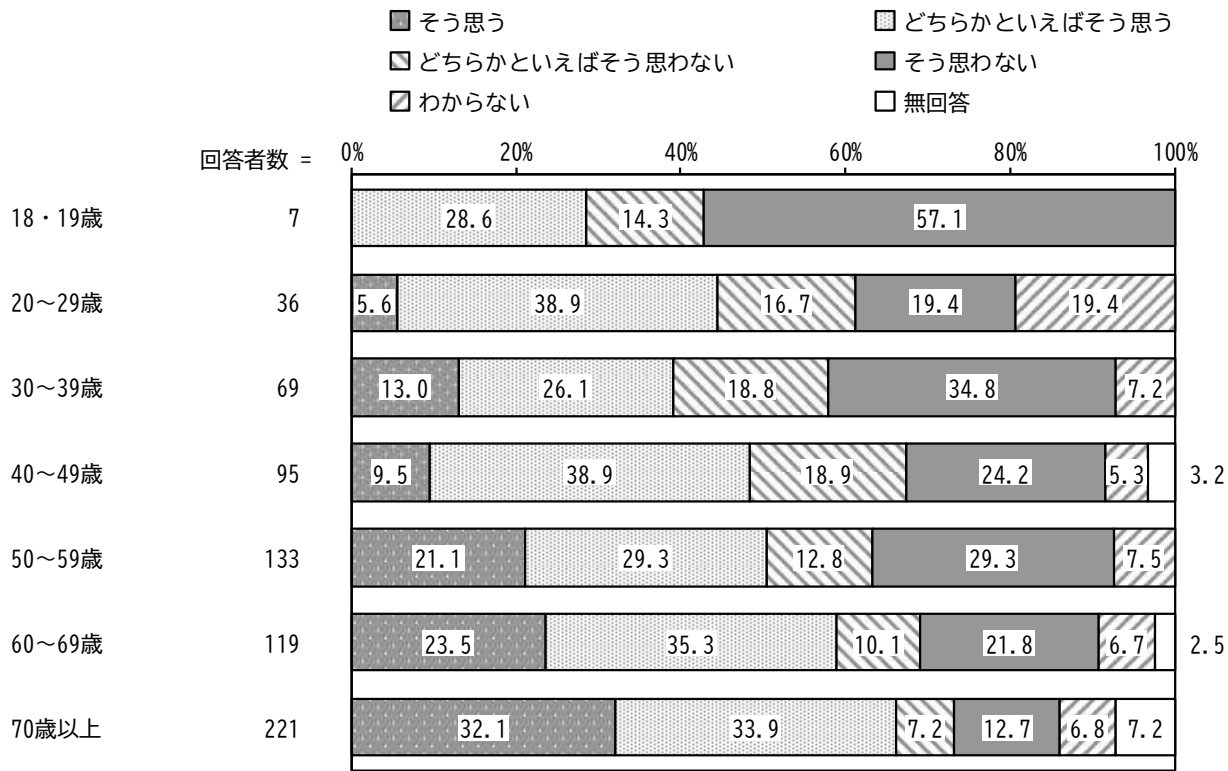
【性別】

性別にみると、“そう思う”の割合が男性で高くなっています。



【年齢別】

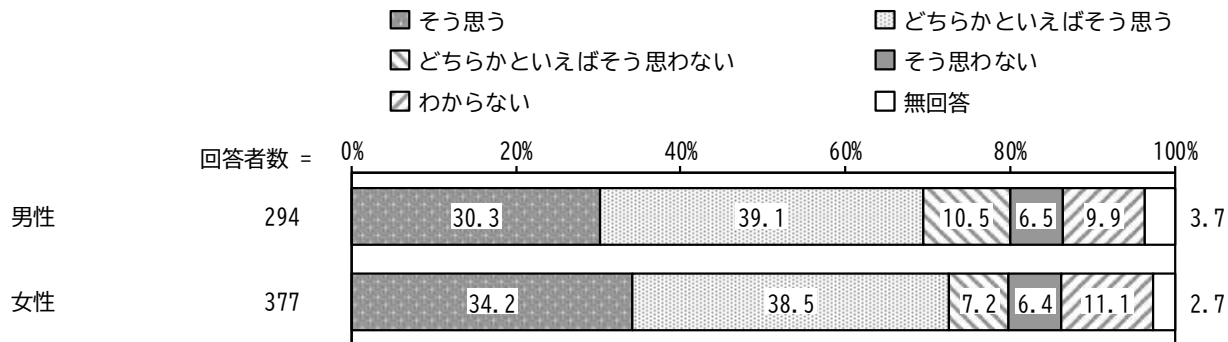
年齢別にみると、“そう思う”の割合が30～39歳から70歳以上にかけて高くなっています。



8. 結婚や出産に関わらず、女性も仕事を辞めずに続ける方がよい

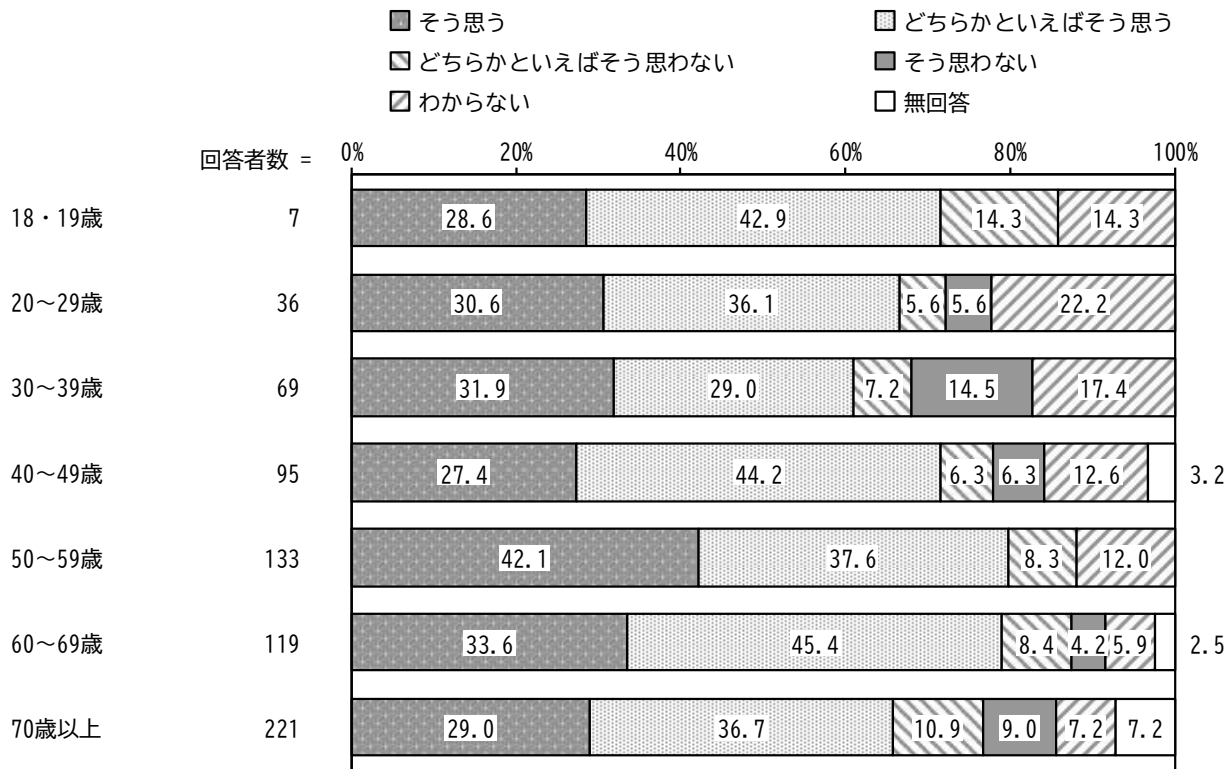
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年齢別】

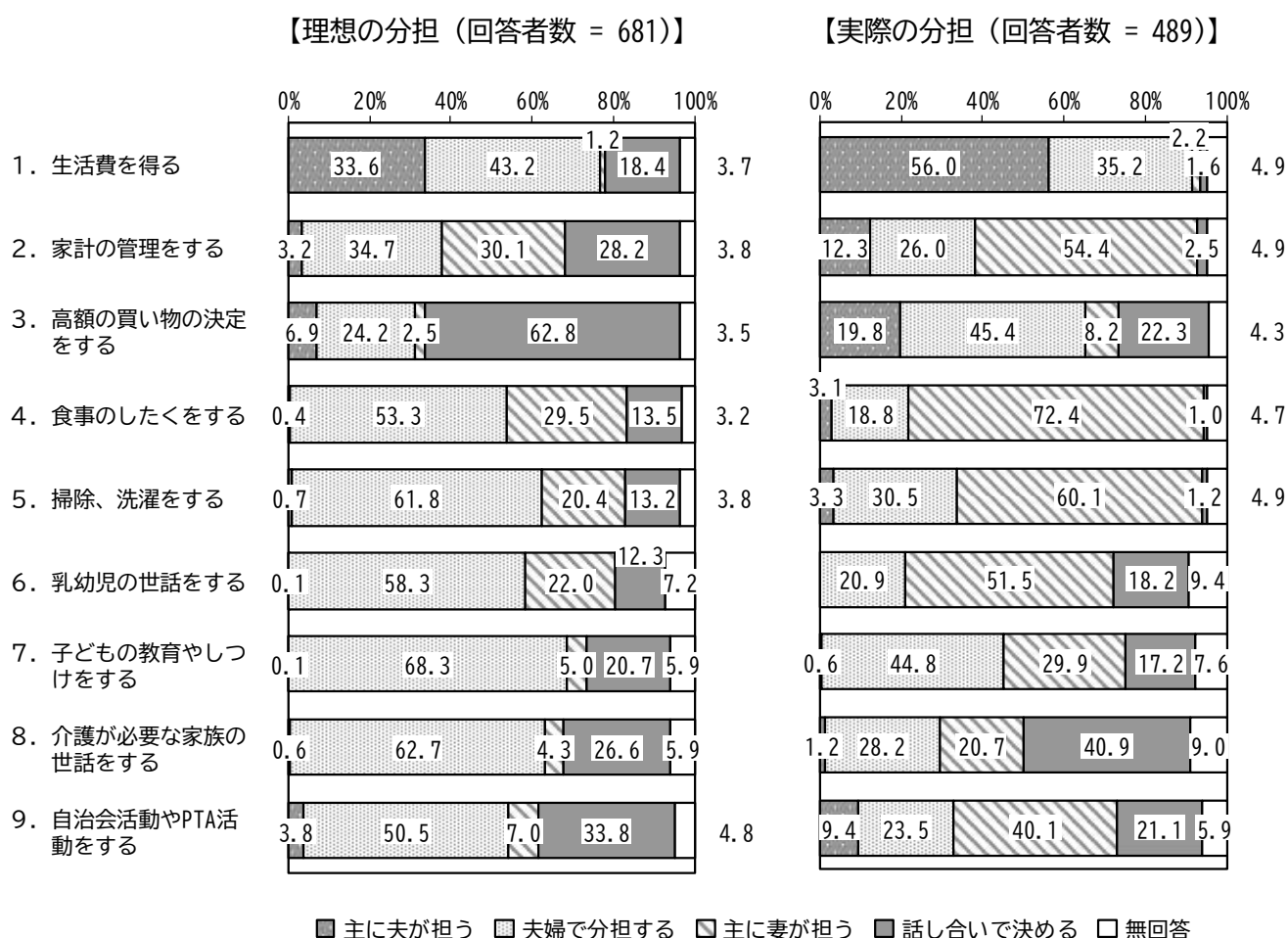
年齢別にみると、“そう思う”の割合が30～39歳から50～59歳にかけて高くなる傾向にあります。



問 10. 以下の項目について、家庭では誰が担うのが理想だと思いますか。また、あなたのご家庭では実際にどう分担されていますか。あてはまる番号に○をつけてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

理想の分担では、『1. 生活費を得る』で「主に夫が担う」が、『7. 子どもの教育やしつけをする』で「夫婦で分担する」が、『2. 家計の管理をする』で「主に妻が担う」が、『3. 高額の買い物の決定をする』で「話し合いで決める」が高くなっています。

実際の分担では、『1. 生活費を得る』で「主に夫が担う」が、『7. 子どもの教育やしつけをする』で「夫婦で分担する」が、『2. 家計の管理をする』で「主に妻が担う」が、『3. 高額の買い物の決定をする』で「話し合いで決める」が高くなっています。

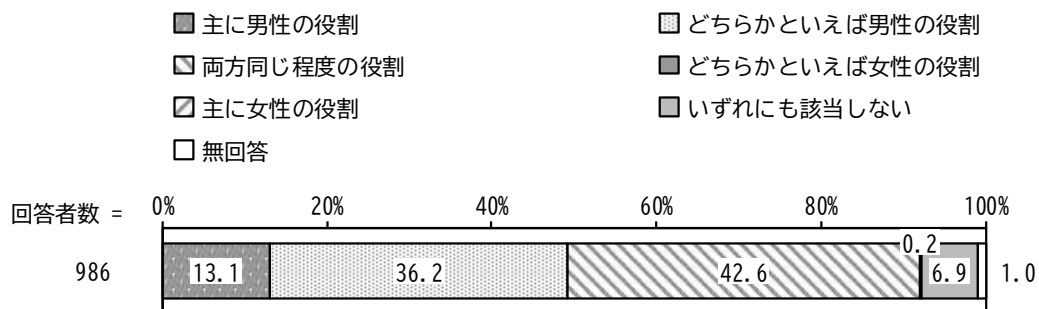


※実際の分担は、配偶者・パートナーがいる人のみ回答。

1. 生活費を得る

理想の分担

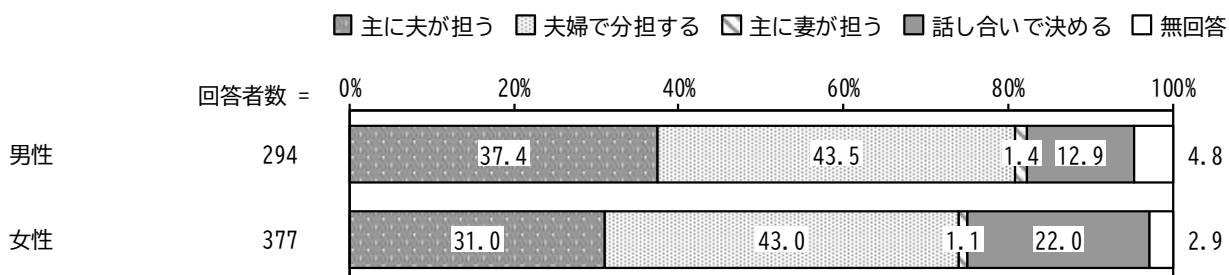
【府調査 参考】



※選択肢が異なるため、参考として掲載しています。

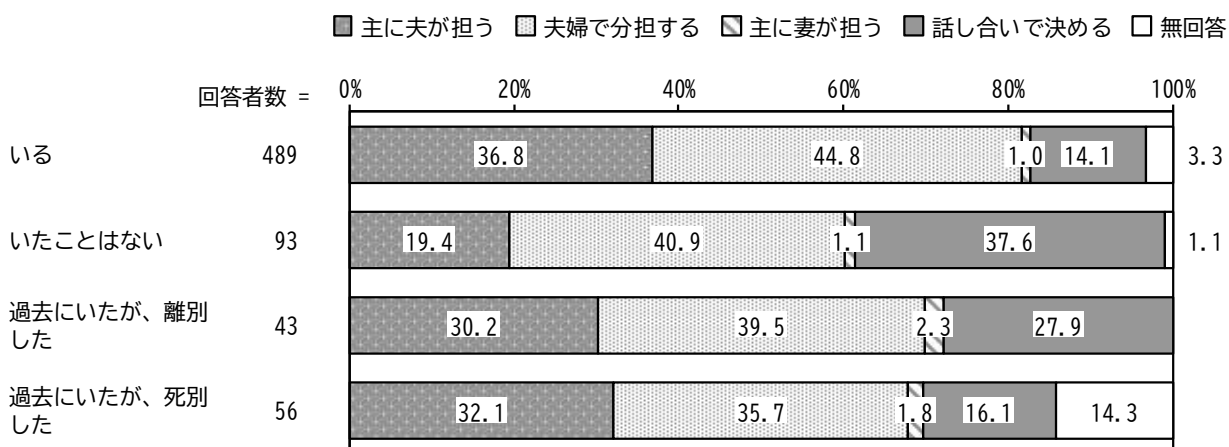
【性別】

性別にみると、「主に夫が担う」の割合が男性で高くなっています。



【パートナーの有無別】

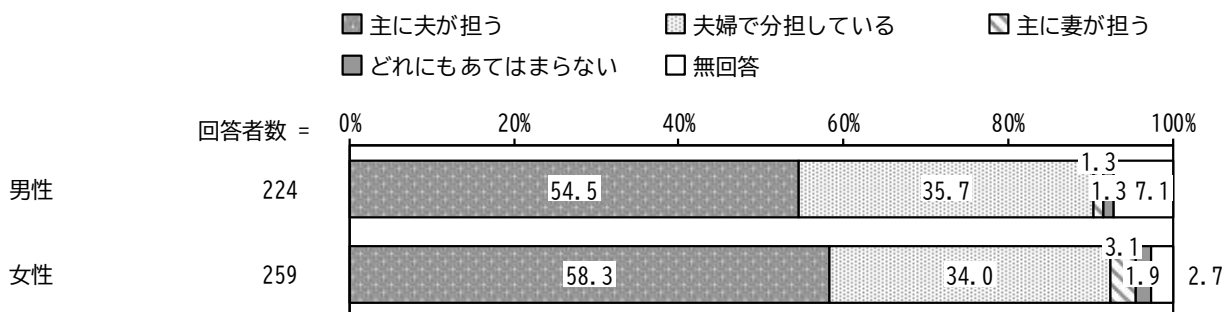
パートナーの有無別にみると、「主に夫が担う」の割合が『いたことはない』で低くなっています。



実際の分担

【性別】

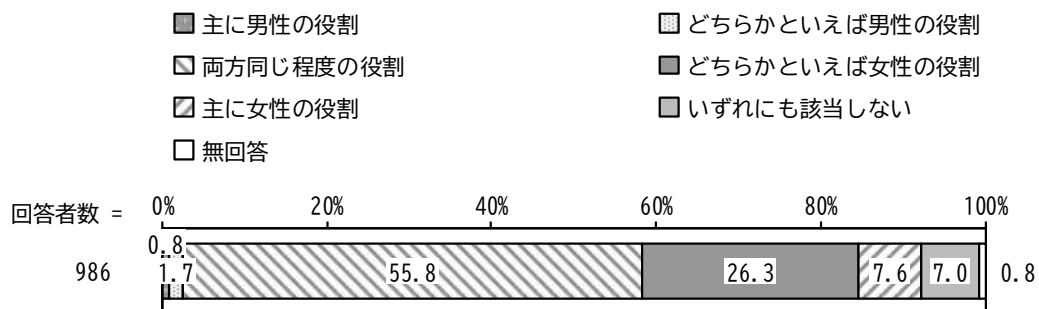
性別にみると、大きな差はみられません。



2. 家計の管理をする

理想の分担

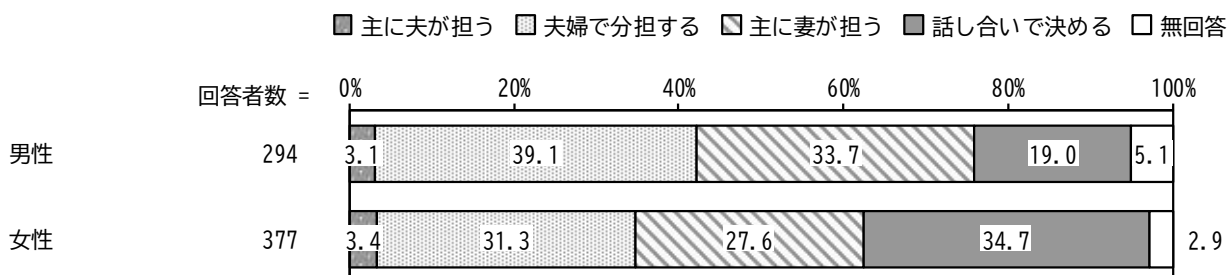
【府調査 参考】



※選択肢が異なるため、参考として掲載しています。

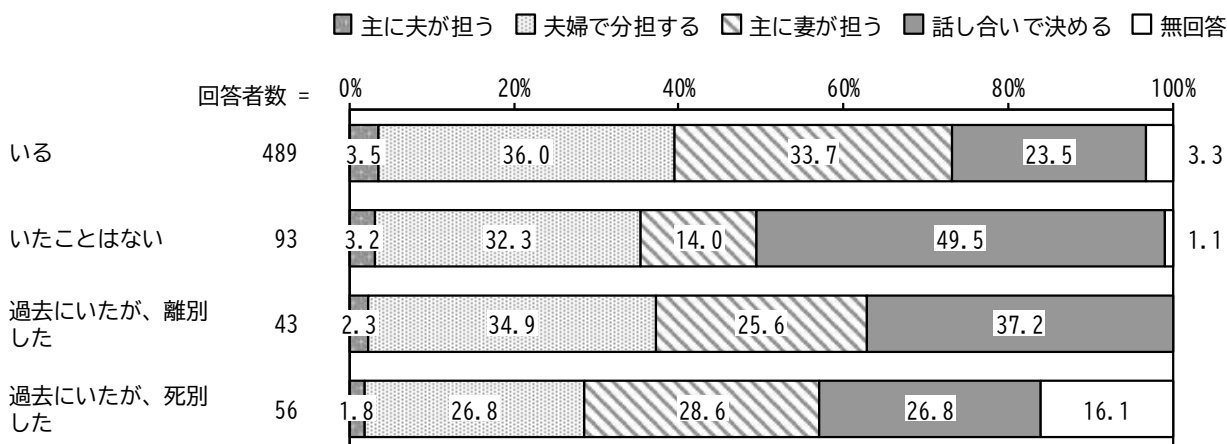
【性別】

性別にみると、「夫婦で分担する」、「主に妻が担う」の割合が男性で高くなっています。



【パートナーの有無別】

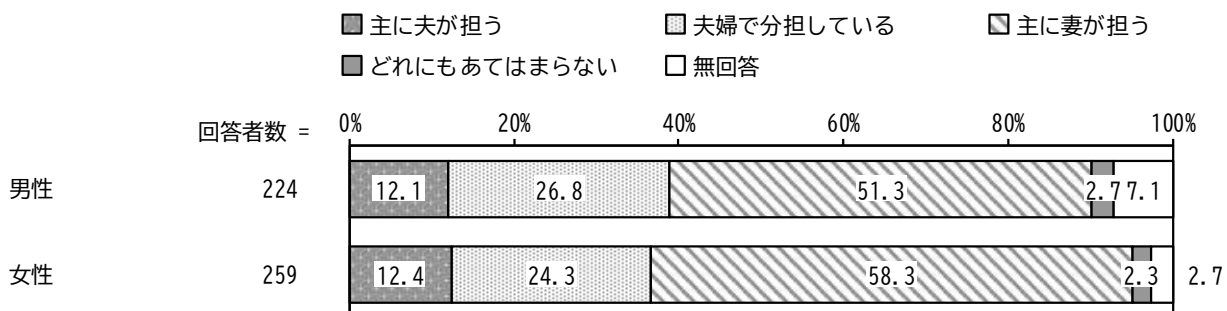
パートナーの有無別にみると、「夫婦で分担する」の割合が『過去にいたが、死別した』で低く、「主に妻が担う」の割合が『いる』で高くなっています。



実際の分担

【性別】

性別にみると、「主に妻が担う」の割合が女性で高くなっています。

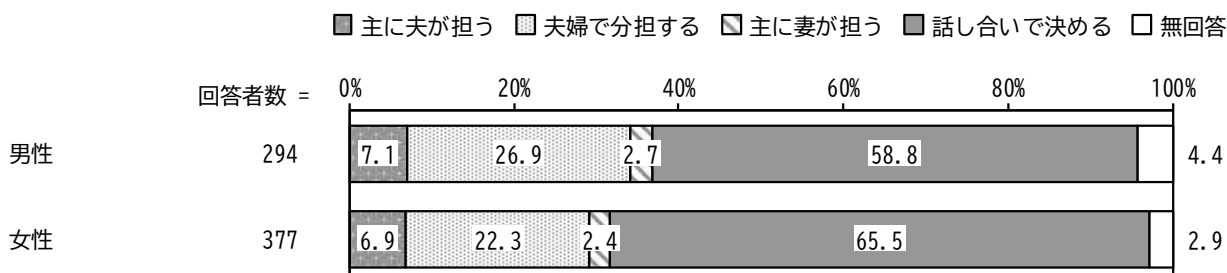


3. 高額の買い物の決定をする

理想の分担

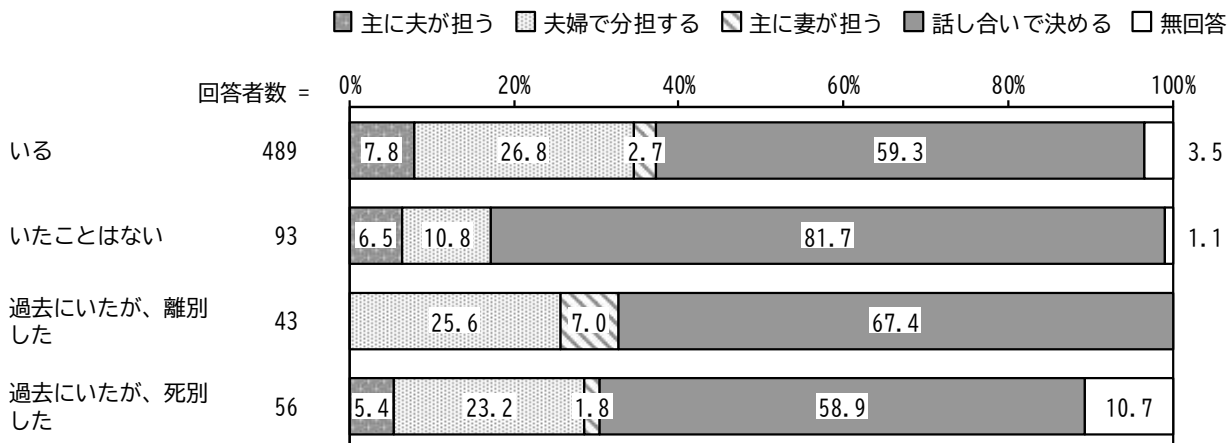
【性別】

性別にみると、「話し合いで決める」の割合が女性で高くなっています。



【パートナーの有無別】

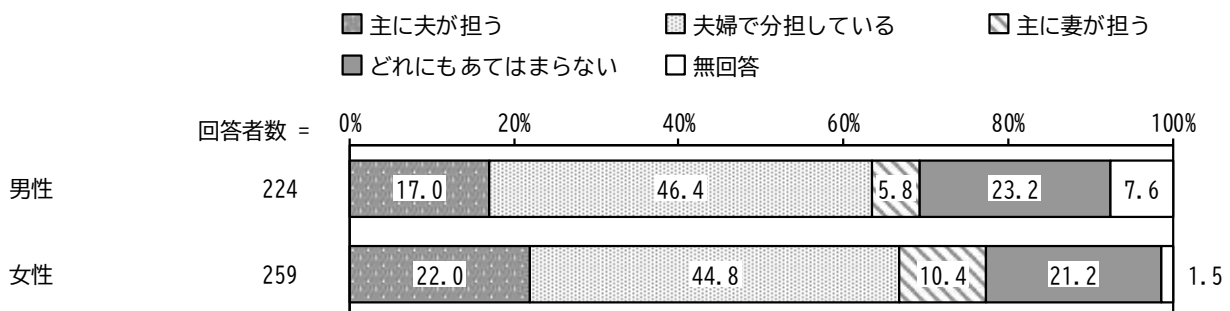
パートナーの有無別にみると、「夫婦で分担する」の割合が『いたことはない』で低くなっています。



実際の分担

【性別】

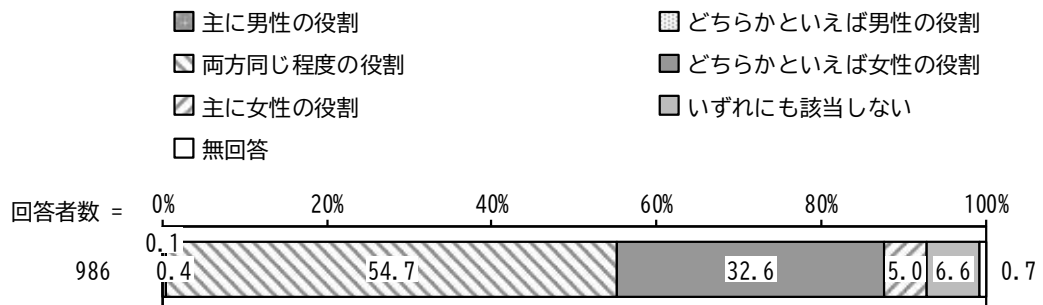
性別にみると、「主に夫が担う」の割合が女性で高くなっています。



4. 食事のしたくをする

理想の分担

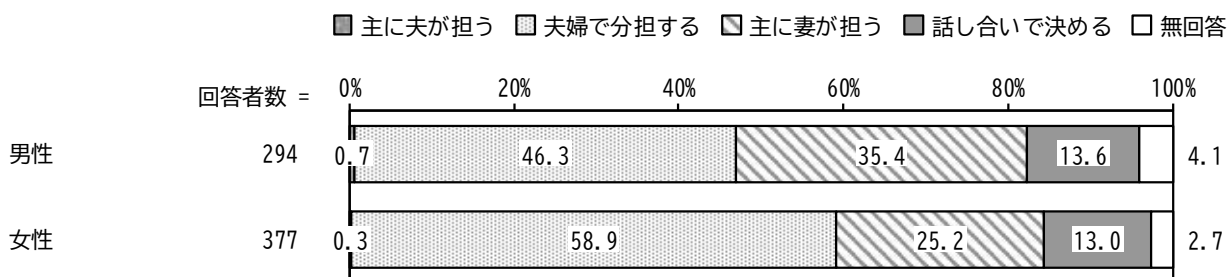
【府調査 参考】



※選択肢が異なるため、参考として掲載しています。
府調査では、項目が『日常の家事（炊事）』となっていました。

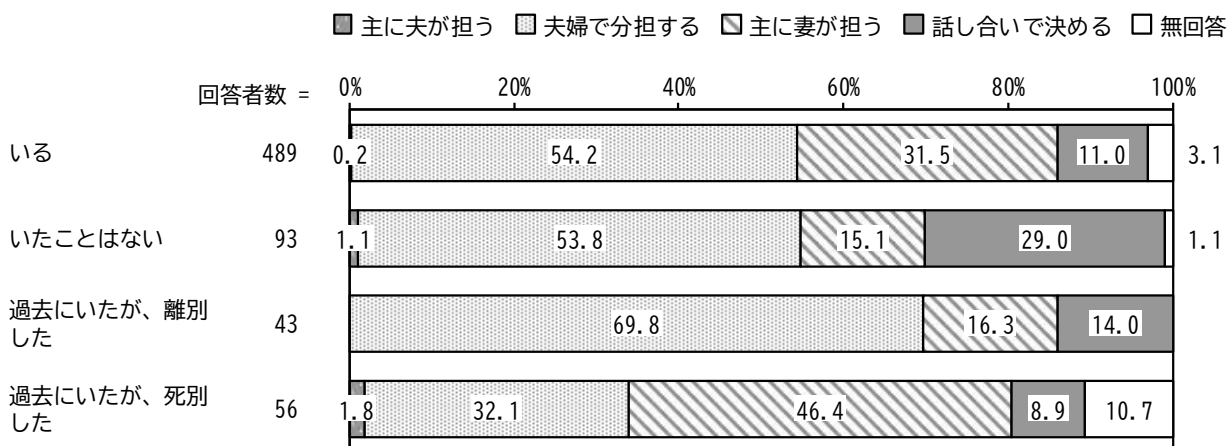
【性別】

性別にみると、「主に妻が担う」の割合が男性で高くなっています。



【パートナーの有無別】

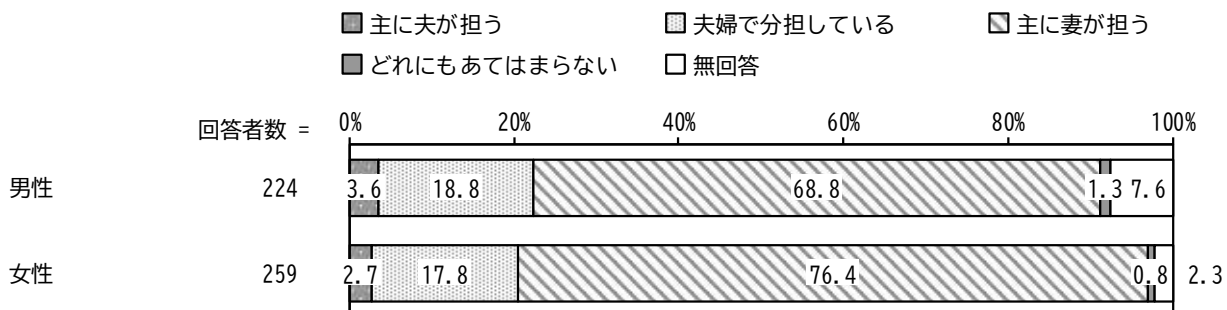
パートナーの有無別にみると、「夫婦で分担する」の割合が『過去にいたが、離別した』で高く、「話し合いで決める」の割合が『いたことはない』で高くなっています。



実際の分担

【性別】

性別にみると、「主に妻が担う」の割合が女性で高くなっています。

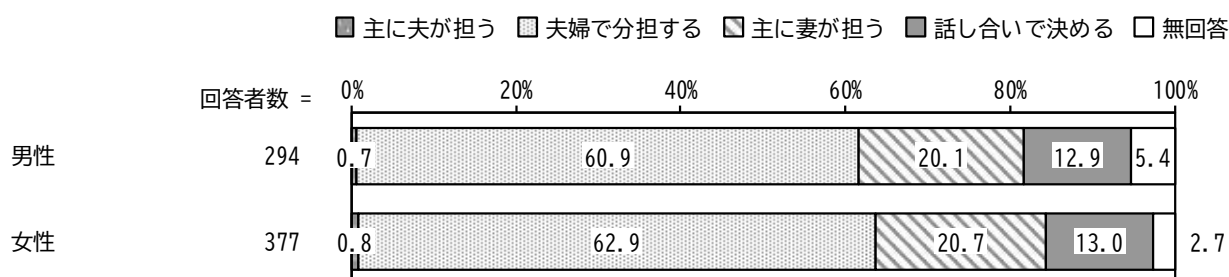


5. 掃除、洗濯をする

理想の分担

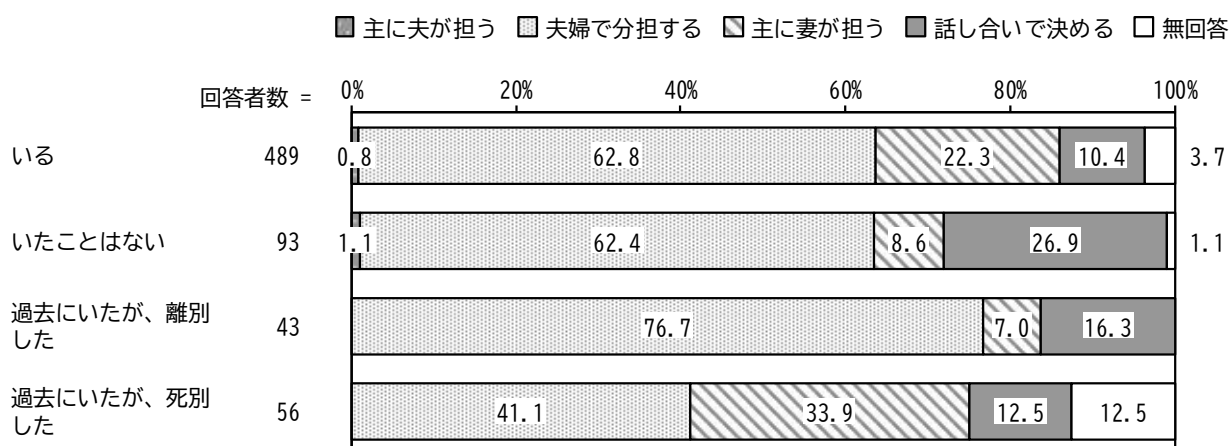
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【パートナーの有無別】

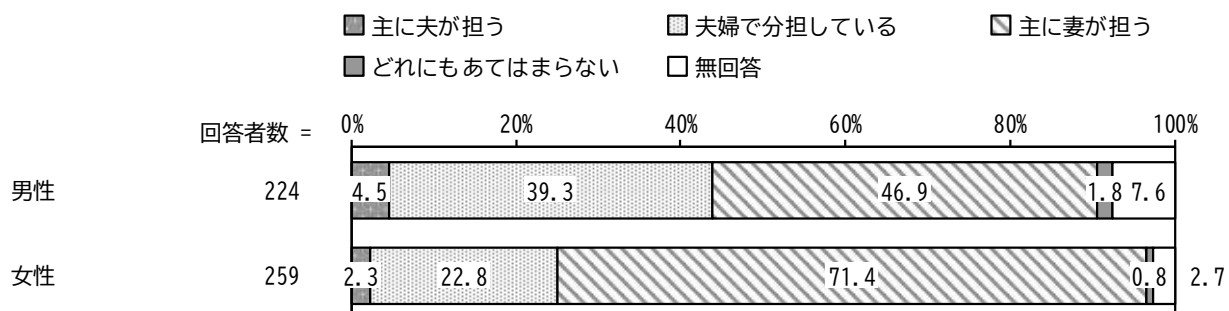
パートナーの有無別にみると、「夫婦で分担する」の割合が『過去にいたが、離別した』で低く、「話し合いで決める」の割合が『いたことはない』で高くなっています。



実際の分担

【性別】

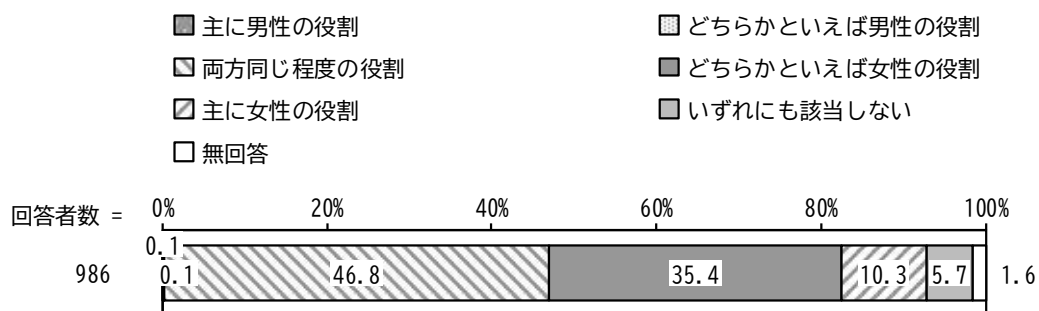
性別にみると、「夫婦で分担している」の割合が男性で、「主に妻が担う」の割合が女性で高くなっています。



6. 乳幼児の世話をする

理想の分担

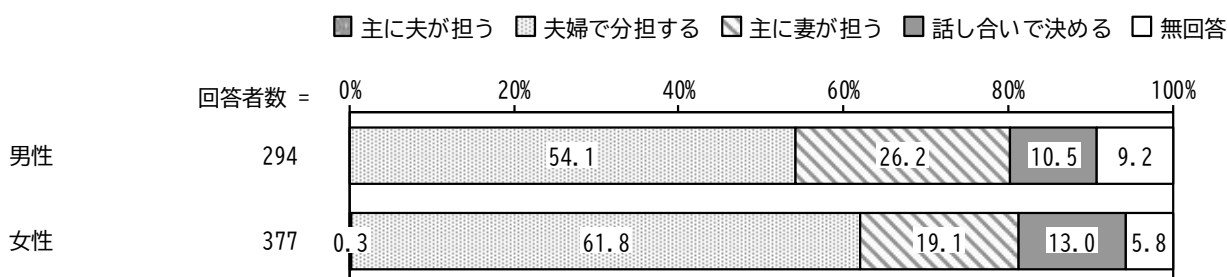
【府調査 参考】



※選択肢が異なるため、参考として掲載しています。

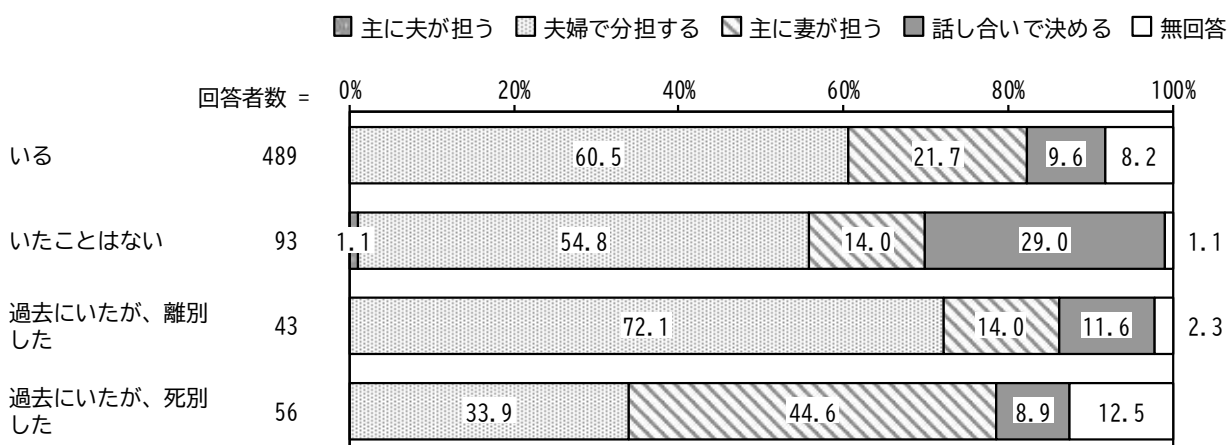
【性別】

性別にみると、「主に妻が担う」の割合が男性で高くなっています。



【パートナーの有無別】

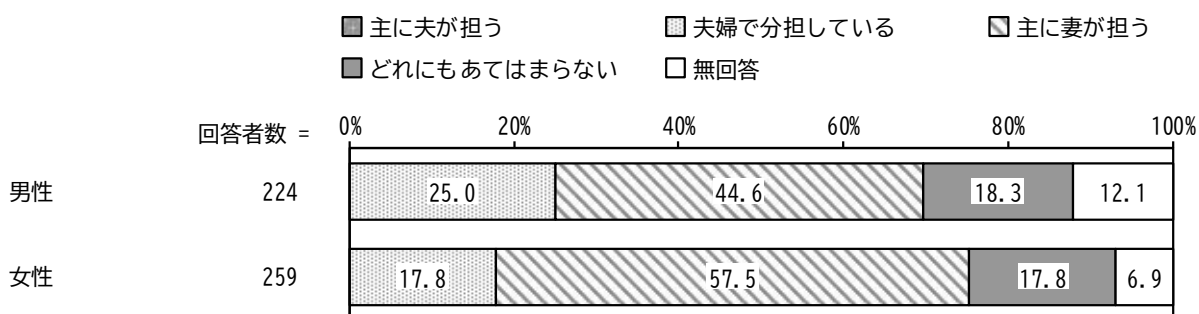
パートナーの有無別にみると、「主に妻が担う」の割合が『過去にいたが、死別した』で高く、「話し合いで決める」の割合が『いたことはない』で高くなっています。



実際の分担

【性別】

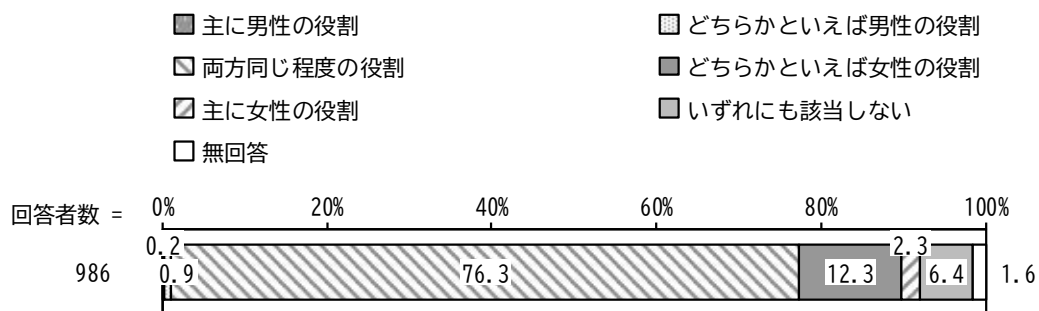
性別にみると、「夫婦で分担している」の割合が男性で、「主に妻が担う」の割合が女性で高くなっています。



7. 子どもの教育やしつけをする

理想の分担

【府調査 参考】

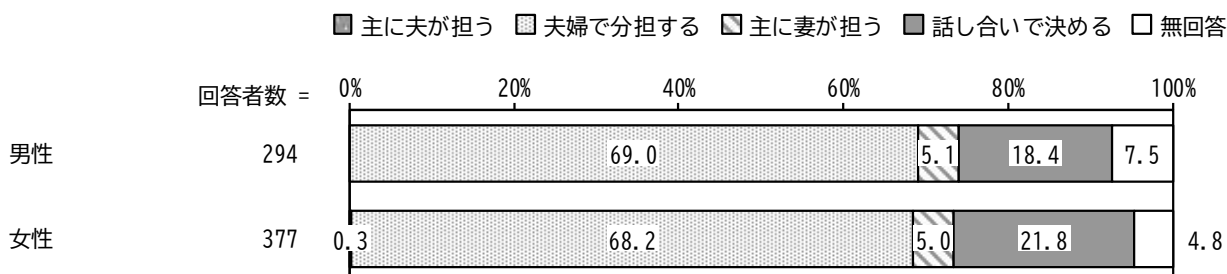


※選択肢が異なるため、参考として掲載しています。

府調査では、項目が『子どもの教育としつけ、学校行事の参加』となっていました。

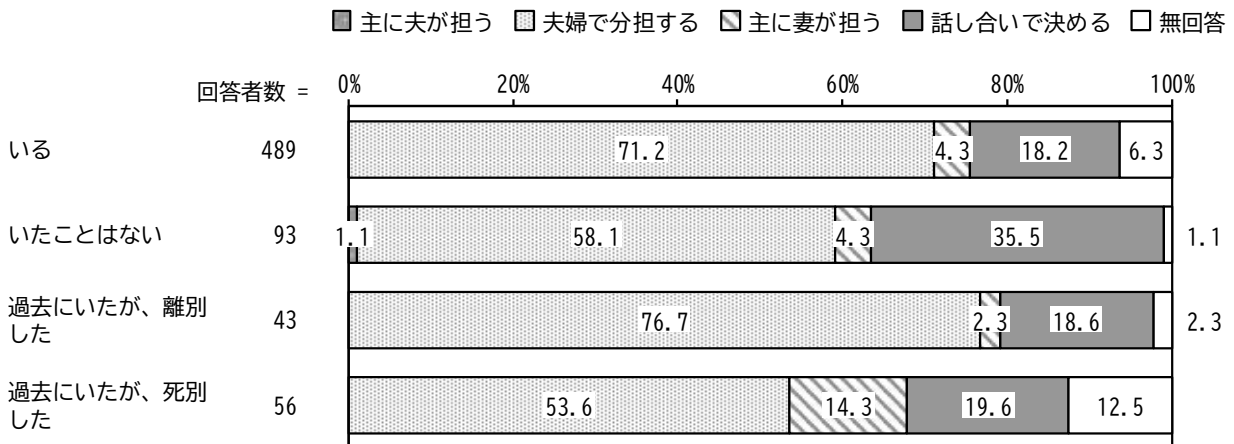
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【パートナーの有無別】

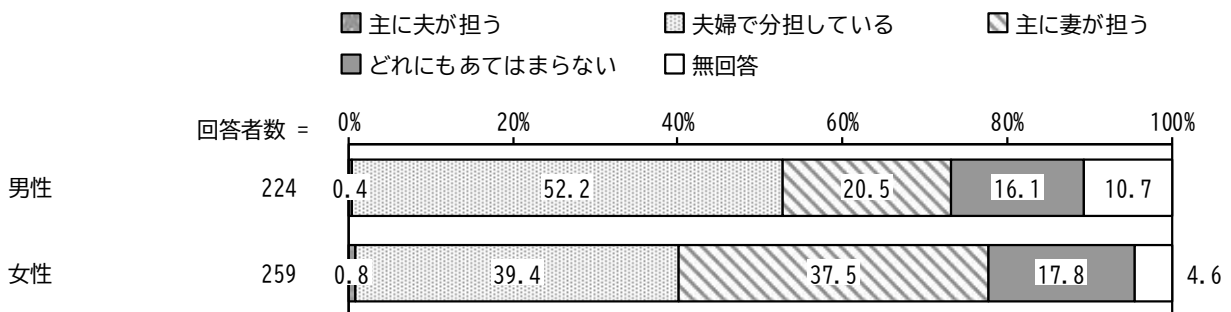
パートナーの有無別にみると、「主に妻が担う」の割合が『いる』『過去にいたが、死別した』で高く、「話し合いで決める」の割合が『いたことはない』で高くなっています。



実際の分担

【性別】

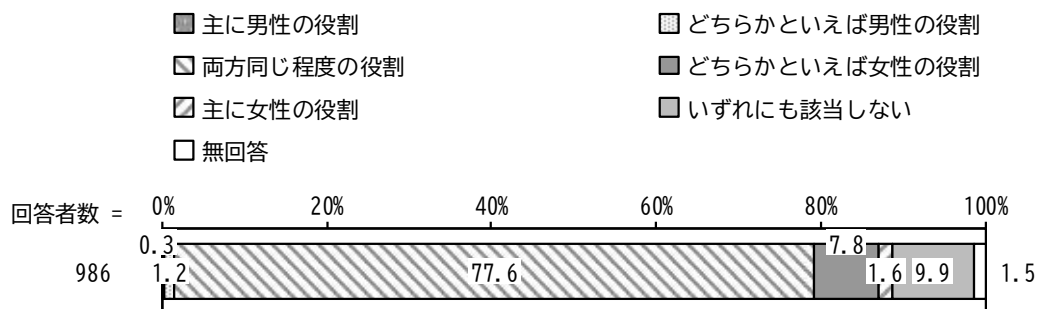
性別にみると、「夫婦で分担している」の割合が男性で、「主に妻が担う」の割合が女性で高くなっています。



8. 介護が必要な家族の世話をする

理想の分担

【府調査 参考】

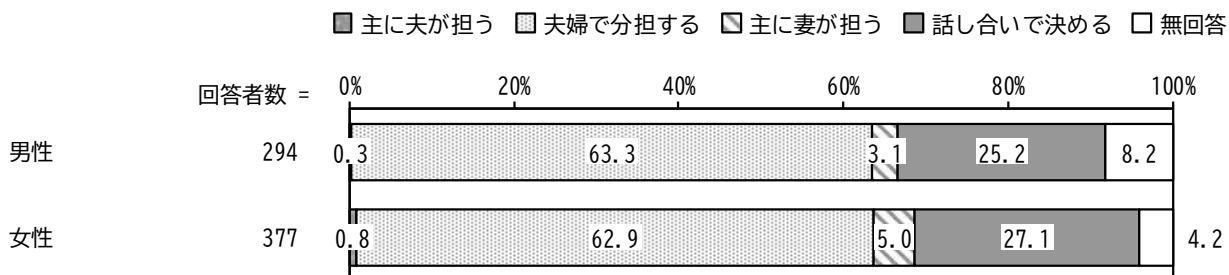


※選択肢が異なるため、参考として掲載しています。

府調査では、項目が『老親や病身者の介護・看護』となっていました。

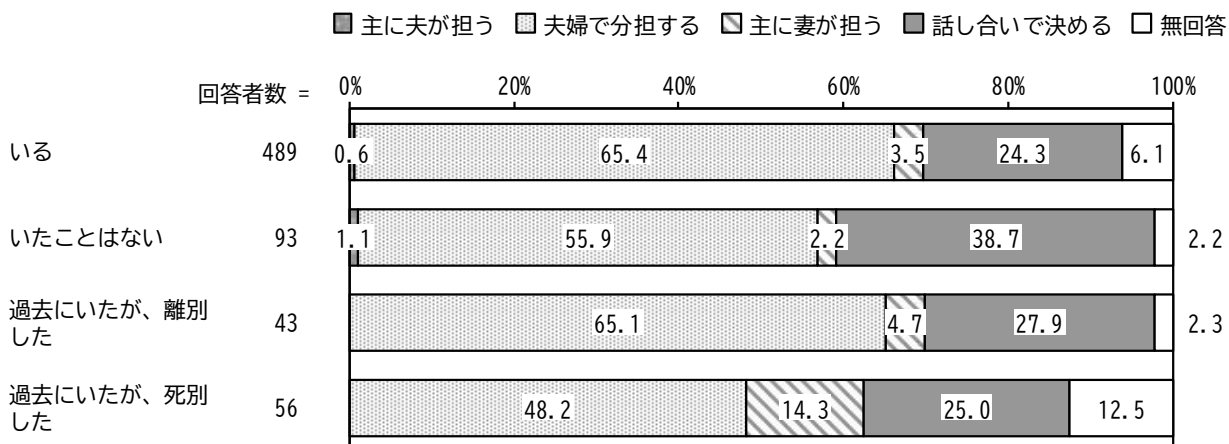
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【パートナーの有無別】

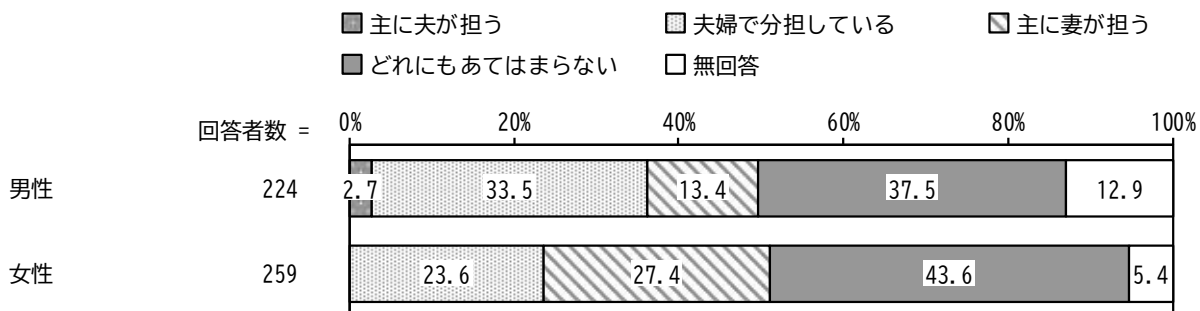
パートナーの有無別にみると、「主に妻が担う」の割合が『過去にいたが、死別した』で高く、「話し合いで決める」の割合が『いたことはない』で高くなっています。



実際の分担

【性別】

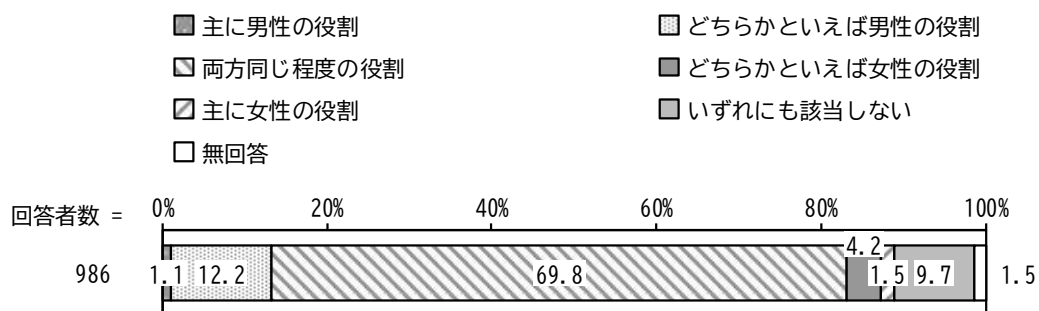
性別にみると、「夫婦で分担している」の割合が男性で、「主に妻が担う」、「どれにもあてはまらない」の割合が女性で高くなっています。



9. 自治会活動や PTA 活動をする

理想の分担

【府調査 参考】

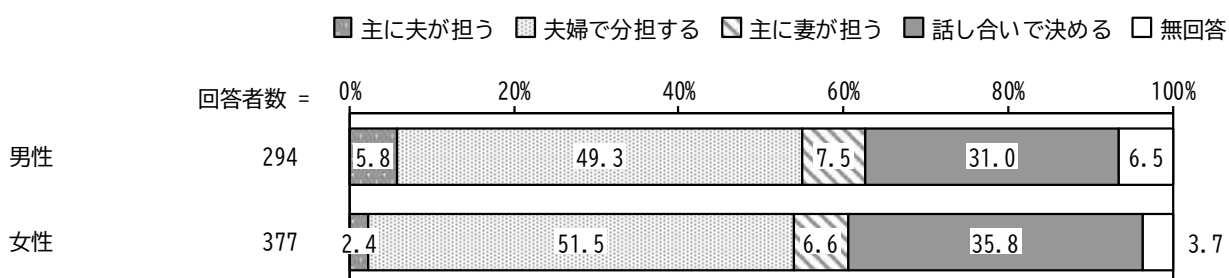


※選択肢が異なるため、参考として掲載しています。

府調査では、項目が『自治会、町内会など地域活動への参加』となっていました。

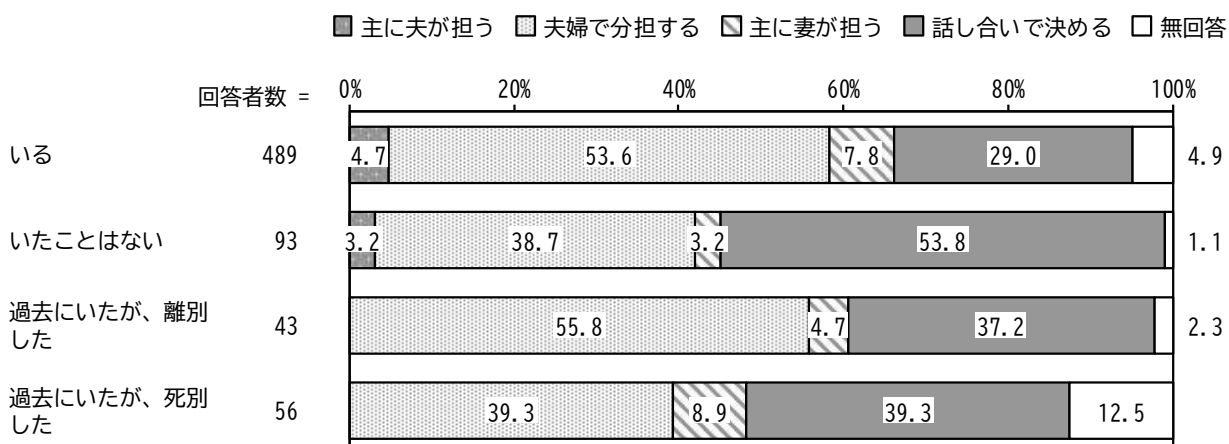
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【パートナーの有無別】

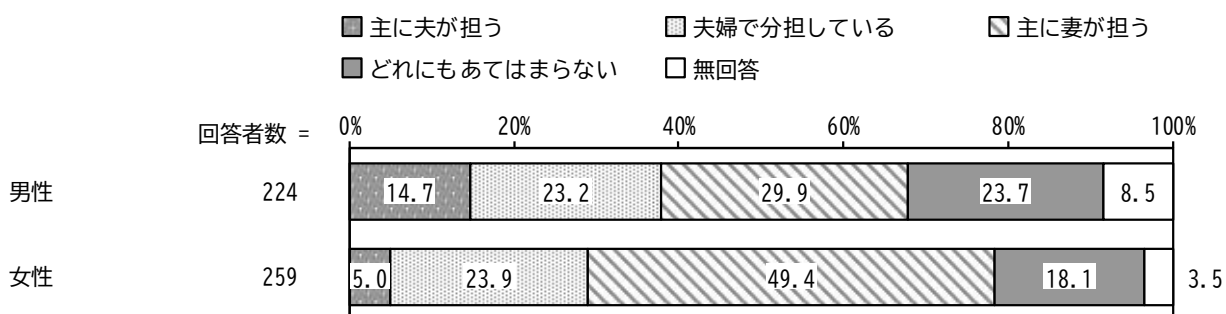
パートナーの有無別にみると、「話し合いで決める」の割合が『いたことはない』で高くなっています。



実際の分担

【性別】

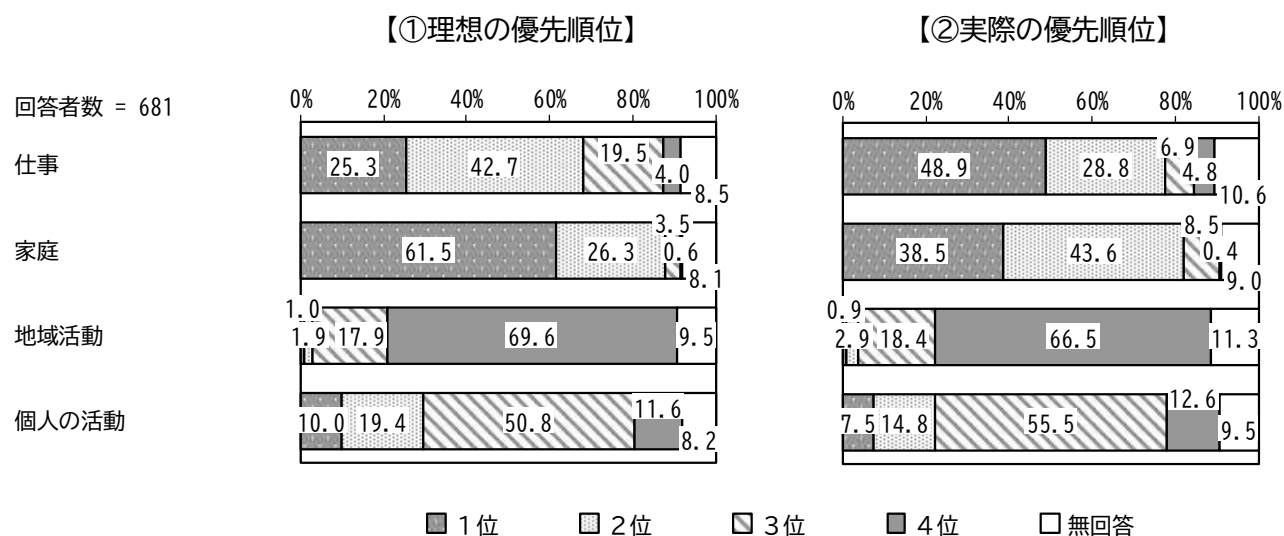
性別にみると、「主に夫が担う」、「どれにもあてはまらない」の割合が男性で、「主に妻が担う」の割合が女性で高くなっています。



問 11. 生活の中で、「仕事」、「家庭」、「地域活動（※）」、「個人の活動」で何を優先しますか。「理想」と「実際」の優先順位の数字（1～4まで）を下の枠に記入してください。同順位の場合同じ数字を記入してください。

※「地域活動」とは、自治会、PTA、民生委員、ボランティアでなどの活動を指します。

「1位」の割合について、①理想の優先順位では『家庭』61.5%が最も高く、次いで『仕事』の割合が25.3%となっています。一方、②実際の優先順位では『仕事』48.9%が最も高く、次いで『家庭』の割合が38.5%となっています。

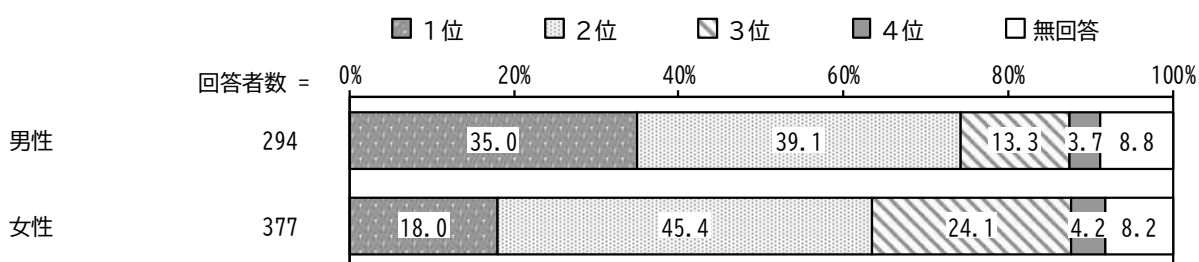


仕事

①理想の優先順位

【性別】

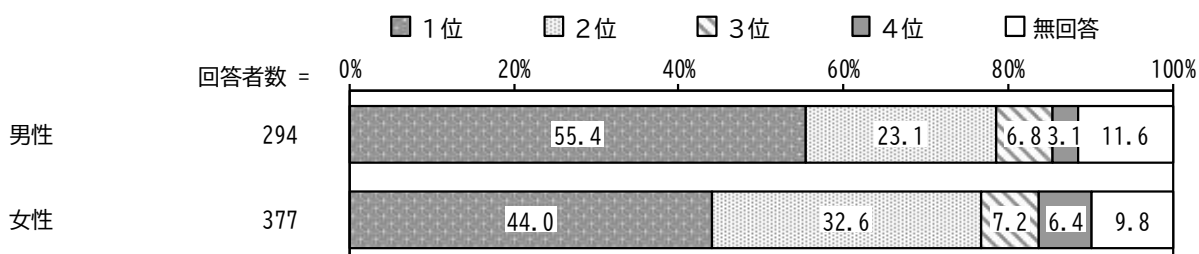
性別にみると、「1位」の割合が男性で高くなっています。



②実際の優先順位

【性別】

性別にみると、「1位」の割合が男性で高くなっています。

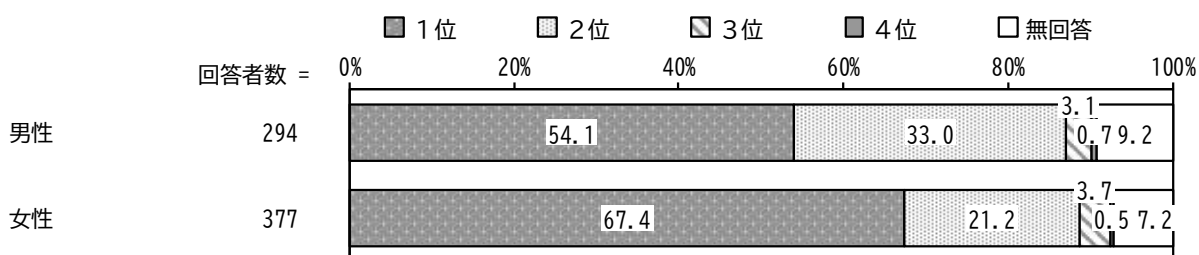


家庭

①理想の優先順位

【性別】

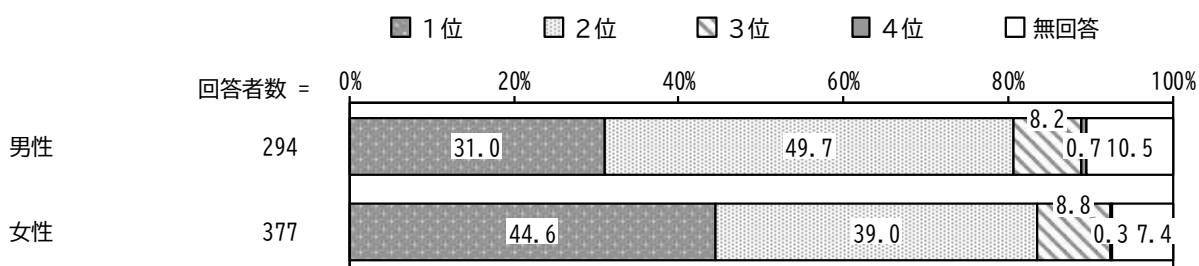
性別にみると、「1位」の割合が女性で、「2位」の割合が男性で高くなっています。



②実際の優先順位

【性別】

性別にみると、「1位」の割合が女性で、「2位」の割合が男性で高くなっています。

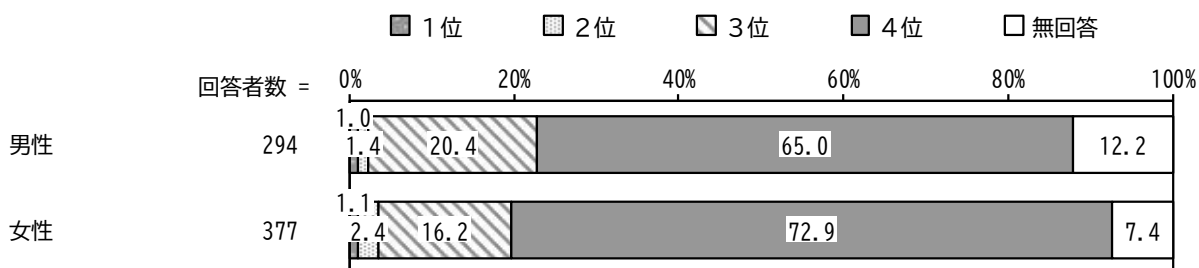


地域活動

①理想の優先順位

【性別】

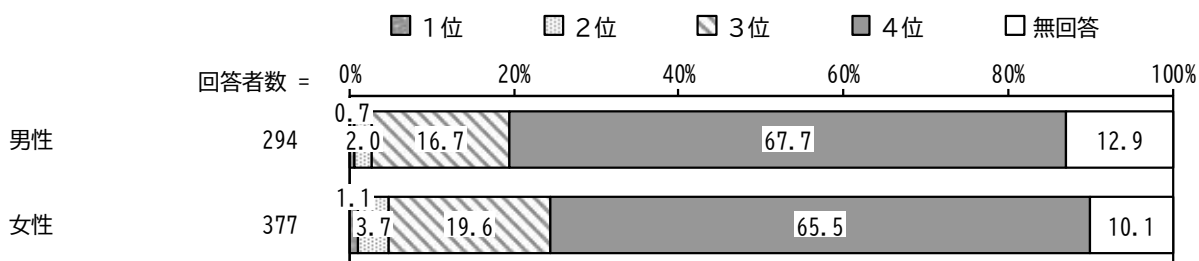
性別にみると、「4位」の割合が女性で高くなっています。



②実際の優先順位

【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

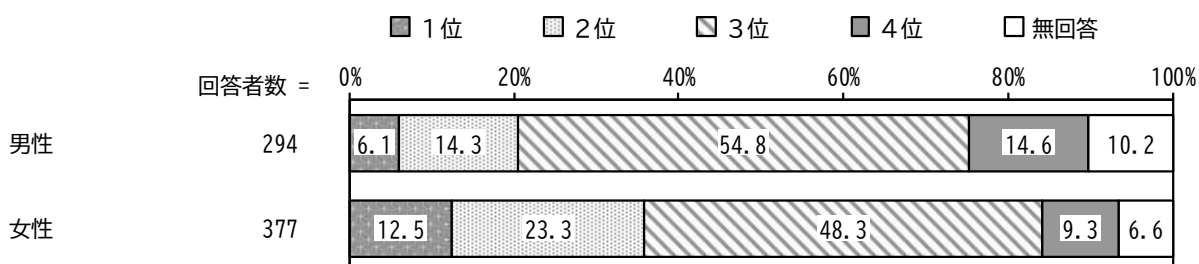


個人の活動

①理想の優先順位

【性別】

性別にみると、「1位」、「2位」の割合が女性で、「3位」、「4位」の割合が男性で高くなっています。

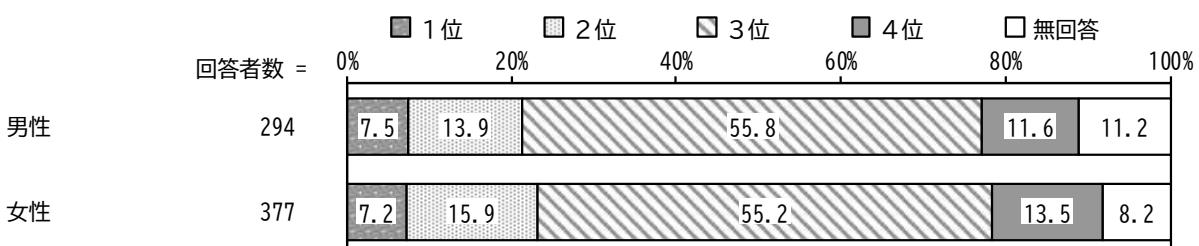


個人の活動

②実際の優先順位

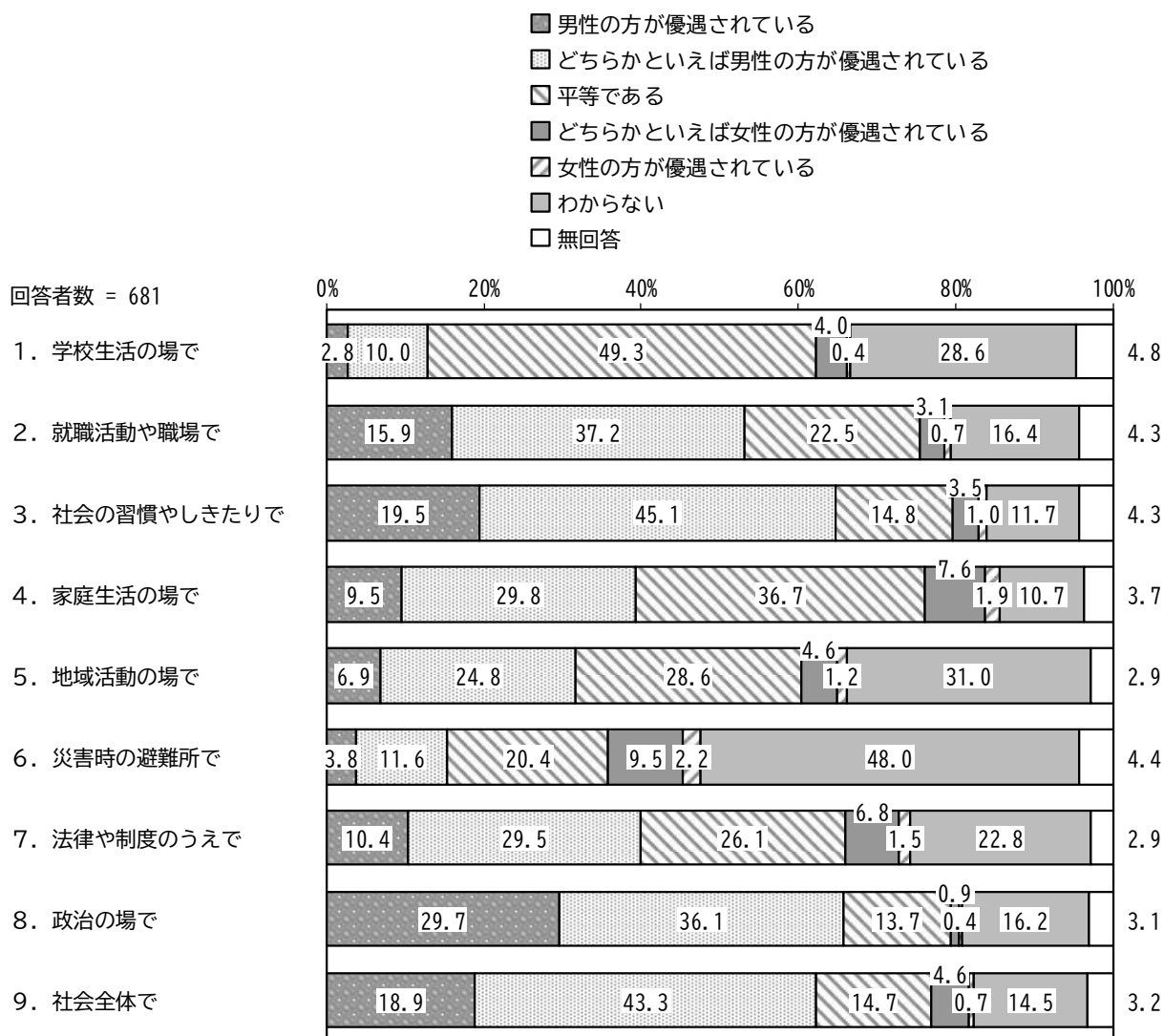
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



問 12. 以下の場面における男女の地位についてどう感じますか。(○はそれぞれ一つずつ)

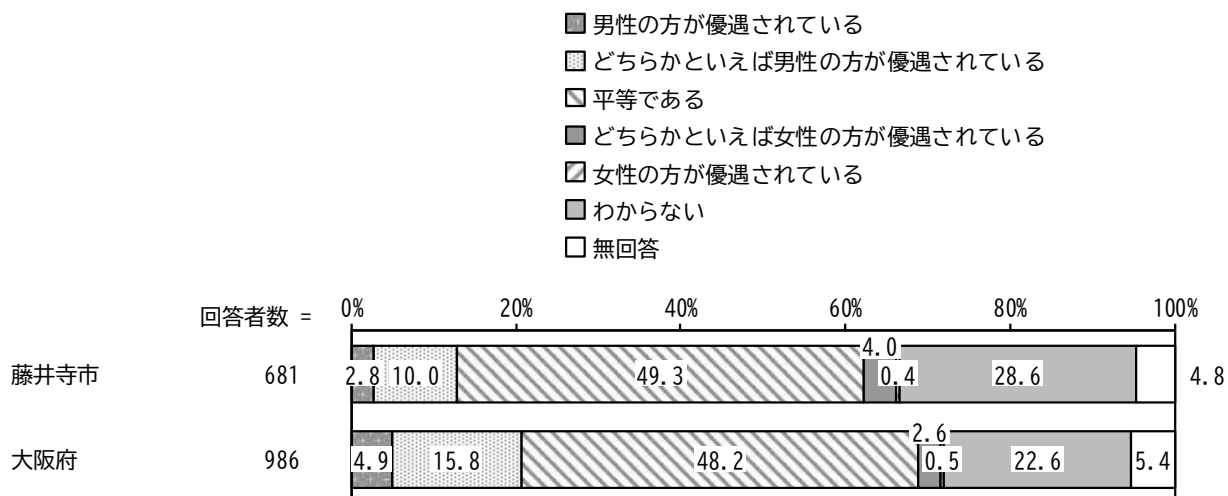
『8. 政治の場で』で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性優遇”が、『1. 学校生活の場で』で「平等である」が、『6. 災害時の避難所で』で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が優遇されている」を合わせた“女性優遇”が高くなっています。



1. 学校生活の場で

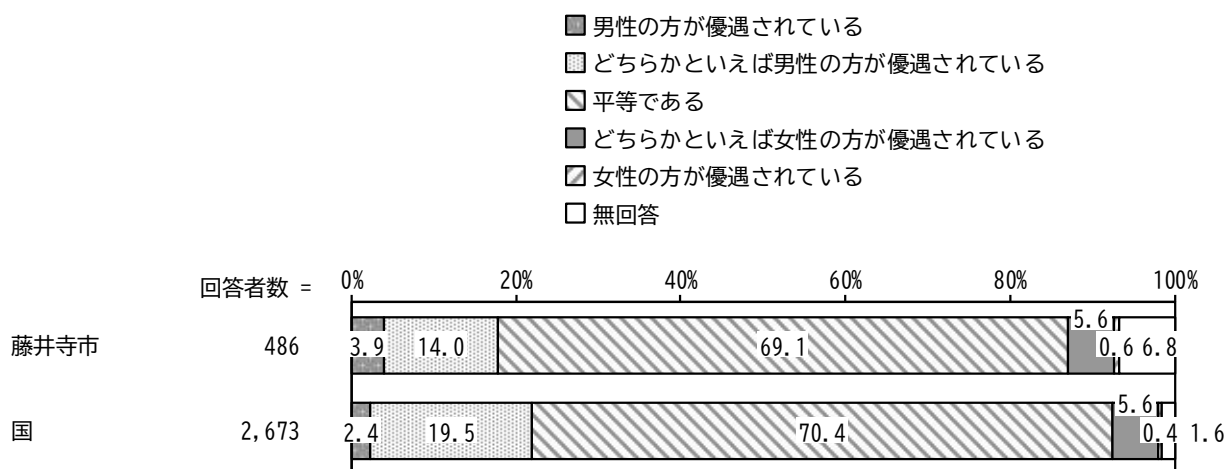
【府調査比較】

大阪府調査と比較すると、「男性優遇」の割合が低くなっています。



【国調査比較 参考】

国調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

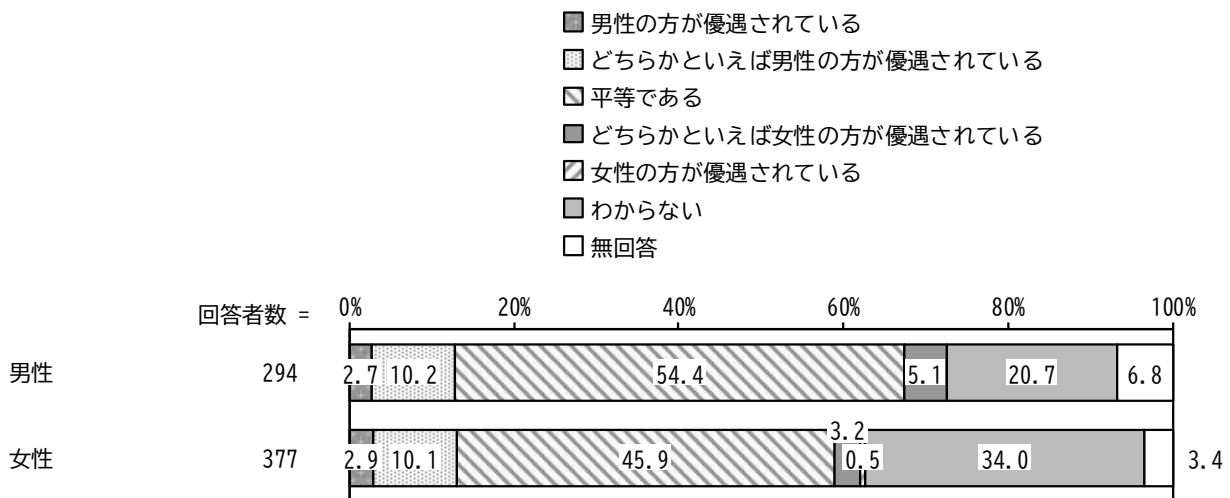


※国調査の選択肢と一致するように、「わからない」を除いた集計で比較をしています。

国調査では、「男性の方が優遇されている」が「男性の方が非常に優遇されている」、「平等である」が「平等」、「女性の方が優遇されている」が「女性の方が非常に優遇されている」となっていました。

【性別】

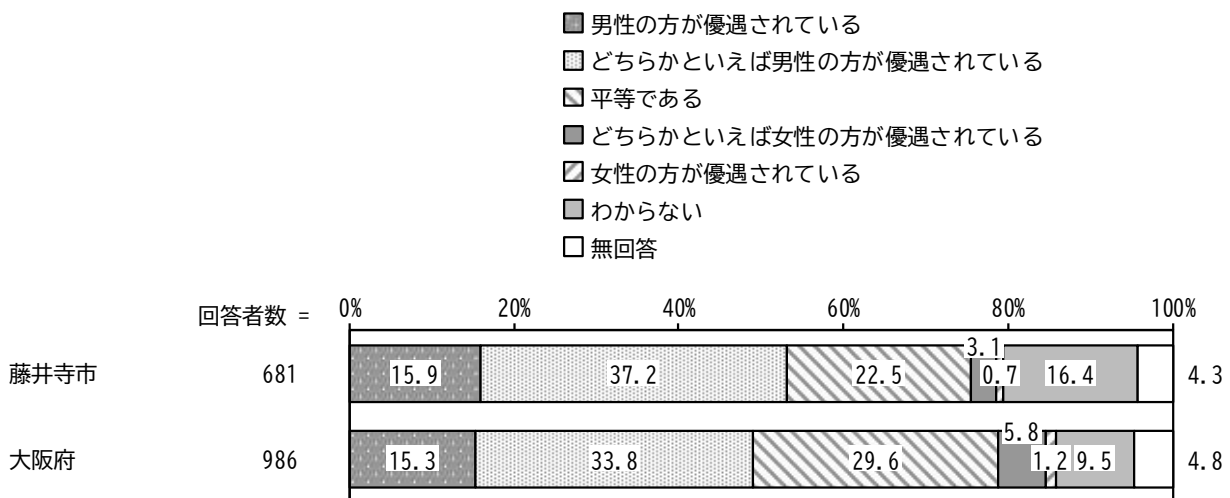
性別にみると、「平等である」の割合が男性で高くなっています。



2. 就職活動や職場で

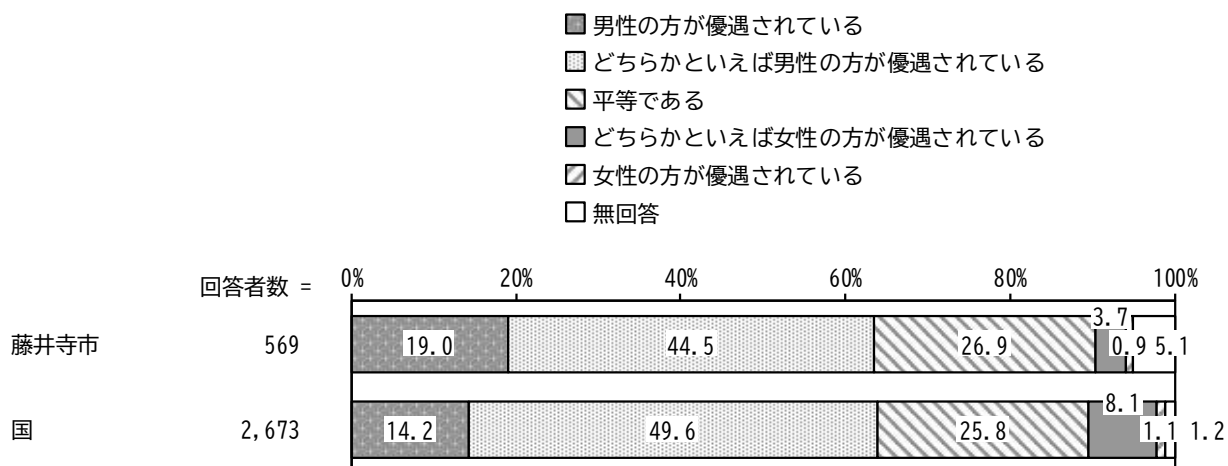
【府調査比較】

大阪府調査と比較すると、「平等である」の割合が低くなっています。



【国調査比較 参考】

国調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

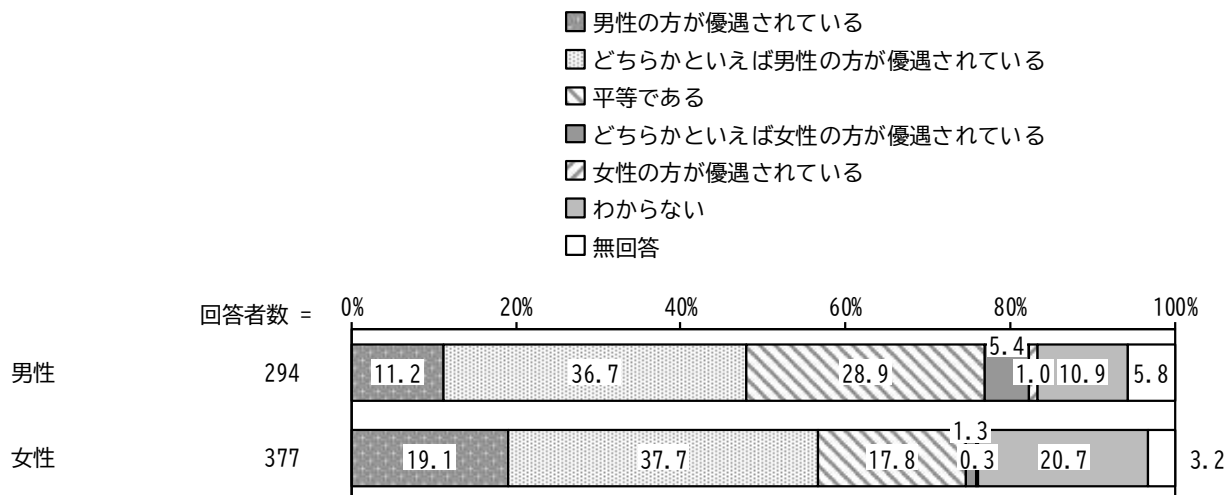


※国調査の選択肢と一致するように、「わからない」を除いた集計で比較をしています。

国調査では、「男性の方が優遇されている」が「男性の方が非常に優遇されている」、「平等である」が「平等」、「女性の方が優遇されている」が「女性の方が非常に優遇されている」となっていました。

【性別】

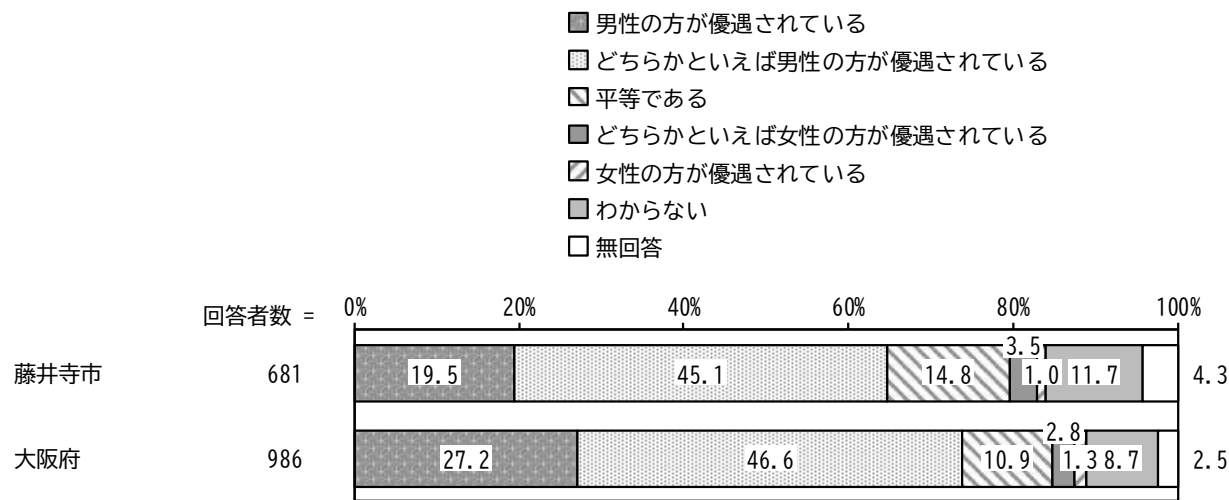
性別にみると、「平等である」の割合が男性で高くなっています。



3. 社会の習慣やしきたりで

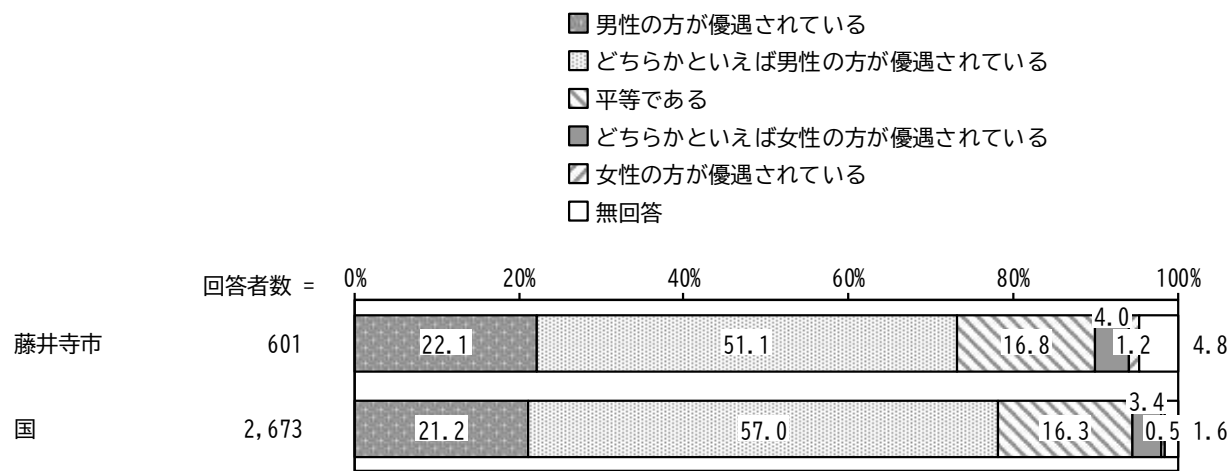
【府調査比較】

大阪府調査と比較すると、“男性優遇”の割合が低くなっています。



【国調査比較 参考】

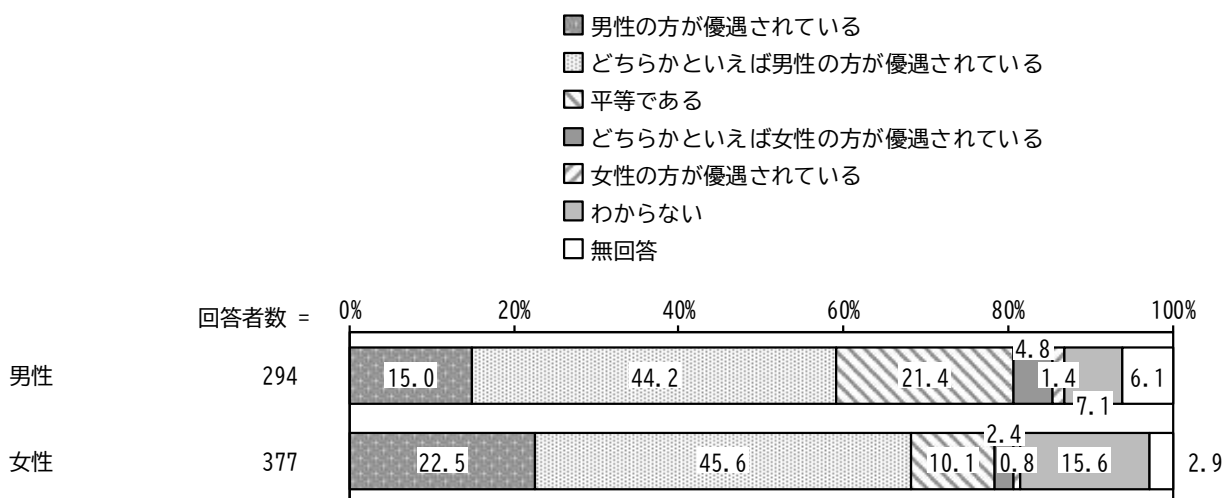
国調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。



※国調査の選択肢と一致するように、「わからない」を除いた集計で比較をしています。
国調査では、「男性の方が優遇されている」が「男性の方が非常に優遇されている」、「平等である」が「平等」、「女性の方が優遇されている」が「女性の方が非常に優遇されている」となっていました。

【性別】

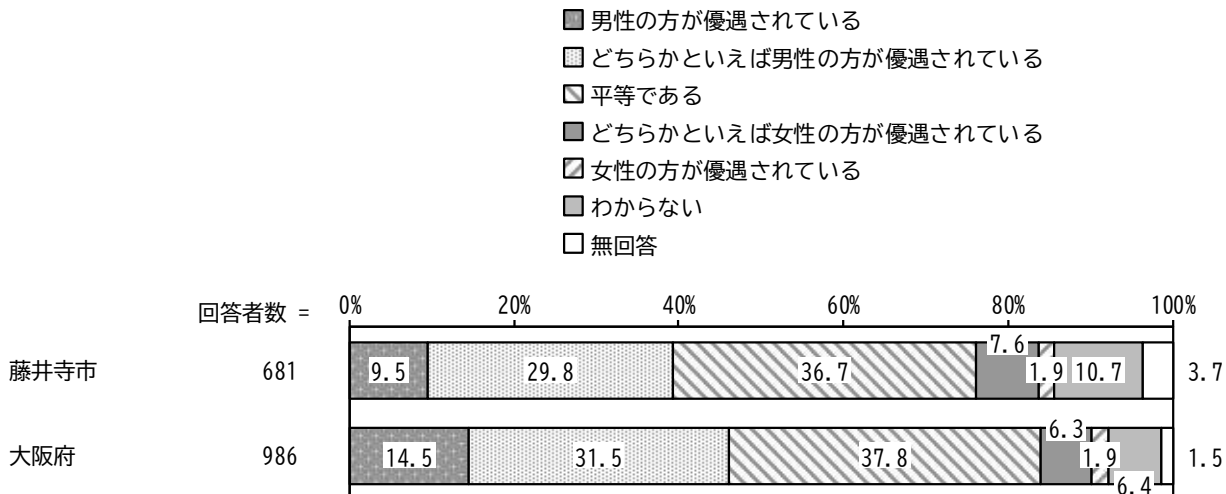
性別にみると、「男性の方が優遇されている」の割合が女性で、「平等である」の割合が男性で高くなっています。



4. 家庭生活の場で

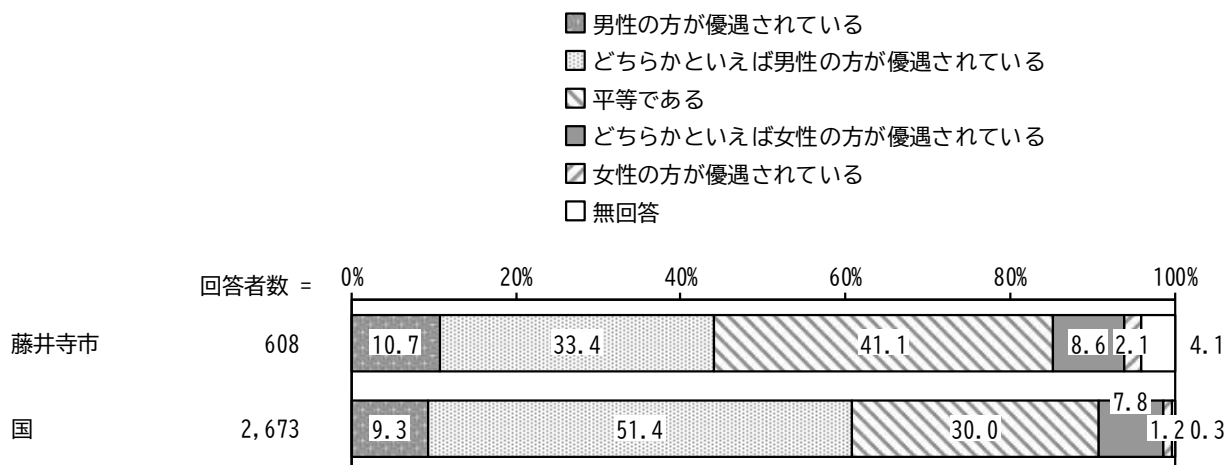
【府調査比較】

大阪府調査と比較すると、“男性優遇”の割合が低くなっています。



【国調査比較 参考】

国調査と比較すると、「平等である」の割合が高くなっています。一方、「男性優遇」の割合が低くなっています。

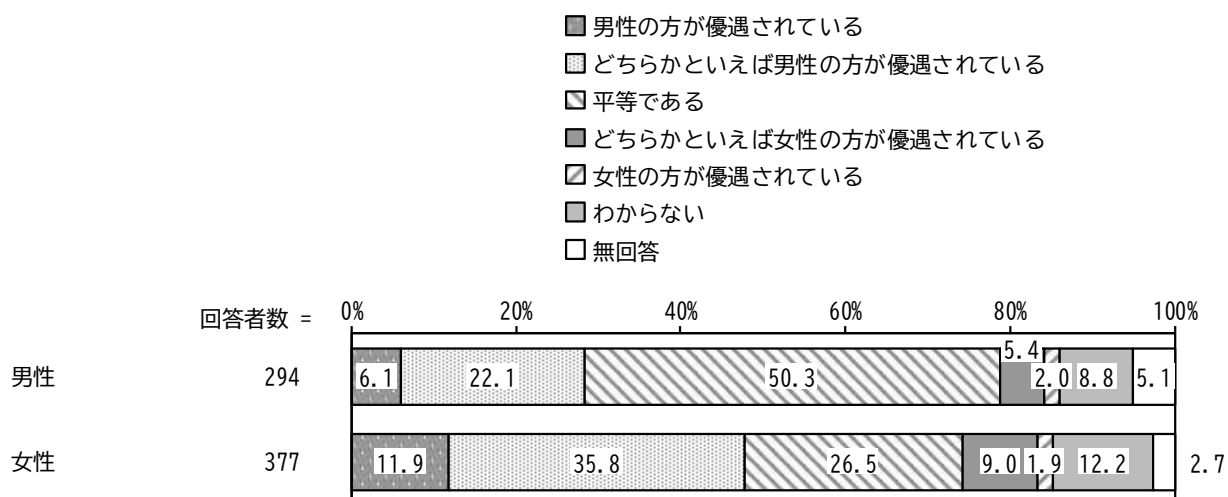


※国調査の選択肢と一致するように、「わからない」を除いた集計で比較をしています。

国調査では、「男性の方が優遇されている」が「男性の方が非常に優遇されている」、「平等である」が「平等」、「女性の方が優遇されている」が「女性の方が非常に優遇されている」となっていました。

【性別】

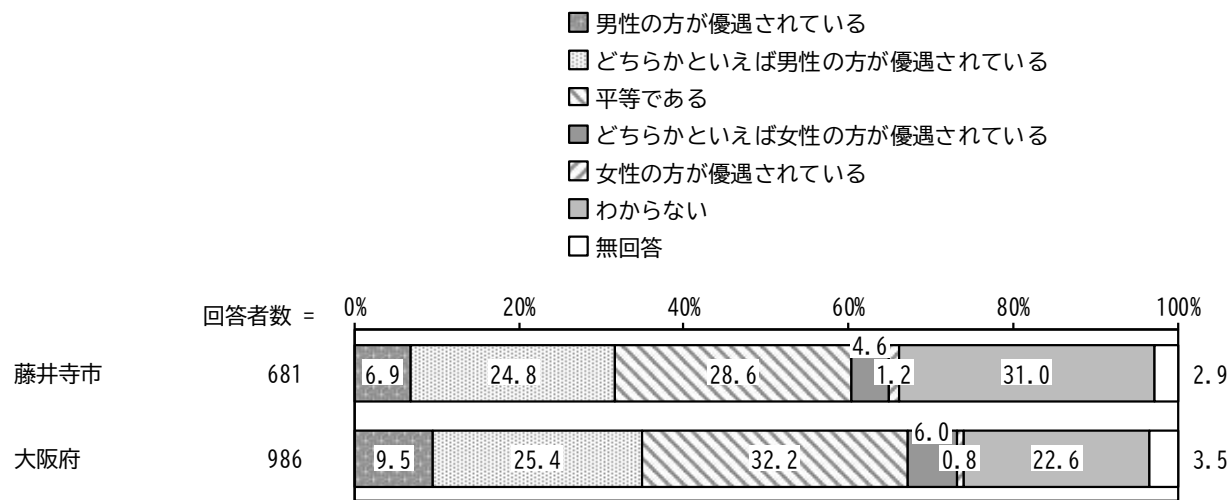
性別にみると、「男性の方が優遇されている」の割合が女性で、「平等である」の割合が男性で高くなっています。



5. 地域活動の場で

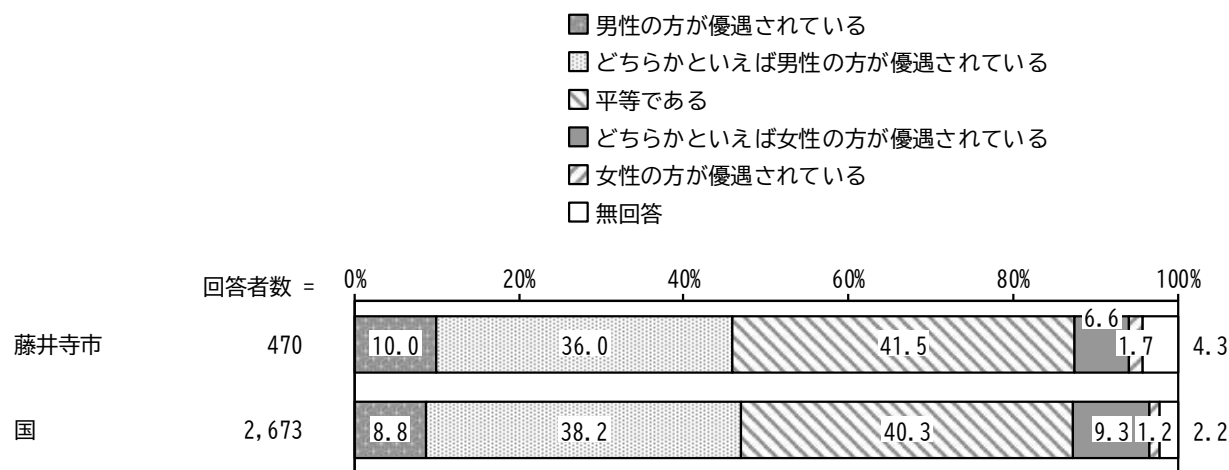
【府調査比較】

大阪府調査と比較すると、「わからない」の割合が高くなっています。



【国調査比較 参考】

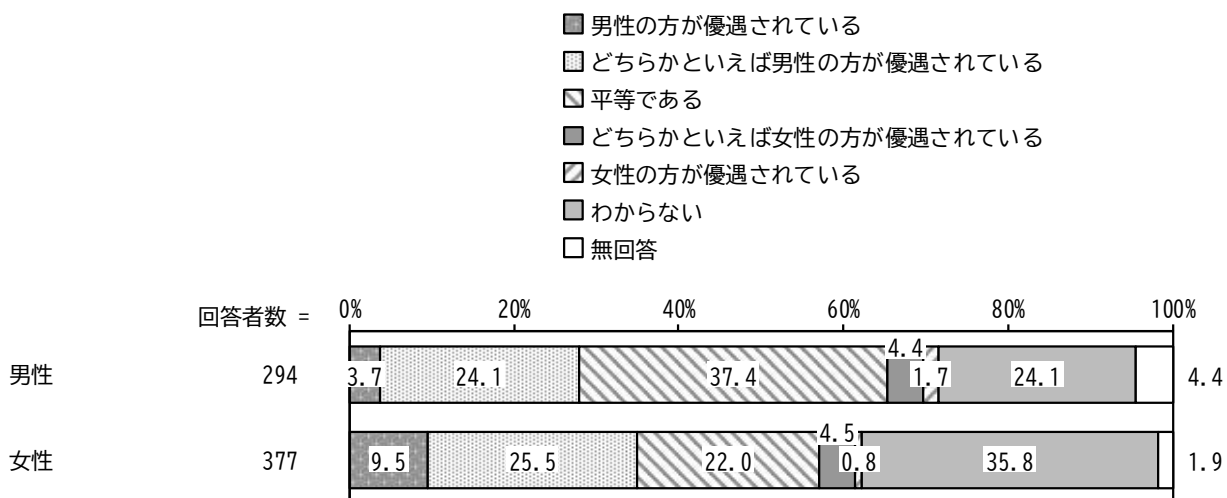
国調査と比較すると、大きな差はみられません。



※国調査の選択肢と一致するように、「わからない」を除いた集計で比較をしています。
国調査では、「男性の方が優遇されている」が「男性の方が非常に優遇されている」、「平等である」が「平等」、「女性の方が優遇されている」が「女性の方が非常に優遇されている」となっていました。

【性別】

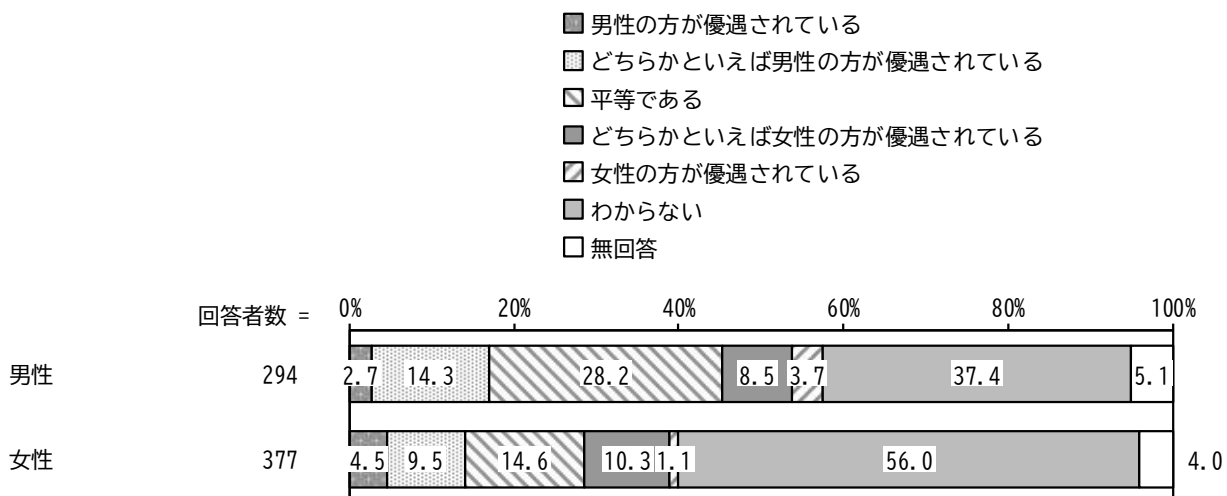
性別にみると、“平等である”の割合が男性で高くなっています。



6. 災害時の避難所で

【性別】

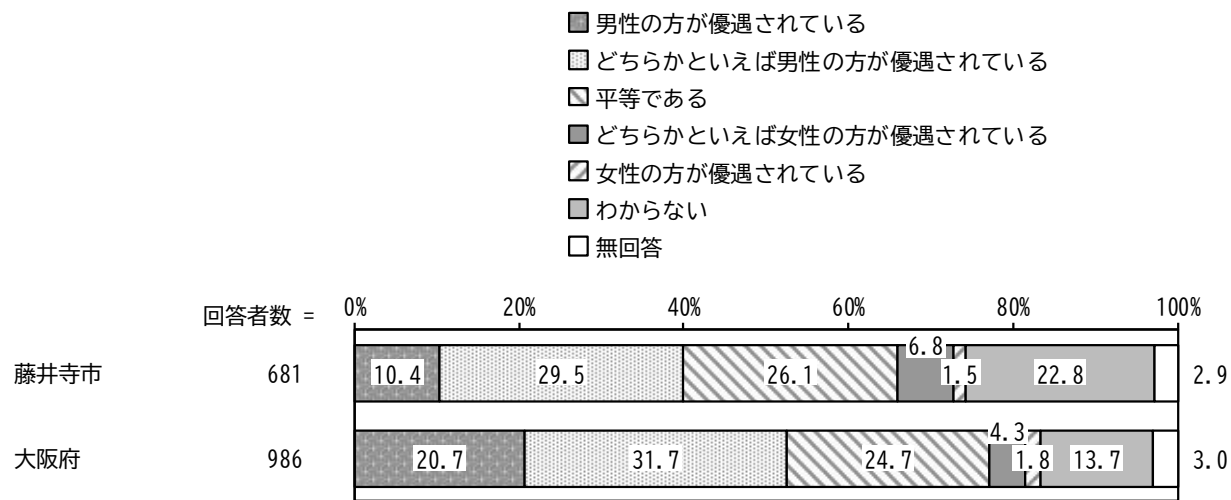
性別にみると、“平等である”の割合が男性で高くなっています。



7. 法律や制度のうえで

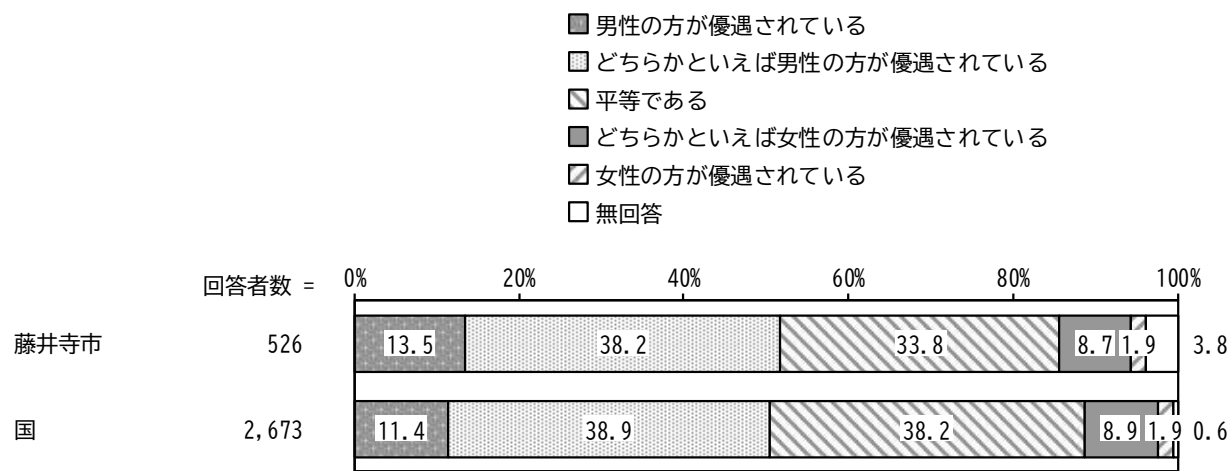
【府調査比較】

大阪府調査と比較すると、“男性優遇”の割合が低くなっています。



【国調査比較 参考】

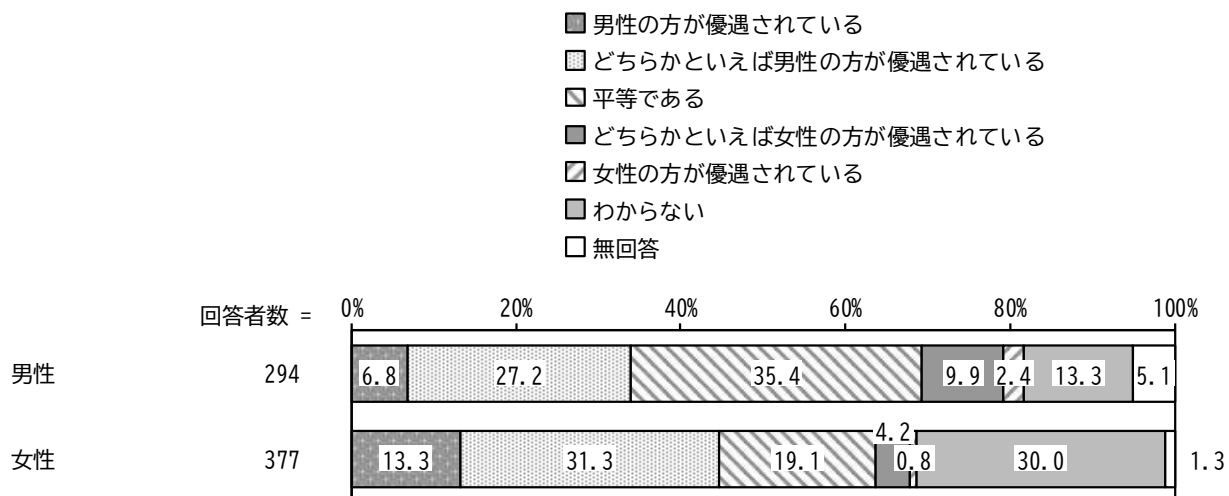
国調査と比較すると、大きな差はみられません。



※国調査の選択肢と一致するように、「わからない」を除いた集計で比較をしています。
国調査では、「男性の方が優遇されている」が「男性の方が非常に優遇されている」、「平等である」が「平等」、「女性の方が優遇されている」が「女性の方が非常に優遇されている」となっていました。

【性別】

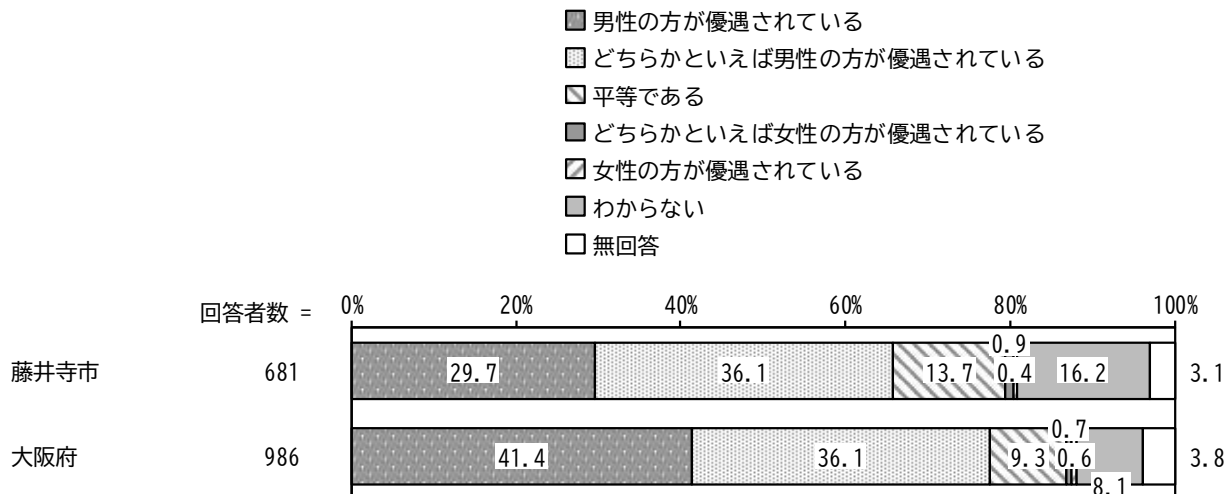
性別にみると、「平等である」、「女性優遇」の割合が男性で、「男性優遇」の割合が女性で高くなっています。



8. 政治の場で

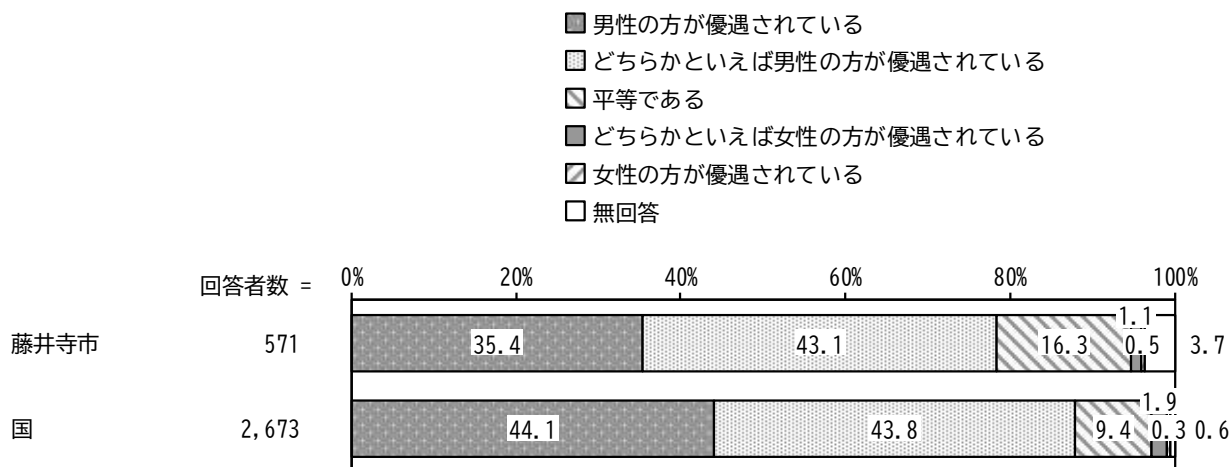
【府調査比較】

大阪府調査と比較すると、「男性優遇」の割合が低くなっています。



【国調査比較 参考】

国調査と比較すると、「平等である」の割合が高くなっています。一方、“男性優遇”の割合が低くなっています。

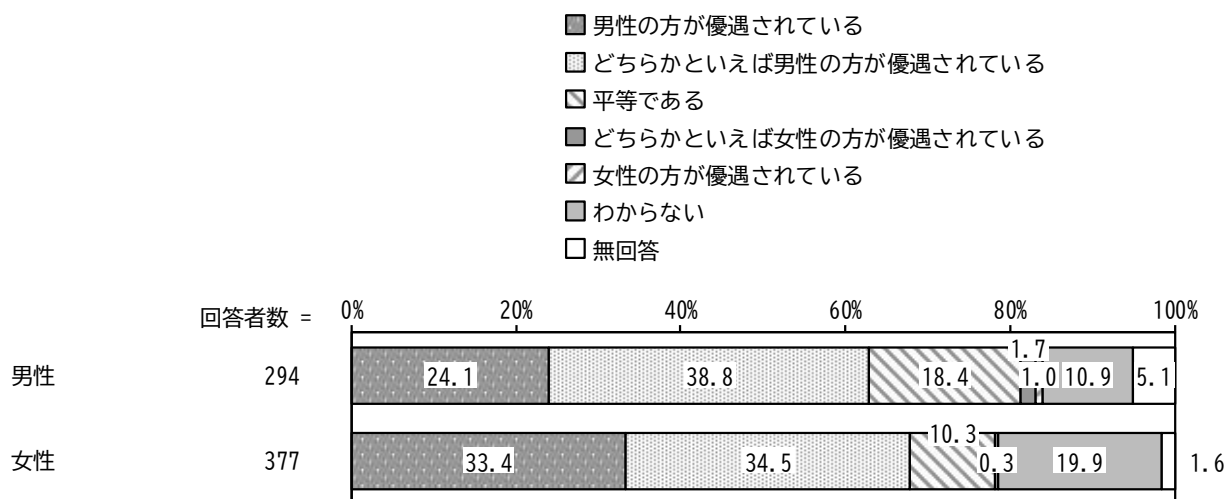


※国調査の選択肢と一致するように、「わからない」を除いた集計で比較をしています。

国調査では、「男性の方が優遇されている」が「男性の方が非常に優遇されている」、「平等である」が「平等」、「女性の方が優遇されている」が「女性の方が非常に優遇されている」となっていました。

【性別】

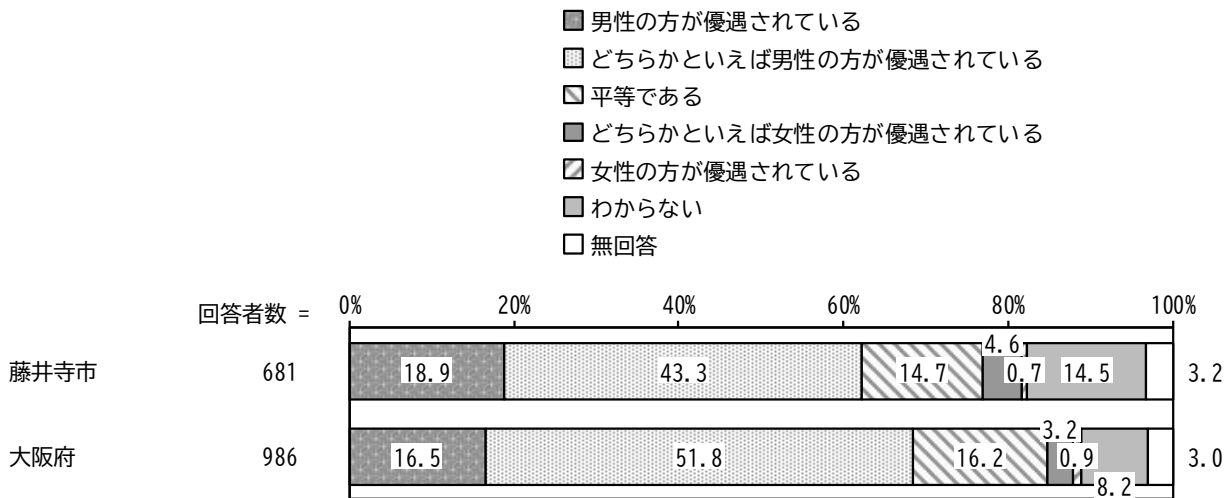
性別にみると、「平等である」の割合が男性で高くなっています。



9. 社会全体で

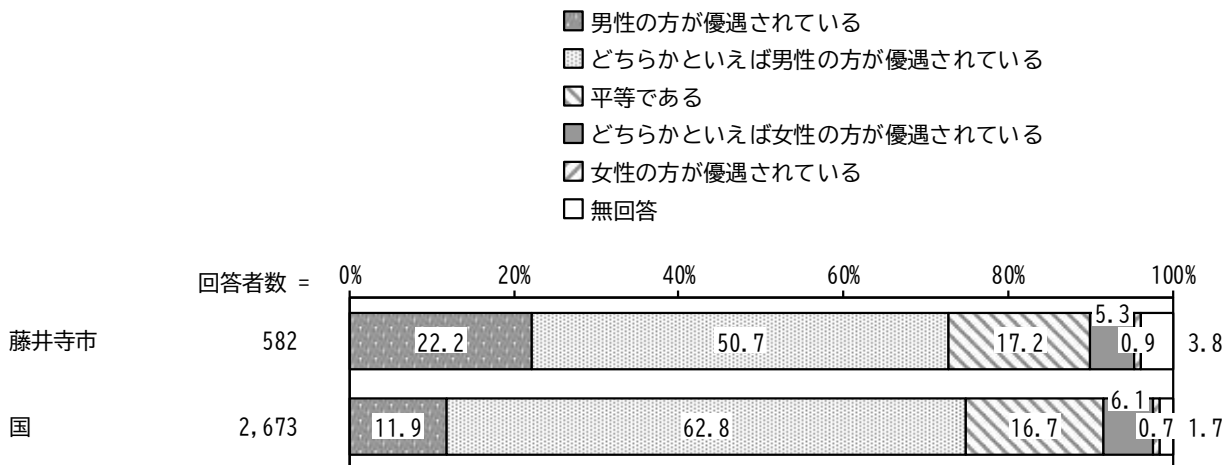
【府調査比較】

大阪府調査と比較すると、「男性優遇」の割合が低くなっています。



【国調査比較 参考】

国調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。一方、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

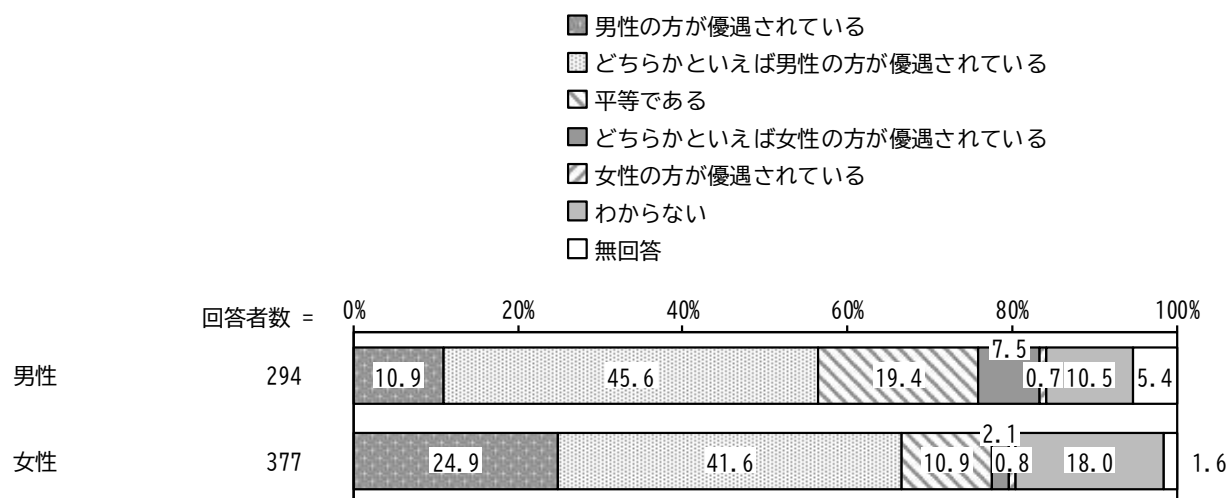


※国調査の選択肢と一致するように、「わからない」を除いた集計で比較をしています。

国調査では、「男性の方が優遇されている」が「男性の方が非常に優遇されている」、「平等である」が「平等」、「女性の方が優遇されている」が「女性の方が非常に優遇されている」となっていました。

【性別】

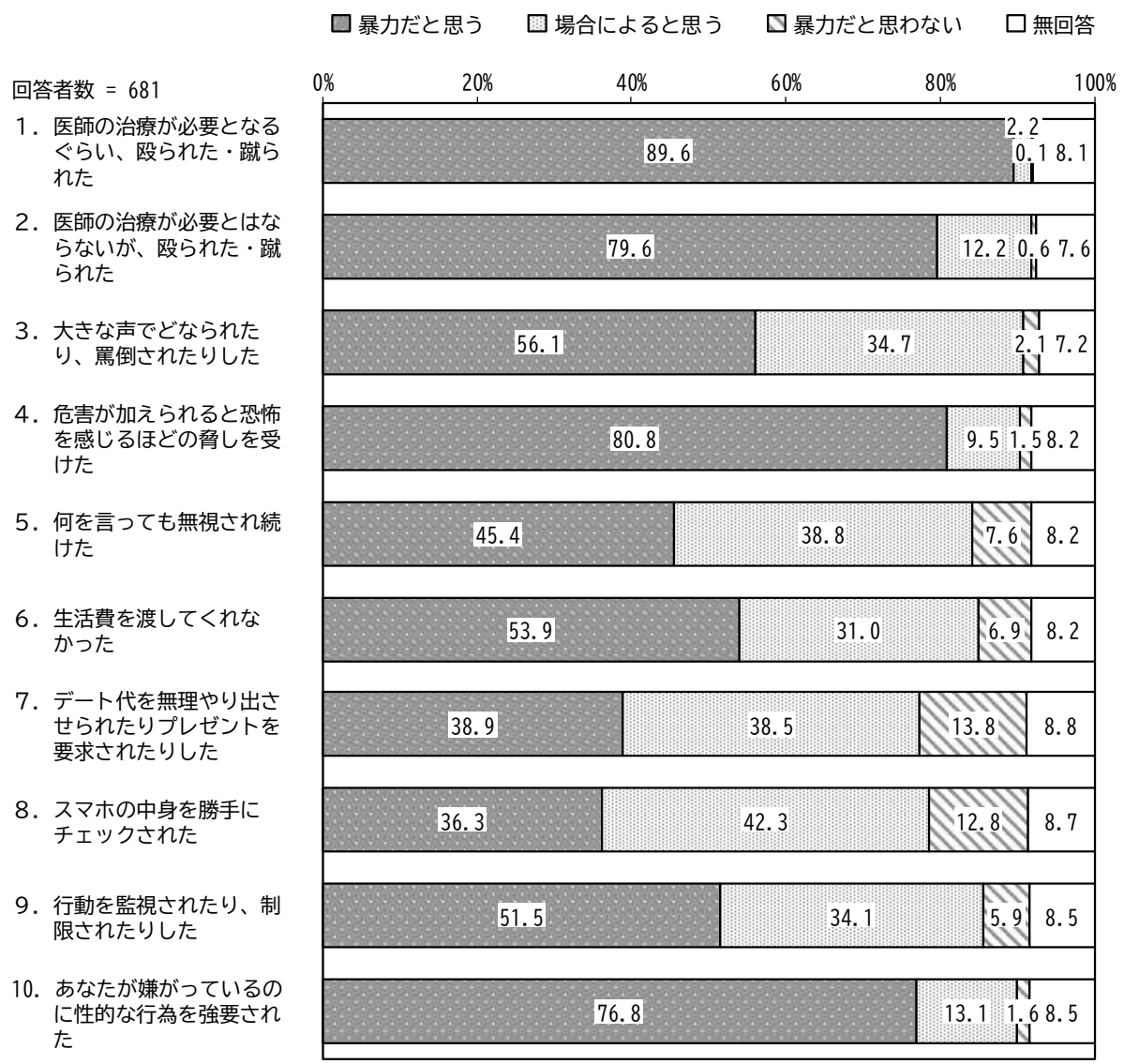
性別にみると、「平等である」、「女性優遇」の割合が男性で、「男性優遇」の割合が女性で高くなっています。



問 13. 配偶者（パートナー）や恋人からの以下のような行為は「暴力」にあたると思えますか。またそのような行為を受けたことはありますか。（○はそれぞれ1つずつ）

「暴力」にあたると思うか

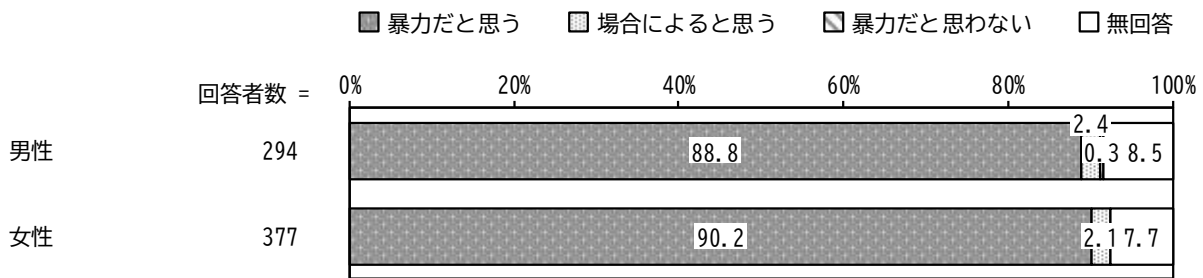
『1. 医師の治療が必要となるぐらい、殴られた・蹴られた』で「暴力だと思う」が、『8. スマホの中身を勝手にチェックされた』で「場合によると思う」が、『7. デート代を無理やり出させられたりプレゼントを要求されたりした』で「暴力だと思わない」が高くなっています。



1. 医師の治療が必要となるぐらい、殴られた・蹴られた

【性別】

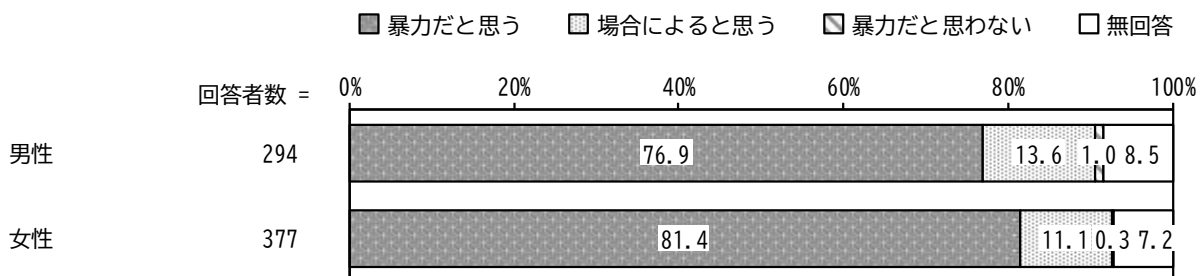
性別にみると、大きな差はみられません。



2. 医師の治療が必要とはならないが、殴られた・蹴られた

【性別】

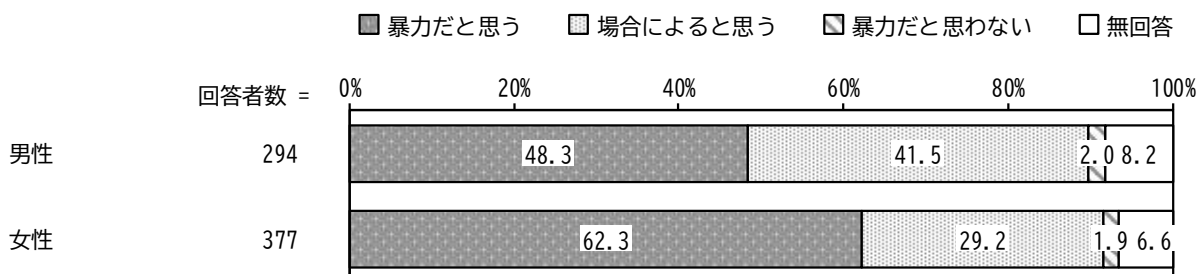
性別にみると、大きな差はみられません。



3. 大きな声でどなられたり、罵倒されたりした

【性別】

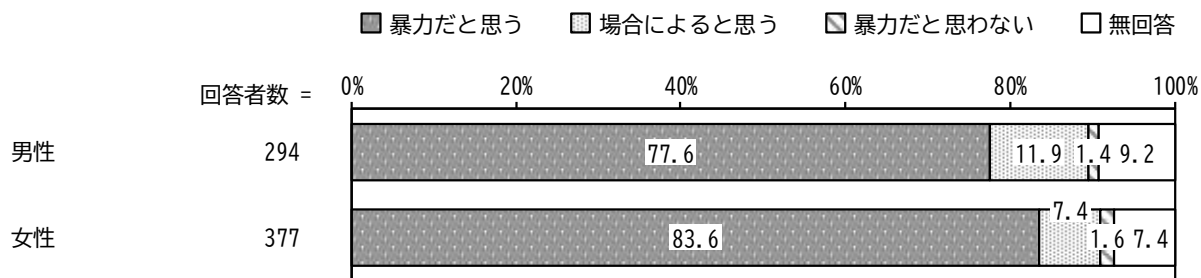
性別にみると、「場合によると思う」の割合が男性で、「暴力だと思う」の割合が女性で高くなっています。



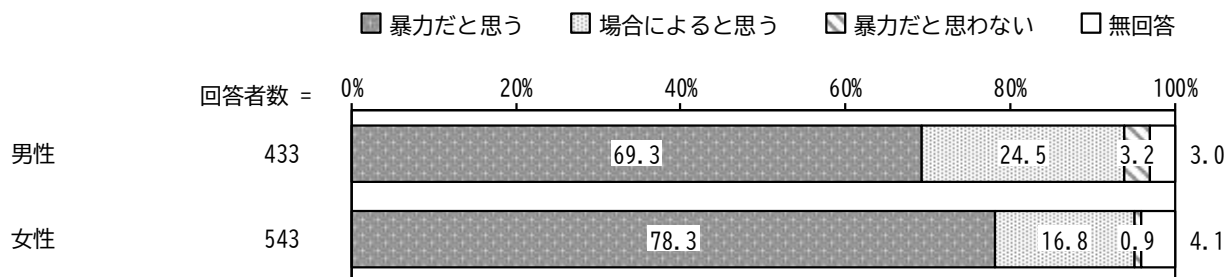
4. 危害が加えられると恐怖を感じるほどの脅しを受けた

【性別】

性別にみると、「暴力だと思う」の割合が女性で高くなっています。
府調査と比較すると、「暴力だと思う」の割合が男女ともに高くなっています。



【府調査 性別】



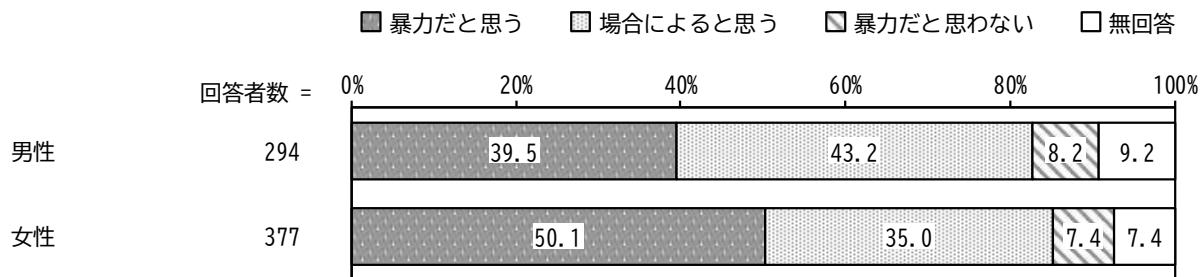
※府調査では、項目が『なぐるふりをして、おどす』となっており、選択肢は「暴力だと思う」が「どんな場合でも暴力にあたると思う」、「場合によると思う」が「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」、「暴力だと思わない」が「暴力にあたるとは思わない」となっていました。

5. 何を言っても無視され続けた

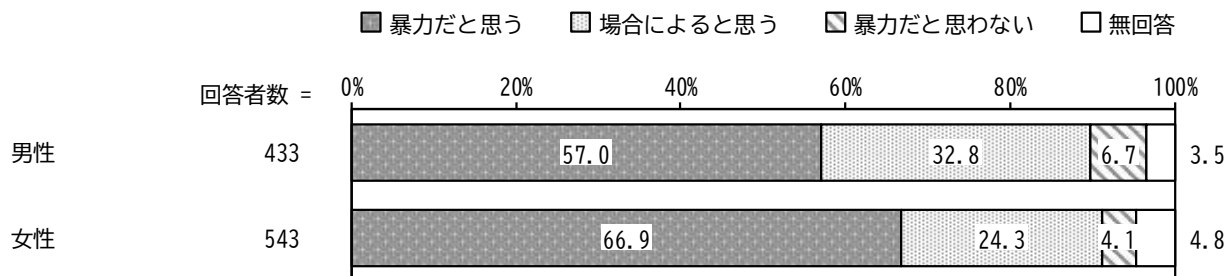
【性別】

性別にみると、「場合によると思う」の割合が男性で、「暴力だと思う」の割合が女性で高くなっています。

府調査と比較すると、「場合によると思う」の割合が男女ともに高くなっています。



【府調査 性別】



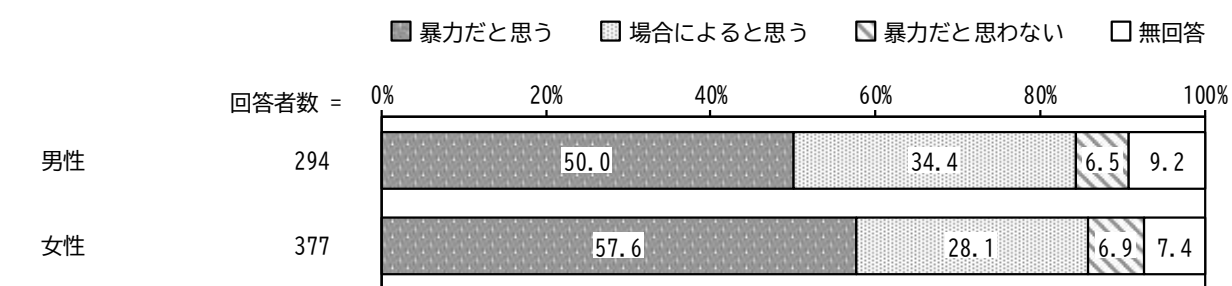
※府調査では、項目が『何を言っても無視し続ける』となっており、選択肢は「暴力だと思う」が「どんな場合でも暴力にあたると思う」、「場合によると思う」が「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」、「暴力だと思わない」が「暴力にあたるとは思わない」となっていました。

6. 生活費を渡してくれなかった

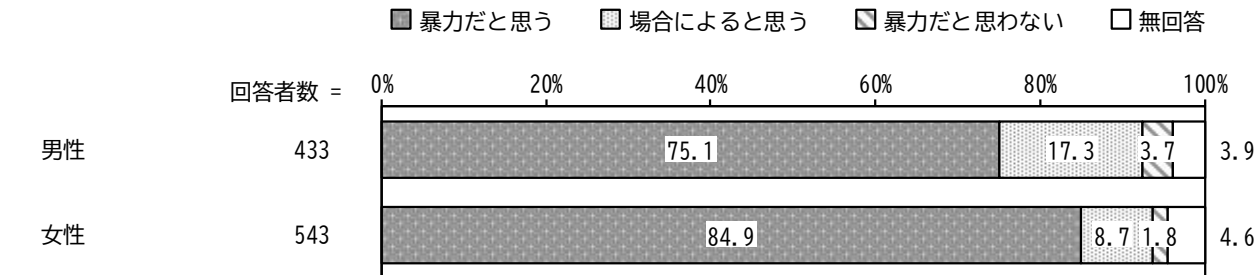
【性別】

性別にみると、「場合によると思う」の割合が男性で、「暴力だと思う」の割合が女性で高くなっています。

府調査と比較すると、男女ともに「場合によると思う」の割合が高く、「暴力だと思う」の割合が低くなっています。



【府調査 性別】

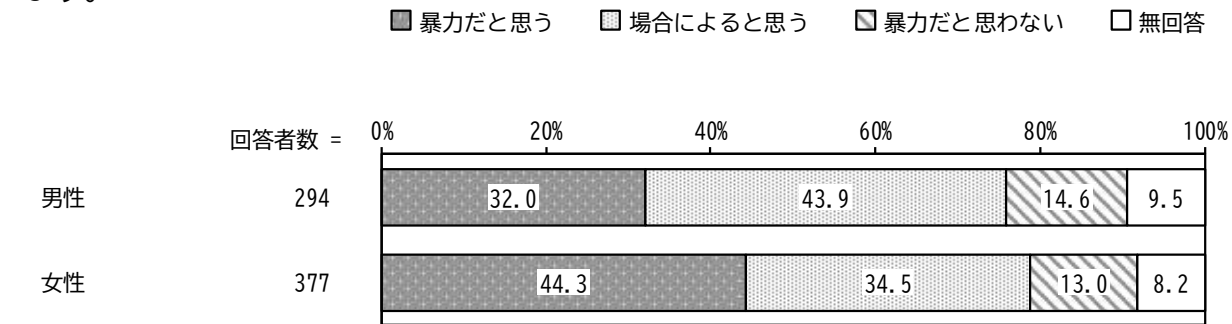


※府調査では、項目が『自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する』となっており、選択肢は「暴力だと思う」が「どんな場合でも暴力にあたると思う」、「場合によると思う」が「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」、「暴力だと思わない」が「暴力にあたるとは思わない」となっていました。

7. デート代を無理やり出させられたりプレゼントを要求されたりした

【性別】

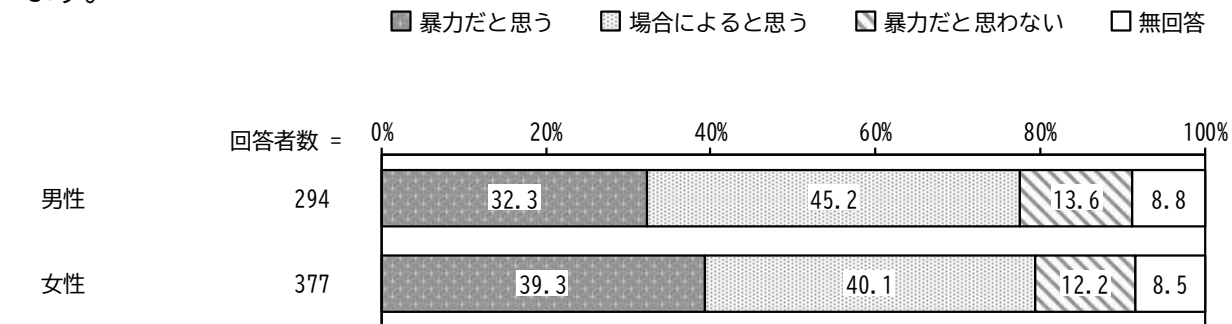
性別にみると、「場合によると思う」の割合が男性で、「暴力だと思う」の割合が女性で高くなっています。



8. スマホの中身を勝手にチェックされた

【性別】

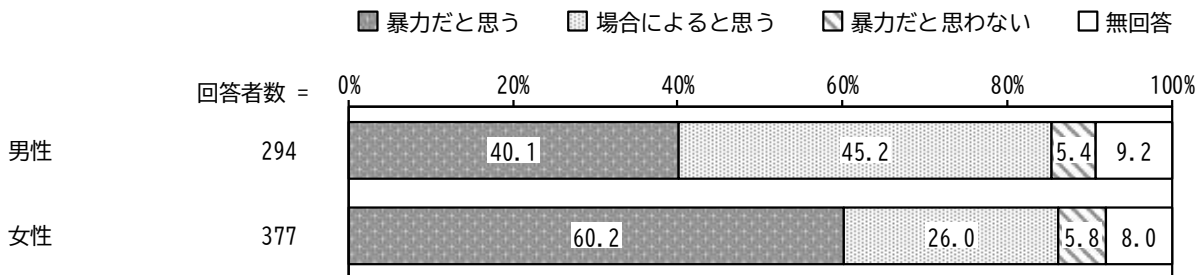
性別にみると、「場合によると思う」の割合が男性で、「暴力だと思う」の割合が女性で高くなっています。



9. 行動を監視されたり、制限されたりした

【性別】

性別にみると、「場合によると思う」の割合が男性で、「暴力だと思う」の割合が女性で高くなっています。

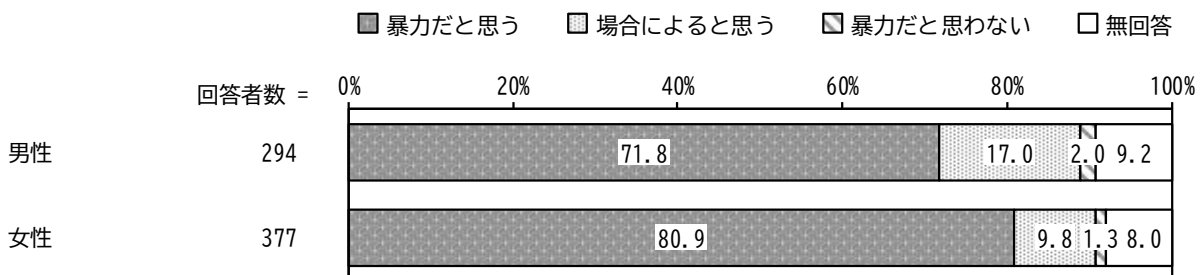


10. あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要された

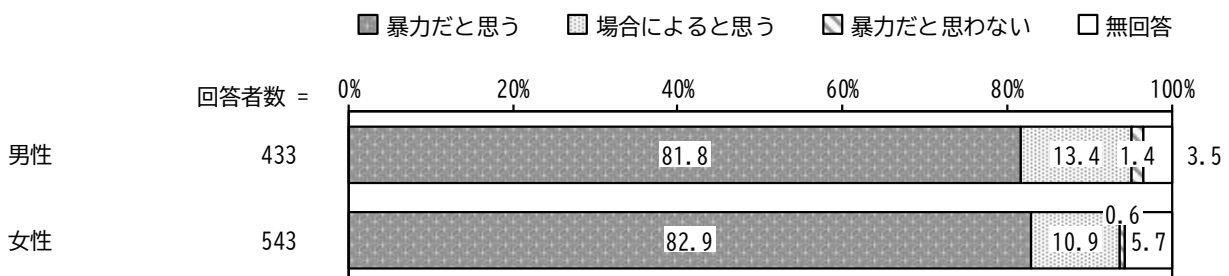
【性別】

性別にみると、「場合によると思う」の割合が男性で、「暴力だと思う」の割合が女性で高くなっています。

府調査と比較すると、「暴力だと思う」の割合が男性で低くなっています。



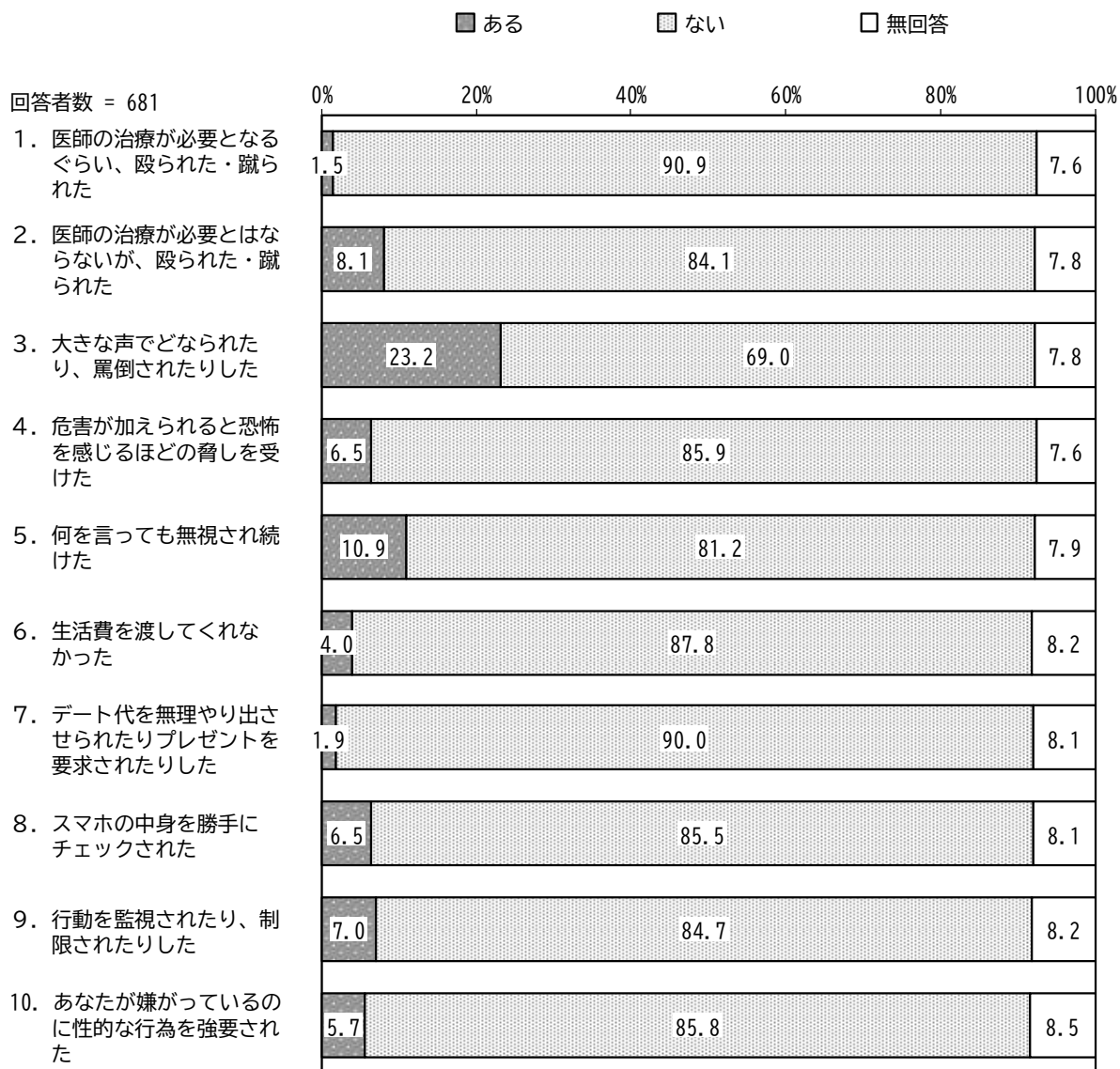
【府調査 性別】



※府調査では、項目が『望まないのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない』となっており、選択肢は「暴力だと思う」が「どんな場合でも暴力にあたると思う」、「場合によると思う」が「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」、「暴力だと思わない」が「暴力にあたるとは思わない」となっていました。

実際に受けたことがあるか

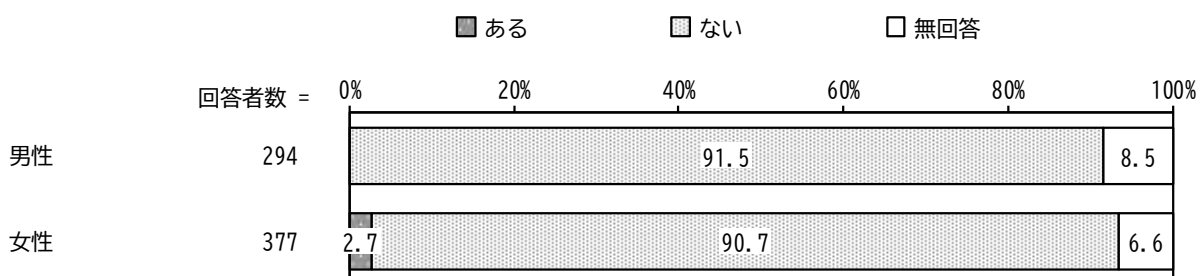
『3. 大きな声でどなられたり、罵倒されたりした』で「ある」が、『1. 医師の治療が必要となるぐらい、殴られた・蹴られた』で「ない」が高くなっています。



1. 医師の治療が必要となるぐらい、殴られた・蹴られた

【性別】

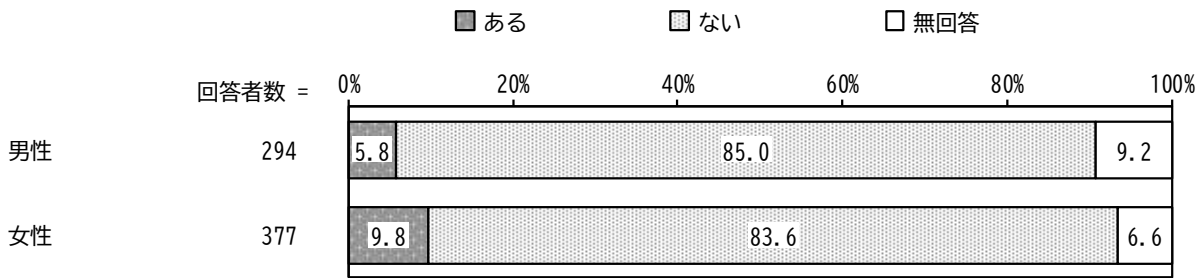
性別にみると、大きな差はみられません。



2. 医師の治療が必要とはならないが、殴られた・蹴られた

【性別】

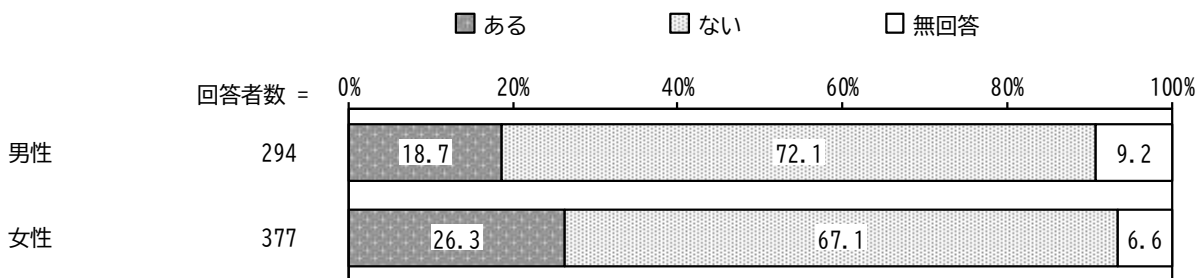
性別にみると、大きな差はみられません。



3. 大きな声でどなられたり、罵倒されたりした

【性別】

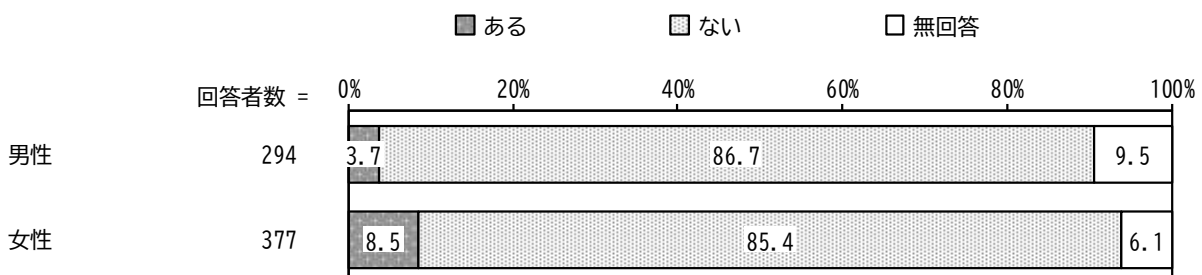
性別にみると、「ある」の割合が女性で高くなっています。



4. 危害が加えられると恐怖を感じるほどの脅しを受けた

【性別】

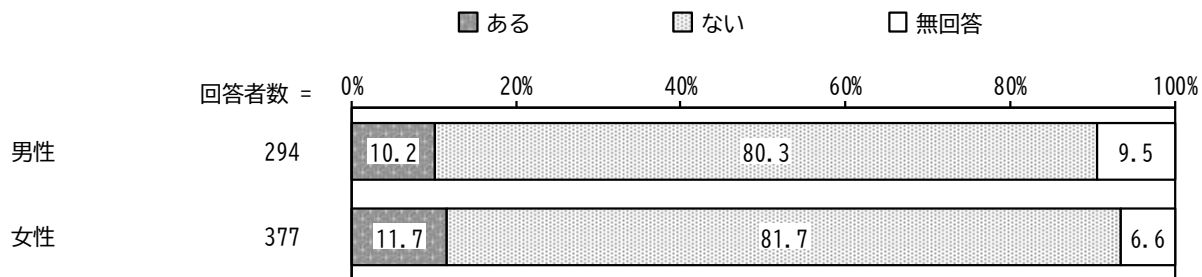
性別にみると、大きな差はみられません。



5. 何を言っても無視され続けた

【性別】

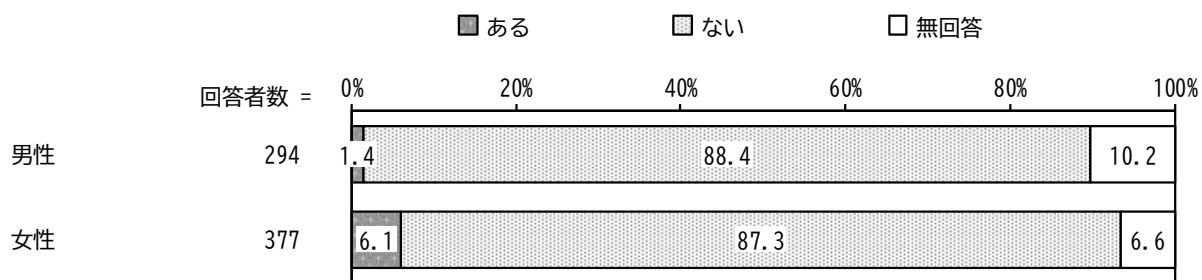
性別にみると、大きな差はみられません。



6. 生活費を渡してくれなかった

【性別】

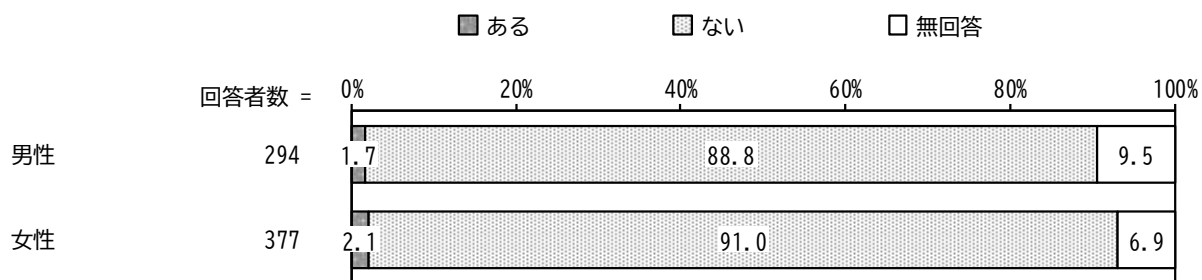
性別にみると、大きな差はみられません。



7. デート代を無理やり出させられたりプレゼントを要求されたりした

【性別】

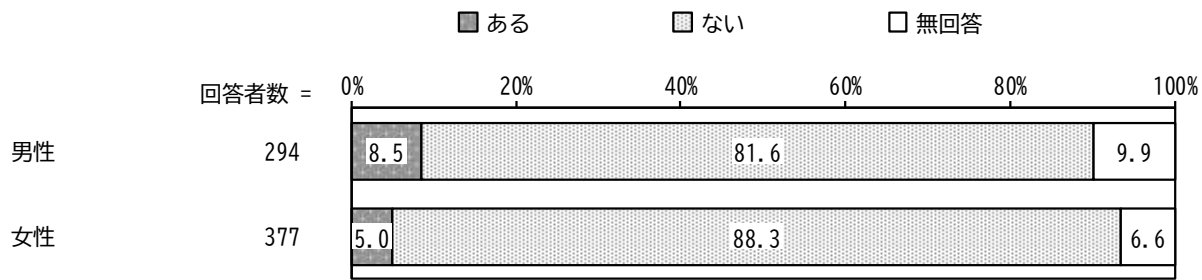
性別にみると、大きな差はみられません。



8. スマホの中身を勝手にチェックされた

【性別】

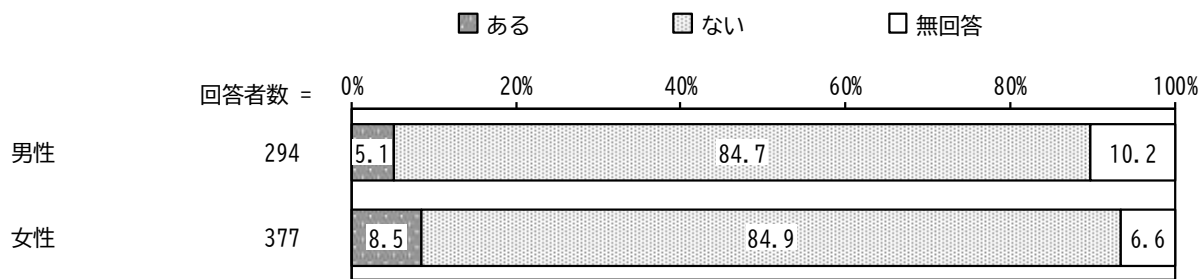
性別にみると、「ない」の割合が女性で高くなっています。



9. 行動を監視されたり、制限されたりした

【性別】

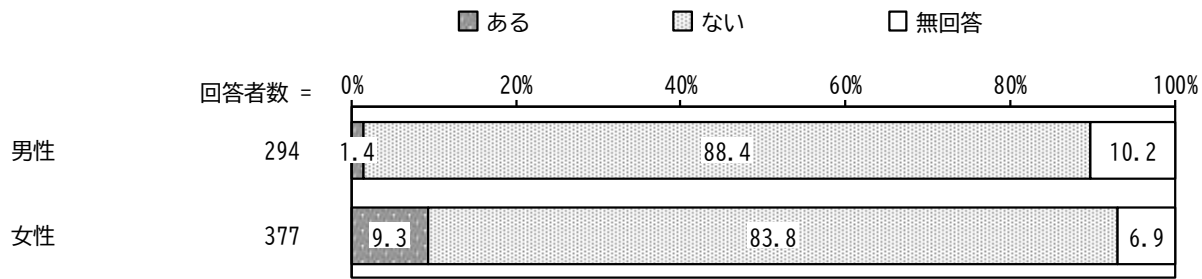
性別にみると、大きな差はみられません。



10. あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要された

【性別】

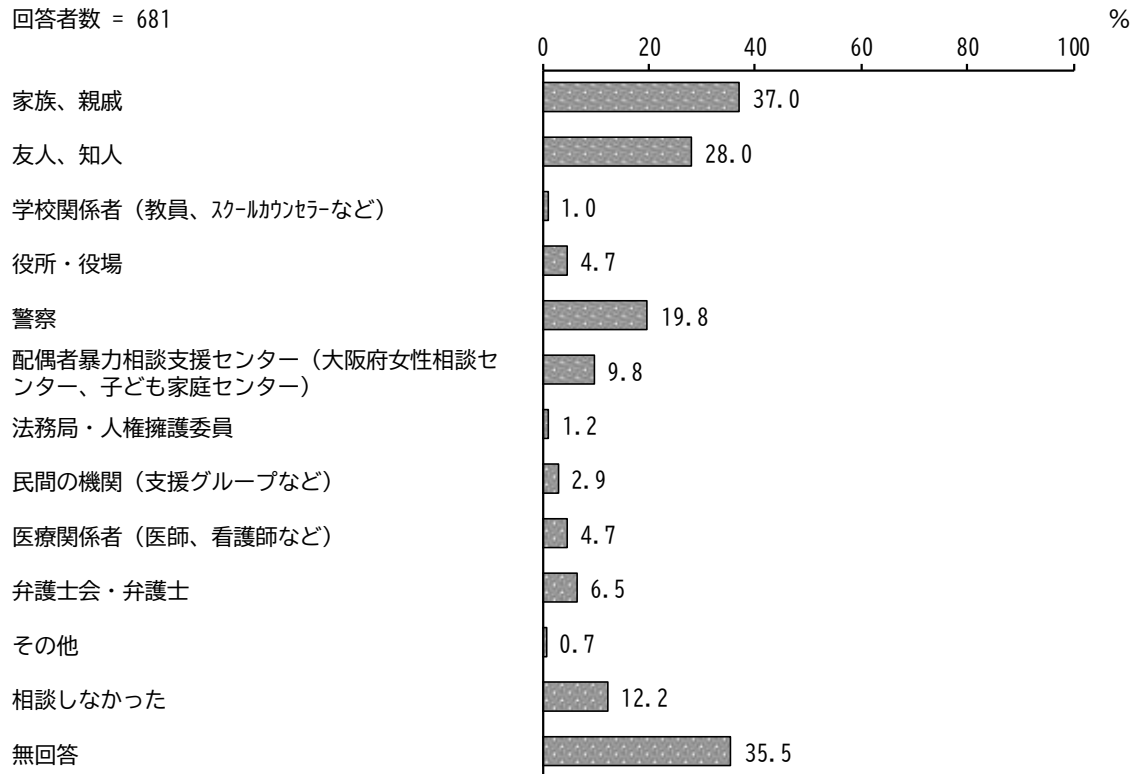
性別にみると、「ある」の割合が女性で高くなっています。



問 14. 実際に暴力を受けた方はそのことを誰に相談しましたか。あるいは、暴力を受けた場合、あなたはそのことを誰に相談しようと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。（○は複数選択可）

「家族、親戚」の割合が 37.0%と最も高く、次いで「友人、知人」の割合が 28.0%、「警察」の割合が 19.8%となっています。

回答者数 = 681



【性別】

性別にみると、「警察」、「弁護士会・弁護士」の割合が男性で高くなっています。

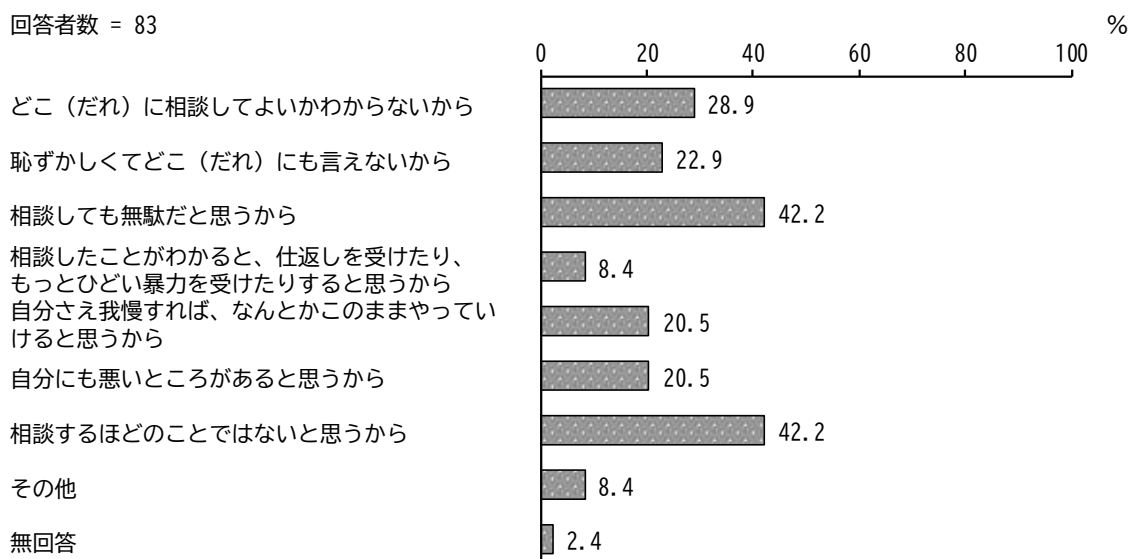
単位：%

区分	回答者数（件）	家族、親戚	友人、知人	学校関係者（教員、スクールカウンセラーなど）	役所・役場	警察	配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センター、子ども家庭センター）	法務局・人権擁護委員	民間の機関（支援グループなど）	医療関係者（医師、看護師など）	弁護士会・弁護士	その他	相談しなかった	無回答
全 体	681	37.0	28.0	1.0	4.7	19.8	9.8	1.2	2.9	4.7	6.5	0.7	12.2	35.5
男性	294	38.8	25.5	1.4	6.1	25.2	7.1	1.7	2.4	4.1	9.9	1.0	11.9	34.0
女性	377	35.8	30.2	0.8	3.7	16.2	12.2	0.5	3.2	5.3	4.0	0.5	12.5	36.3

問 15. 問 14 で「1 2」と回答した方にお聞きします。その理由を教えてください。
(○は複数選択可)

「相談しても無駄だと思うから」、「相談するほどのことではないと思うから」の割合が 42.2%と最も高く、次いで「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」の割合が 28.9%となっています。

回答者数 = 83



【性別】

性別にみると、「自分にも悪いところがあると思うから」、「相談するほどのことではないと思うから」の割合が男性で高くなっています。一方、「相談しても無駄だと思うから」、「相談したことがわかって、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思うから」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思うから」の割合が女性で高くなっています。

単位：%

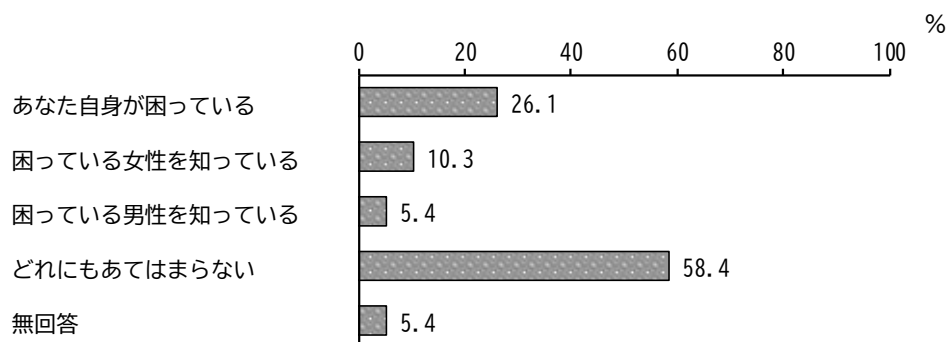
区分	回答者数（件）	どこ（だれ）に相談してよいかわからないから	恥ずかしくてどこ（だれ）にも言えないから	相談しても無駄だと思うから	相談したことがわかって、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思うから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思うから	自分にも悪いところがあると思うから	相談するほどのことではないと思うから	その他	無回答
全 体	83	28.9	22.9	42.2	8.4	20.5	20.5	42.2	8.4	2.4
男性	35	28.6	11.4	22.9	0.0	0.0	25.7	51.4	5.7	2.9
女性	47	29.8	31.9	57.4	14.9	36.2	17.0	34.0	10.6	2.1

問 16. 現在、日常生活をするうえで次のようなことで困っていますか。(○は複数選択可)

1. 身体・心の不安がある

「どれにもあてはまらない」の割合が 58.4%と最も高く、次いで「あなた自身が困っている」の割合が 26.1%、「困っている女性を知っている」の割合が 10.3%となっています。

回答者数 = 681



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

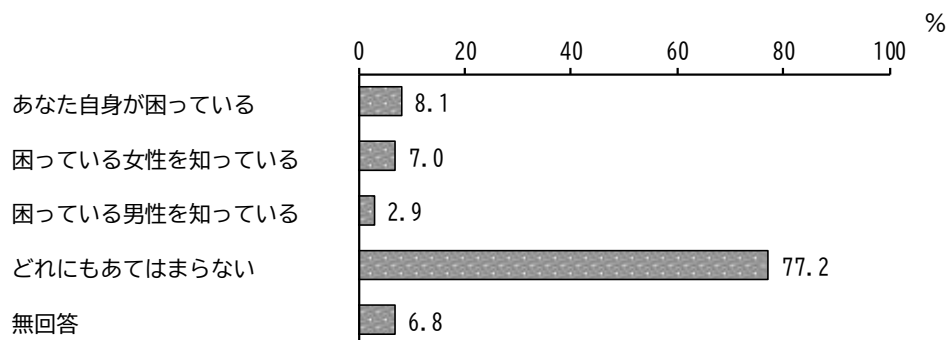
単位：%

区分	回答者数 (件)	あなた自身が困っている	困っている女性を知っている	困っている男性を知っている	どれにもあてはまらない	無回答
全 体	681	26.1	10.3	5.4	58.4	5.4
男性	294	25.9	10.2	6.8	59.2	6.1
女性	377	26.0	10.6	4.2	58.4	4.8

2. 家族関係がうまくいかない

「どれにもあてはまらない」の割合が 77.2%と最も高くなっています。

回答者数 = 681



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

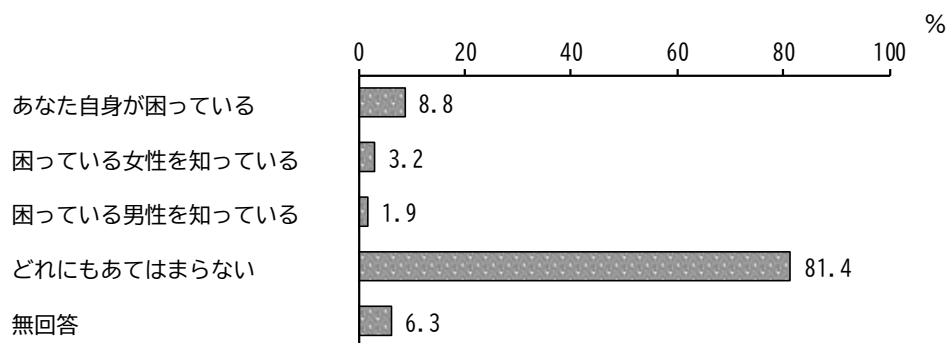
単位：％

区分	回答者数 (件)	あなた自身が困っている	困っている女性を知っている	困っている男性を知っている	どれにもあてはまらない	無回答
全 体	681	8.1	7.0	2.9	77.2	6.8
男性	294	6.5	5.4	3.7	79.3	6.8
女性	377	9.5	8.5	2.4	75.6	6.4

3. 孤立・孤独を感じる

「どれにもあてはまらない」の割合が81.4%と最も高くなっています。

回答者数 = 681



【性別】

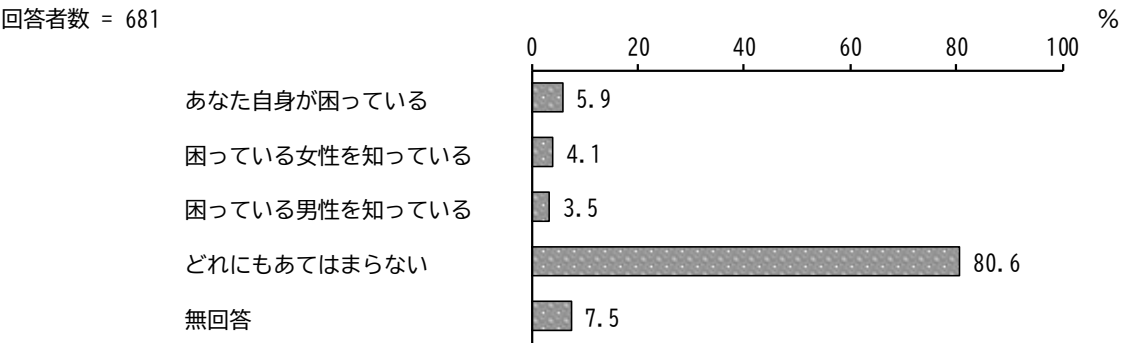
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	あなた自身が困っている	困っている女性を知っている	困っている男性を知っている	どれにもあてはまらない	無回答
全 体	681	8.8	3.2	1.9	81.4	6.3
男性	294	7.5	2.4	1.4	83.3	6.8
女性	377	9.0	4.0	2.4	80.6	5.8

4. 仕事が見つからない・不安定である

「どれにもあてはまらない」の割合が80.6%と最も高くなっています。



【性別】

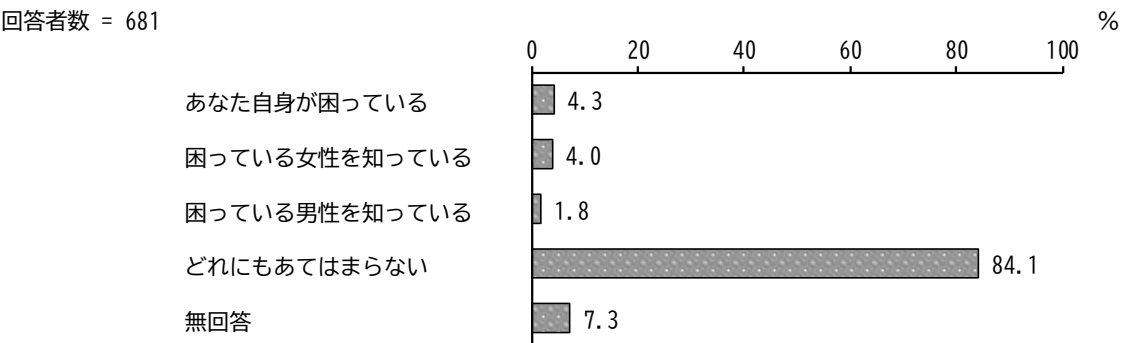
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	あなた自身が困っている	困っている女性を知っている	困っている男性を知っている	どれにもあてはまらない	無回答
全 体	681	5.9	4.1	3.5	80.6	7.5
男性	294	4.8	3.1	3.7	82.3	8.2
女性	377	6.4	5.0	3.4	79.6	6.9

5. 職場・家庭でハラスメントを受けている

「どれにもあてはまらない」の割合が84.1%と最も高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

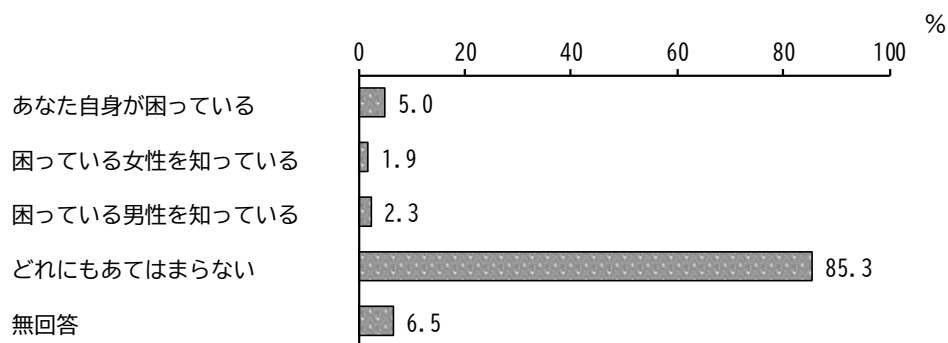
単位：％

区分	回答者数 (件)	あなた自身が困っている	困っている女性を知っている	困っている男性を知っている	どれにもあてはまらない	無回答
全 体	681	4.3	4.0	1.8	84.1	7.3
男性	294	2.0	3.4	1.7	86.4	8.2
女性	377	5.6	4.5	1.9	82.8	6.6

6. 生活費がない・公共料金を払うお金がない

「どれにもあてはまらない」の割合が 85.3%と最も高くなっています。

回答者数 = 681



【性別】

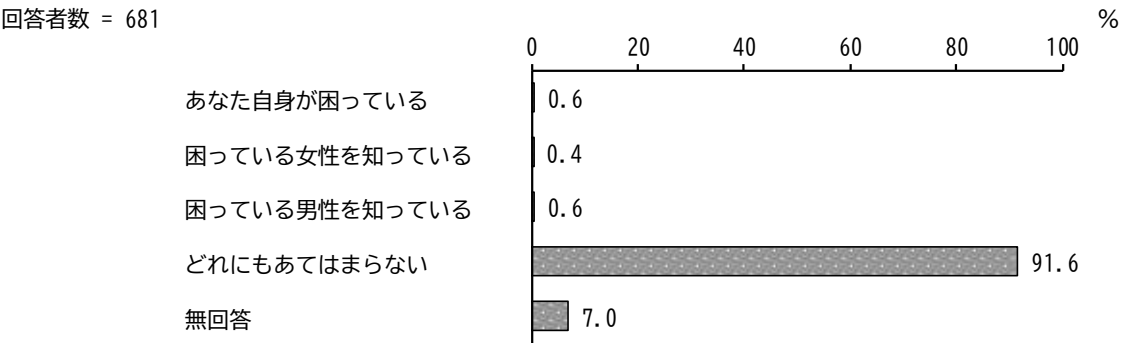
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	あなた自身が困っている	困っている女性を知っている	困っている男性を知っている	どれにもあてはまらない	無回答
全 体	681	5.0	1.9	2.3	85.3	6.5
男性	294	4.4	2.4	2.7	85.7	6.5
女性	377	5.3	1.6	2.1	85.1	6.4

7. 住む家がない

「どれにもあてはまらない」の割合が91.6%と最も高くなっています。



【性別】

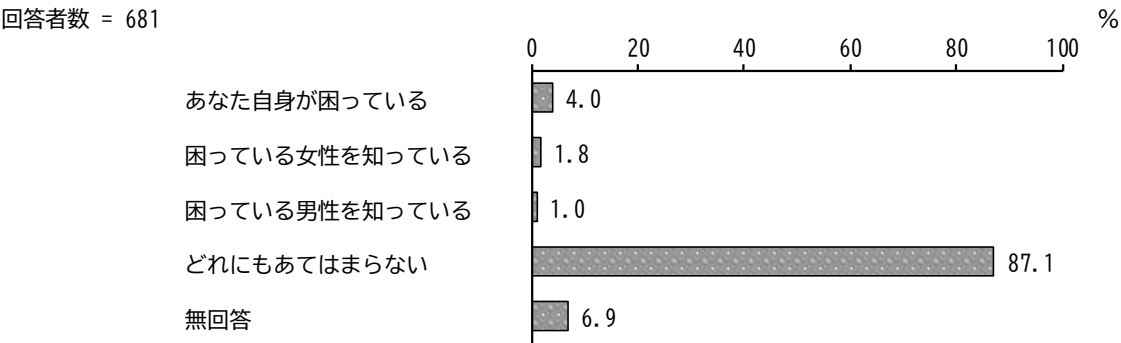
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	あなた自身が困っている	困っている女性を知っている	困っている男性を知っている	どれにもあてはまらない	無回答
全 体	681	0.6	0.4	0.6	91.6	7.0
男性	294	0.3	0.7	1.0	90.8	7.5
女性	377	0.5	0.3	0.3	92.6	6.6

8. 社会で平等に扱われない

「どれにもあてはまらない」の割合が87.1%と最も高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	あなた自身が困っている	困っている女性を知っている	困っている男性を知っている	どれにもあてはまらない	無回答
全 体	681	4.0	1.8	1.0	87.1	6.9
男性	294	2.7	1.7	0.7	87.8	7.5
女性	377	4.8	1.9	1.1	87.0	6.4

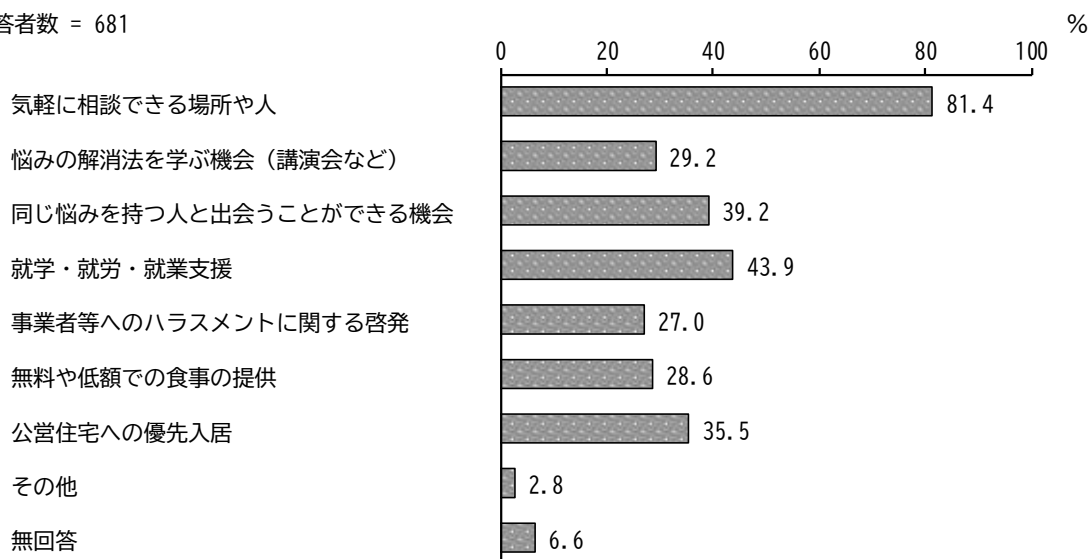
問 17. 令和6年4月1日に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。困難な問題を抱える女性に対して、どのような支援が必要だと思いますか。

(○は複数選択可)

※「困難な問題を抱える女性」とは「性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他様々な状況により日常生活又は社会生活を営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれがある女性を含む）」と法律に定義されています。

「気軽に相談できる場所や人」の割合が 81.4%と最も高く、次いで「就学・就労・就業支援」の割合が 43.9%、「同じ悩みを持つ人と出会うことができる機会」の割合が 39.2%となっています。

回答者数 = 681



【性別】

性別にみると、「無料や低額での食事の提供」の割合が女性で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	気軽に相談できる場 所や人	悩みの解消法を学ぶ 機会(講演会など)	同じ悩みを持つ人と 出会うことができる 機会	就学・就労・就業支援	事業者等へのハラス メントに関する啓発	無料や低額での食事 の提供	居 公営住宅への優先入	その他	無回答
全 体	681	81.4	29.2	39.2	43.9	27.0	28.6	35.5	2.8	6.6
男性	294	82.7	30.3	41.5	42.2	28.2	25.9	34.0	3.7	7.5
女性	377	80.4	28.6	37.1	45.4	25.7	31.0	37.1	2.1	6.1

【年齢別】

年齢別にみると、「公営住宅への優先入居」の割合が20～29歳から50～59歳にかけて高くなる傾向にあります。

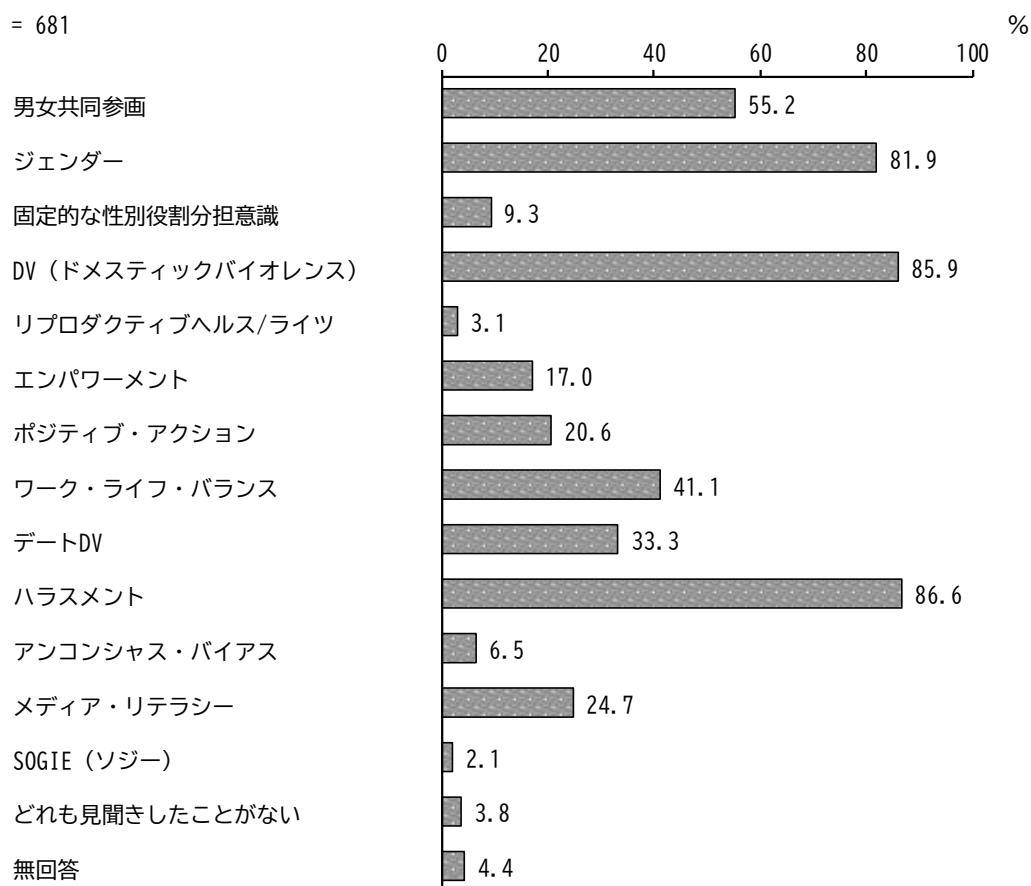
単位：％

区分	回答者数 (件)	気軽に相談できる場 所や人	悩みの解消法を学ぶ 機会(講演会など)	同じ悩みを持つ人と 出会うことができる 機会	就学・就労・就業支援	事業者等へのハラス メントに関する啓発	無料や低額での食事 の提供	居 公営住宅への優先入	その他	無回答
全 体	681	81.4	29.2	39.2	43.9	27.0	28.6	35.5	2.8	6.6
18・19歳	7	71.4	42.9	42.9	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3
20～29歳	36	83.3	36.1	41.7	41.7	30.6	22.2	30.6	5.6	2.8
30～39歳	69	73.9	37.7	40.6	59.4	34.8	36.2	37.7	7.2	0.0
40～49歳	95	81.1	23.2	41.1	36.8	21.1	30.5	34.7	3.2	4.2
50～59歳	133	84.2	28.6	39.1	53.4	30.1	34.6	45.1	3.0	3.0
60～69歳	119	87.4	37.8	46.2	52.1	35.3	34.5	43.7	2.5	1.7
70歳以上	221	78.7	23.5	33.9	32.6	19.9	20.8	27.1	0.9	14.9

問 18. 言葉の認知度についてお聞きします。以下項目の言葉について見聞きしたことがあるものに○をつけてください。(○は複数選択可)

「ハラスメント」の割合が 86.6%と最も高く、次いで「DV (ドメスティックバイオレンス)」の割合が 85.9%、「ジェンダー」の割合が 81.9%となっています。

回答者数 = 681



【性別】

性別にみると、「男女共同参画」の割合が男性で高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	男女共同参画	ジェンダー	固定的な性別役割 分担意識	DV (ドメスティック バイオレンス)	リプロダクティブヘ ルス/ライツ	エン パ ワ ー メ ン ト	ポ ジ ティ ブ ・ ア ク シ ョ ン
全 体	681	55.2	81.9	9.3	85.9	3.1	17.0	20.6
男性	294	65.3	81.0	8.5	83.3	4.1	18.7	19.4
女性	377	47.5	82.2	9.3	87.5	2.1	15.6	21.8

区分	ワーク・ライフ・バラ ンス	デートDV	ハラスメント	アン コン シャ ス・バ イア ス	メ ディ ア・リ テラ シー	SOGIE (ソ ジー)	ど れ も 見 聞 き し た こ と が な い	無 回 答
全 体	41.1	33.3	86.6	6.5	24.7	2.1	3.8	4.4
男性	43.2	28.9	84.7	5.1	22.8	3.1	4.4	5.8
女性	38.7	37.4	88.3	7.2	26.0	1.3	3.4	3.4

【年齢別】

年齢別にみると、「ワーク・ライフ・バランス」の割合が20～29歳から70歳以上にかけて低くなっています。

単位：％

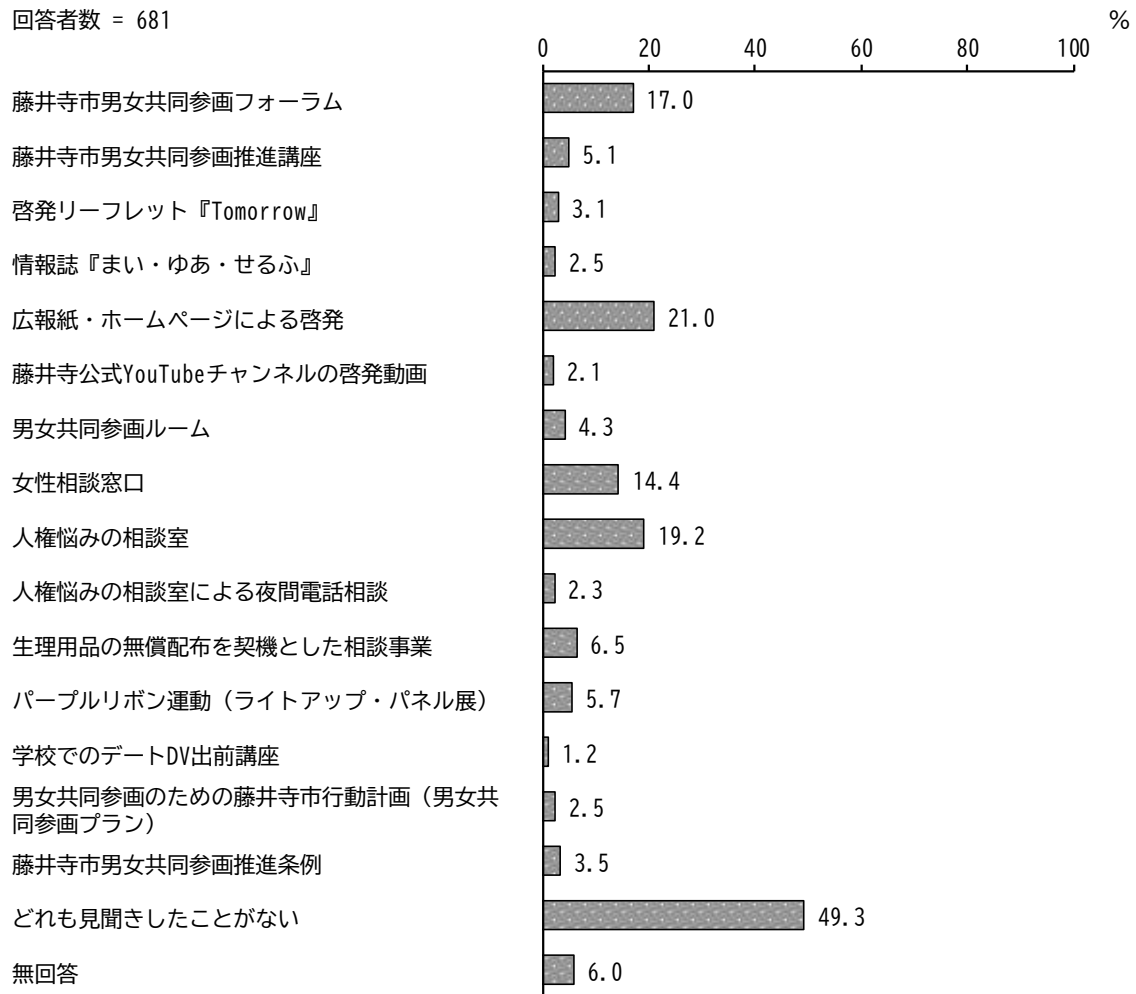
区分	回答者数 (件)	男女共同参画	ジェンダー	固定的な性別役割 分担意識	ドメスティック バイオレンス	リプロダクティブ ヘルス・ライツ	エンパワーメント	ポジティブ・アクション
全 体	681	55.2	81.9	9.3	85.9	3.1	17.0	20.6
18・19歳	7	57.1	71.4	0.0	71.4	28.6	57.1	57.1
20～29歳	36	66.7	94.4	5.6	94.4	5.6	27.8	30.6
30～39歳	69	68.1	97.1	7.2	98.6	0.0	14.5	20.3
40～49歳	95	50.5	92.6	7.4	93.7	3.2	22.1	23.2
50～59歳	133	50.4	94.7	8.3	95.5	3.0	21.8	15.0
60～69歳	119	54.6	85.7	10.1	91.6	4.2	17.6	20.2
70歳以上	221	54.8	61.1	11.8	68.8	2.3	9.5	20.4

区分	ワーク・ライフ・バ ランス	デートDV	ハラスメント	アンコンシャス・バ イアス	メディア・リテラシ ー	SOGIE (ソジー)	どれも見聞きしたこ とがない	無回答
全 体	41.1	33.3	86.6	6.5	24.7	2.1	3.8	4.4
18・19歳	42.9	28.6	71.4	42.9	42.9	14.3	0.0	14.3
20～29歳	69.4	44.4	94.4	13.9	52.8	5.6	2.8	2.8
30～39歳	66.7	39.1	91.3	10.1	46.4	4.3	0.0	0.0
40～49歳	51.6	46.3	91.6	10.5	36.8	2.1	1.1	2.1
50～59歳	48.9	39.1	95.5	6.8	24.8	2.3	0.0	1.5
60～69歳	34.5	35.3	94.1	3.4	17.6	0.8	1.7	1.7
70歳以上	22.6	19.9	73.3	2.7	11.3	0.9	10.0	10.0

問 19. あなたは、次のような男女共同参画や女性支援に関する市の取り組みの中で、見聞きしたことがあるものはありますか。該当するものすべてに○をしてください。

「どれも見聞きしたことがない」の割合が 49.3%と最も高く、次いで「広報紙・ホームページによる啓発」の割合が 21.0%、「人権悩みの相談室」の割合が 19.2%となっています。

回答者数 = 681



【性別】

性別にみると、「どれも見聞きしたことがない」の割合が男性で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	藤井寺市男女共同参画 フォーラム	藤井寺市男女共同参画 推進講座	啓発リーフレット 『Tomorrow』	情報誌『まい・ゆあ・せ るふ』	広報紙・ホームページ による啓発	藤井寺公式YouTube チャンネルの啓発動画	男女共同参画ルーム	女性相談窓口
全 体	681	17.0	5.1	3.1	2.5	21.0	2.1	4.3	14.4
男性	294	15.6	5.8	4.1	3.7	22.1	1.7	4.8	8.5
女性	377	18.0	4.8	1.9	1.3	20.4	2.1	3.7	19.1

区分	人権悩みの相談室	人権悩みの相談室によ る夜間電話相談	生理用品の無償配布を 契機とした相談事業	パープルリボン運動 (ライトアップ・パネ ル展)	学校でのデートDV出前 講座	男女共同参画のための 藤井寺市行動計画(男 女共同参画プラン)	藤井寺市男女共同参画 推進条例	どれも見聞きしたこと がない	無回答
全 体	19.2	2.3	6.5	5.7	1.2	2.5	3.5	49.3	6.0
男性	17.0	3.1	2.0	5.1	1.4	2.4	4.4	54.4	8.2
女性	21.0	1.9	9.8	6.4	1.1	2.7	2.9	45.4	4.2

【年齢別】

年齢別にみると、「人権悩みの相談室」は年齢が高くなるほど割合が高くなっています。また、「どれも見聞きしたことがない」は20歳以上で年齢が高くなるほど割合が低くなる傾向にあります。

単位：％

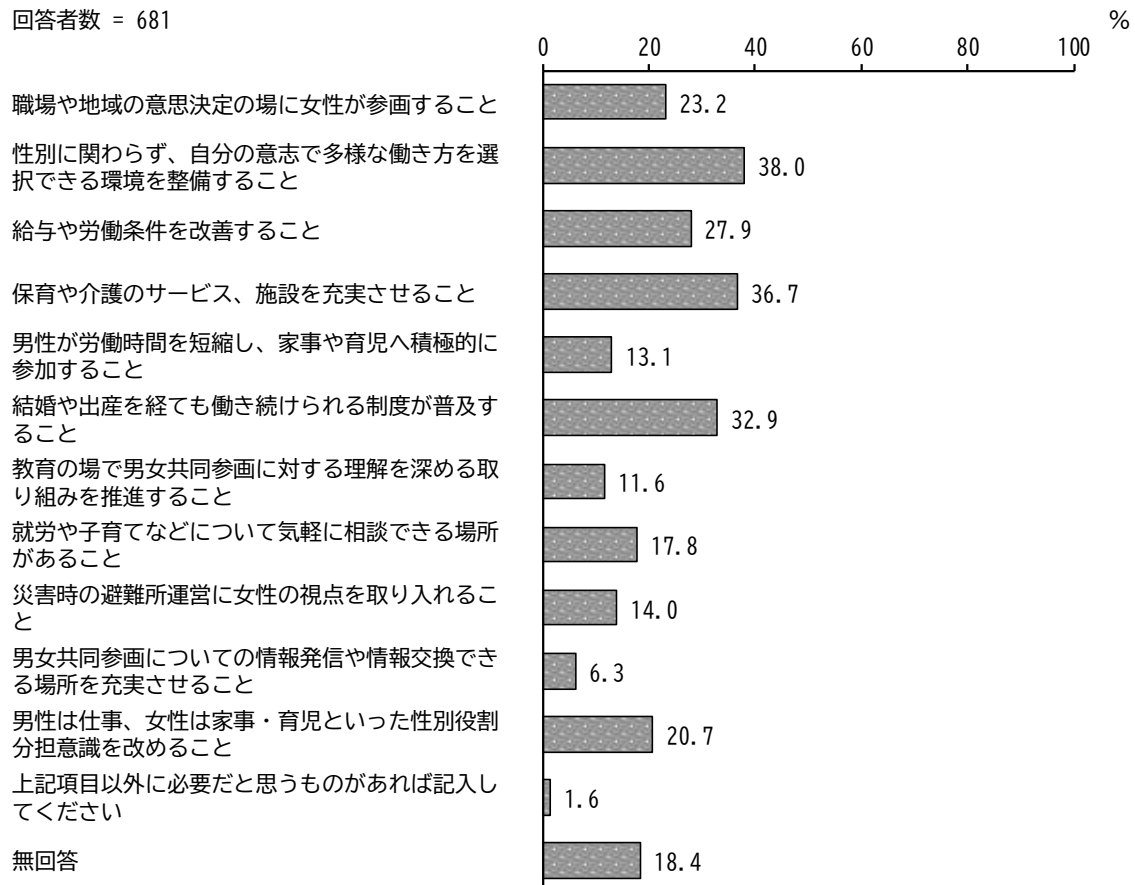
区分	回答者数(件)	藤井寺市男女共同参画フォーラム	藤井寺市男女共同参画推進講座	啓発リーフレット『Tomorrow』	情報誌『まい・ゆあ・せる』	広報紙・ホームページによる啓発	藤井寺公式YouTubeチャンネルの啓発動画	男女共同参画ルーム	女性相談窓口
全 体	681	17.0	5.1	3.1	2.5	21.0	2.1	4.3	14.4
18・19歳	7	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3
20～29歳	36	2.8	0.0	2.8	0.0	5.6	0.0	0.0	11.1
30～39歳	69	8.7	0.0	1.4	0.0	17.4	1.4	1.4	23.2
40～49歳	95	16.8	4.2	0.0	4.2	18.9	3.2	4.2	13.7
50～59歳	133	15.0	1.5	1.5	1.5	15.0	1.5	0.8	15.0
60～69歳	119	18.5	6.7	4.2	3.4	26.9	2.5	6.7	12.6
70歳以上	221	22.6	9.0	5.4	3.2	26.7	2.3	6.3	13.1

区分	人権悩みの相談室	人権悩みの相談室による夜間電話相談	生理用品の無償配布を契機とした相談事業	パープルリボン運動(ライトアップ・パネル展)	学校でのデートDV出前講座	男女共同参画のための藤井寺市行動計画(男女共同参画プラン)	藤井寺市男女共同参画推進条例	どれも見聞きしたことがない	無回答
全 体	19.2	2.3	6.5	5.7	1.2	2.5	3.5	49.3	6.0
18・19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	71.4	14.3
20～29歳	2.8	0.0	8.3	2.8	0.0	2.8	0.0	83.3	5.6
30～39歳	14.5	2.9	4.3	5.8	2.9	0.0	1.4	55.1	2.9
40～49歳	15.8	3.2	8.4	8.4	2.1	2.1	2.1	55.8	2.1
50～59歳	16.5	1.5	7.5	5.3	0.0	1.5	0.8	48.9	3.0
60～69歳	20.2	2.5	9.2	5.9	0.8	3.4	5.9	43.7	3.4
70歳以上	26.7	2.7	4.1	5.4	1.4	3.2	5.4	41.6	11.8

問 20. 男女共同参画を進めていくためにはどのような具体的取り組みが必要だと思いますか。該当するもの3つまで○をしてください。

「性別に関わらず、自分の意志で多様な働き方を選択できる環境を整備すること」の割合が 38.0%と最も高く、次いで「保育や介護のサービス、施設を充実させること」の割合が 36.7%、「結婚や出産を経ても働き続けられる制度が普及すること」の割合が 32.9%となっています。

回答者数 = 681



【性別】

性別にみると、「職場や地域の意思決定の場に女性が参画すること」の割合が男性で高くなっています。一方、「男性は仕事、女性は家事・育児といった性別役割分担意識を改めること」の割合が女性で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	職場や地域の意思決定の場に女性が参画すること	性別に関わらず、自分の意志で多様な働き方を選択できる環境を整備すること	給与や労働条件を改善すること	保育や介護のサービス、施設を充実させること	男性が労働時間を短縮し、家事や育児へ積極的に参加すること	結婚や出産を経ても働き続けられる制度が普及すること	教育の場で男女共同参画に対する理解を深める取り組みを推進すること	就労や子育てなどについて気軽に相談できる場所があること	災害時の避難所運営に女性の視点を取り入れること	男女共同参画についての情報発信や情報交換できる場所を充実させること	男性は仕事、女性は家事・育児といった性別役割分担意識を改めること	上記項目以外に必要なと思うものがあれば記入してください	無回答
全 体	681	23.2	38.0	27.9	36.7	13.1	32.9	11.6	17.8	14.0	6.3	20.7	1.6	18.4
男性	294	28.6	39.5	28.2	34.0	13.9	30.3	10.5	19.4	11.6	6.1	16.3	2.7	19.4
女性	377	18.8	36.9	26.5	39.5	12.2	35.3	12.5	16.7	15.9	6.4	23.6	0.8	17.2

【年齢別】

年齢別にみると、「保育や介護のサービス、施設を充実させること」の割合が 20～29 歳から 60～69 歳にかけて高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	職場や地域の意思決定の場に女性が参画すること	性別に関わらず、自分の意志で多様な働き方を選択できる環境を整備すること	給与や労働条件を改善すること	保育や介護のサービス、施設を充実させること	男性が労働時間を短縮し、家事や育児へ積極的に参加すること	結婚や出産を経ても働き続けられる制度が普及すること	教育の場で男女共同参画に対する理解を深める取り組みを推進すること	就労や子育てなどについて気軽に相談できる場所があること	災害時の避難所運営に女性の視点を取り入れること	男女共同参画についての情報発信や情報交換できる場所を充実させること	男性は仕事、女性は家事・育児といった性別役割分担意識を改めること	上記項目以外に必要なと思うものがあれば記入してください	無回答
全 体	681	23.2	38.0	27.9	36.7	13.1	32.9	11.6	17.8	14.0	6.3	20.7	1.6	18.4
18・19歳	7	28.6	28.6	28.6	28.6	0.0	14.3	28.6	42.9	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3
20～29歳	36	22.2	41.7	30.6	19.4	16.7	33.3	11.1	16.7	13.9	5.6	19.4	0.0	25.0
30～39歳	69	17.4	40.6	36.2	34.8	20.3	44.9	8.7	13.0	10.1	1.4	18.8	5.8	8.7
40～49歳	95	17.9	51.6	40.0	36.8	22.1	26.3	12.6	20.0	14.7	7.4	15.8	1.1	13.7
50～59歳	133	23.3	45.1	36.1	39.1	15.8	40.6	12.8	20.3	15.0	7.5	24.8	2.3	10.5
60～69歳	119	25.2	32.8	31.1	39.5	13.4	31.9	13.4	18.5	16.0	7.6	24.4	0.0	21.8
70歳以上	221	26.2	29.4	12.7	37.6	5.0	28.1	10.0	15.8	13.6	6.3	19.5	0.5	25.3

問 21. 男女共同参画について、あなたのご意見を自由に記入してください。

男女共同参画に関する意見として、計 126 件の意見が出されました。

カテゴリ	件数
男女共同参画、性別役割分担意識について	31
男女共同参画についての教育・学習について	7
性の尊重と健康支援について	1
あらゆる暴力の根絶について	1
政策・制度など意思決定過程について	22
家庭・職場内の役割分担や働き方、ワーク・ライフ・バランスについて	24
その他	18
特になし、わからない など	22
総数	126

【自由記載でいただいた意見】※男女共同参画について、市民の方からいただきました内容をそのまま記載しております。

男女共同参画は良い企画だと思うが実際に実行するとなると様々な面において無理が生じてくると思われる。
男女の違いだと、大きく分けられない問題を、男、女と2種類で分けずに、又、男性、女性の体や、脳の仕組の違は明らかにあるのだから否定できない事は、認めつつ（個人差として）共同で役割分担することができればと思います。
男女共に不安なく生活できることを望みます。お金がなければ心のゆとりができません。物価高騰している毎日、自分が将来老後生活になった時不安しかありません。今は、生活できてますが、みんな平等に生活できるようになれば幸いです。よろしくお願いします。
世の中は男女平等の社会であって女性の社会進出を否定するものではないが、その女性自身が女性であることを前面に出してアピールしてみたり、「男のくせに××なんてみっともない」などと言う女性を見ると女性側にも偏見の意識が高いのではないかと思ってしまう。男女共同参画と言っていること自体、意識過剰ではないかと思ってしまう。
小学校に勤めていて現在も退職した後、支援員として働いていますが公務員は男女の差はあまり感じられませんでしたが。しかし一般企業では（特に銀行など）育休を長くとると昇進できないなど知り合いから聞きました。まだまだ働きながらの子育ては働き続けられる制度が充実しないと大変だと思います。
女性も発言するようになったと思います。男性の中にはリーダーになったら自分の行動をみて動いてほしいという人がいますが役割であって合意を確認してほしいと思います。
今の社会全体が男性優位だと思います。これからの社会は男、女の区別はしない方が（時と場合によって）良いのではないかと思います。
最近は男性も家事、育児にがんばっている方が多くなったように思います。ただそれをいい事に女性（奥様）に家庭生活をしていくうえで、問題のある人が多くなったように感じています。主張ばかりいつている。
“一人ひとりが尊重される”と定義されているが男女の性別にとられすぎています。推進が多く有るように思います。
男女共同参画と言葉をいろんな面でアピールしてほしい。余り聞きなれない言葉だった。
生を受けた時から男、女に分れ、それぞれの役割分担は、有ると思う。その事をもう一度素直な心で見直し、色々な場面で考えて決めれば良いと思う。
私の世代は差別ではないが、男女の役割が家庭であり育った。子供の頃からの認識が大事と思う。互いに依存しすぎるのも良くない。話し合いできる関係作りを学んでほしい。
正直興味がない。
最近は女性も社会的に活やく出来る世の中にはなっていますがどうしても色々な面で弱い部分があると思います。これからの子供達には、教育や道徳などで学び女性にやさしい社会を作りたいと思います。
男には男の役目、女には女の役目があると思います。それぞれの役を果たす事が大切だと思います。
男女平等であることは大事ではあるが、『男女共同参画』という名で女性の方が優ぐうされる場合があるのではないか。
問 20 はすべて必要だと思うがまずは『男女共同参画』の認知度がほぼ市民にないと思うので『男女共同参画』の認知度を上げてほしい。
意識の向上への企画が必要。

出産時、女性が気持ちよく休暇をとることが出来て、復帰も容易になるとよい。子供が発熱時も正社員、パートタイム、性別に関係なく平等に休みやすい環境の整備が重要。
男女共同参画という考え方がおかしいと思う。能力がある人は男でも女でも社会で活躍しています。今さら何を するのですか？ある特定の団体の利権になるだけの事ではないでしょうか？そんな事に税金を使う前にもっと違 う所に税金を使うべきです。男女共同参画、子供家庭庁はムダ使いです。国民のためになっていません。地方か ら国に働きかけて、もっと少子化対策に力を入れて下さい。国民の多くは男女共同参画、子供家庭庁が何をして いるのかわかっていないのではないのでしょうか？そんなところに何兆円も使って～、他に使い道があると思いま す。広告代理店にお金が流れているだけなのではないのでしょうか？藤井寺市としても国や府のいいなりにならず もっと言うべきことを言ってほしいです。何のための地方行政ですか？無難にやりすごすだけでは地方も国も良 くなりません。男女共同参画と子供家庭庁に今多額の税金が使われています。しかし国民の為になっているでし ょうか？電通等にお金が流れているだけなのではないのでしょうか？理研の固まりだと思います。税金の使いみち がまちがっていると思います。
とにかく男性がえらいと考える老年者を何とかして欲しいです。ムリですけど。
男はめんどくさがりでやりたくないことには手を出さない所がある。家事も、PTAもやりたくないからではな いか。女も、子育てなど男にまかせると、信用してないから（信用できない）自分がするようになってい る。・・・どちらにしても、“やりたくない”“やらせたくない”が先にあって、どうしても、どちらかに負担 がかかってしまう。平等はムリ。ただし女性が、男以上に給料をもらっていれば、男のいいなりにはならないか ら、社会進出に努力していくのは必要。自立出来るし、強くなれます。
最近意識が高まり、改善しようとは、していますが、まだまだ、外国に比べ、低いと思います。
女の人しか子供が産めないの、完全に男女平等ということは無理だと思います。そんな女の人を尊重して、大 事にしてくれる男の人が増えれば良いと思います。
男だから、女だからというのではなく、人が生活する上では、すべての生活が男女変らないことを、もの心つく頃 から、教えていくことが必要。
昔は男性にたよっていましたが、能力、体力を持つ女性は世に出て活躍するべき。今はどしどしそのような女性 が出て来て頼もしい時代になりつつありますね。
男女共同参画と云っている時点で差別があると思う。何でも男女同権でありいっても、何であつても条件をつけ ない事が重要。
☆男女共同参画推進条例の施行は大変有意義な事です。それに平行して市議会議員の定数見直し、男女議員比率 の改善、議員生定年制、任期の制限で常に時代感覚に合った新鮮な空気をそして、清貧な流れを作る事が結果的 に古い概念を打破し、男女の区別と差別意識を無くすと思われます。
こちらへ記入することではないかもしれませんが、近鉄電車にも女性専用車両があれば大変良いと思う。
上に立つ人達の世代交代がないと何もかわらないと思います。
言われつくしている事かもしれませんが、出産、子育てが男女共同参画のネックになっているように感じていま す。出産後も正社員として働く女性が増えたといいますが、子どもの発熱などで休暇や早退をするのは未だに女 性だなど感じています。子育ては、経済、時間、精神、体力などさまざまな支援が必要な仕事だと思います。た だ、私1個人ではどのような支援がいいのかわかりません。もし自分が出産するなら、男女どちらでも子育て による時短勤務を希望する際に収入の減額がなければとても助かるだろうと思います。
古い人間なので仕事第一で働いてきましたが、令和の今は女性もすべて平等に暮せていけば幸せになると思いま す。
みんなが生きやすい社会をつくるのが重要なのは言うまでもありませんが、その過程で抵抗を感じたり不都合 を感じる人がいるのもまた事実です。そんな中で人権や平等についての意識を定着させて行くにはもっと日常的 に意見を交換し、一人一人が考える機会を持つことも重要だと考えます。
小学生・中学生・高校生の段階で年代にふさわしい会議、討論会等に参加させ、場慣れが必要、主要である。 （教育のいっかんとして議論になれること）
私自身、勉強不足の為、男女共同参画と言う言葉も意味も、このアンケートで初めて知りました。もっと多くの 方に知ってもらう為にもっと、わかりやすく広めてもらえればと思います。
2011年に「藤井寺市男女協参画推進条例」が施行されたことを知りませんでした。「広報ふじいでら」で取り組 みについての進捗状況を掲載して下さい。また今回のアンケートの集計結果についても掲載を望みます。アンケ ートの書きっぱなしにならないように。※携帯やスマホやパソコンを持ってない方や苦手な方もいらっしゃる と思います。「広報ふじいでら」は紙の媒体として貴重な情報資源です。高齢者や福祉の必要な方など立場の弱い方が取 り残されない様な取り組みも併せてお願いします。（アナログにはデジタルにない良さもあります）
男女どちらかが勝つような話ではないので、争いのごとく感情的に議論するのはいかがなものかと思う。平等は 「同じ扱いをする」ことでは無い。男女でどうしても違う部分は有るので、お互いを理解することと、思いやり が必要かと思う。自分たちの勧利を主張するばかりではいつまでも平行線であろう・・・。
男は仕事、女は家庭をなくさなければ進まない。
協働人権課、初めて知りました。
小学生、年中の子どもがいます。熱が出た時の看病、学校、保育園からの急なおむかえの連絡、全てが女性優先 があたりまえ。仕事では、介護をしています、子どもの関係で時短勤務。それをどうこう職場に言われた事は ありませんが、そのためか、時給も国家資格者であるにも関わらず、最低賃金に数十円つけただけです。そもそ もの考えがおかしくないですか？この思いが届く事を願って信じてアンケートに答えさせて頂きました。
男女共に保守的な世代が多く、変化を望まない人が多い。職場の部署に女性がいないため、男女間の差がわから ない。
世の中女性の非正規雇用労働者の高い職種が多過ぎます。

女性に弱者ではなく、弱者救済として男性の救済も盛りこまないと不平等感が生まれる。弱者の定義内の男女比率は女性の方が多いと思うが、始めから女性限定にする必要はあるか。平等性がないのに共同で事をすすめられるのか。
男性の育休をもっととれやすい環境にしてほしい。女性が会社でお茶出し、そうじなどする習慣を差別化しないでほしい。
核家族化で高齢社会に入り、一人暮らしの人も多い。そんな中でも入院、手術となると保証人が要求されます。今年から保険証としてマイナンバーカードが一括化されるのを機に、保証人不要のシステムを考案していただきたく切に思います。よろしくお願い致します。
女性は出産をすると限られた時間での就労を余儀なくされるため、責任のある仕事を任せにくくなります。また出産、子どもの就学、様々なタイミングで働き方、そもそも働けるかどうかを考えなければならず、安定したキャリアの継続が難しいです。男性はそのようなことがない（特に労働環境に変化がない）のがうらやましいです。
何事も小さなことでも、男女共に話し合いして下さい。
このアンケートが届くまで知りませんでした。昔に比べて女性が活躍できる場面は増えたと思いますが、まだまだ改善の余地があると思います。働きやすく住みやすい町をつくってほしいです。
制度やサービスの整備組織風土や働き方の見直しなど、官民挙げて幅広い取組みを進める必要があります。
該当するものの項目が多すぎて、アンケートに答えるのがしんどかった。
議員が先頭になって行ふべき。進めていった所で認知されなければ意味がない。認知される方法をもっと考えて取り組むべき。
結婚前の数年間と結婚後はパートタイム女性がほとんどの職場でしたので、男女共同参画について考えませんでした。結婚後生活に於いては、それぞれの性質、生まれ育って身についた考え方が異なる為、長い年月をかけて互いに刺激し合い、共に協力出来るバランスを作り上げて暮らし続けるのかと感じています。それぞれの長所を生かし、短所を補い合うことで向上してゆけるものと考えます。
差別がなく自由に活動できる様に日々、意識をもっていきたいです。
すべてにおいて平等がないと思います。生活保護、老人のみ、子どものみなど人が足りないというが、生活するにあたり仕事が大切なので、仕事が決まらない方が多い。楽しくお金をもらう人も増える。犯罪も増える。仕事が決まるまで何か市、国だけでもとりあえずの仕事を作るべきだ。まず仕事があって生活ができるの後に安定が大切。こういう暴力、DVがいろいろつながっていくと思う。相殺の場をもうけるのはいいけど、相談のみでおわる。相続しましたのけいせきを残すのみ。相談員も人間だし仕事の一端。本当に困っているDVの人は助け出すことはできると思うししていると思いますが。中途半端である男女どうのこうのはそこどまり、改善できるならいいけど。
特に意識をして過ごしていません。自分には関係がないと思っています。
男女性別に関わらずに保育や介護に、家事に協力していけるようになったらいいと思います。自分の子供も家事に協力しているので良いと思います。
住みやすい町にしてくれるとうれしい。
男だから、女性をもっと的々な考えで物事を決めない方がよいと思う。「困難な問題を抱える女性」みたいな言葉を作るから女性優位の意識が生まれる。人として大きなくくりで見て、困難な人、働きたい人、出世したい人、で区別して認識すればよいと思う。男の意見、女の意見と分けるくらいなら各個人の意見として分ければよいと思います。
男女平等とは言っても、男性は男性の役割りに責任を持ち、女性は女性でしかできない事の役割りに責任を持ち、お互いを尊敬と感謝で認める事が、仕事でも家庭でも大切であると思う。
よく分かりませんが男にしか出来ない事もあるだろうし、女にしか出来ない事もあるだろうし、男には巫女さんや舞妓さんは出来ないし、お互い認め合い尊重し合えば良いのでは。
国民（特に若年者）は、政治に無関心すぎる。
聞かれている意味がわからない。自分達の時代とは違い、今まで自分達がしてきたことが変わってきているのか、頭がついていかない。何もかもが高くなり、給料は変わらないのに家賃、食費等女性も働かないと生活出来なくなっているのが原因だと思うので、そこを何とかしてほしい。
今までの環境をすぐに変えることは難しいと思います。新聞をとる家庭も少なくなり、年齢がいかれている方に情報を伝えることも難しくなっており、どのように上記の質問の情報が市民にいきわたるのか、と言うことも課題ではないかと思えます。
藤井寺病院が閉めて不安である。子供、老人が安心して住めるようになってない。だから新しい居住者、藤井寺市を選択してくれない。
ジェンダーも含めて、特に年輩の方に男尊女卑の傾向が多くみられるように感じます。年輩の方の意識改革が必要だと思えます。
男女は常に平等であるべき。
男女共同参画は単なる平等ではなく、性別に縛られない意識のバリアを取り除く取組みが必要ならば、ハード面を作る市役所の取組みが不十分。
女性管理職を増やす。地域の代表者にも女性が増えればよいと思う。
言葉としては聞いた事がありますが、本当の意味はあまりよくわかりません。
男女というより、社会環境の整備が必要と考えます。物価高、低賃金など。
はっきり言って男女共同参画の役割りが私達に生かされているかまったくわかりません。税金を出しているだけのみかえりはあるのでしょうか。

一般的常識があり、すなおいに話し合える人々の集まりであり、前向きであり物事への対し方が積極的発展的であることに処理する。
国も自治体も何をやっているかわからないし、具体的にどんな成果を出しているのかはもっとわからない。それらの成果を出せず、目標も出せないならやめるべき。
共稼ぎしながら、子育て出来るのが理想です。
以前に比べて、いろんな面で男女差が少なくなってきたが、実際はまだまだのように思える。義務教育のうちから子供達にいろいろ働きかけて、意識させていくことから取り組む必要があるように思える。
男女平等、男も女もないと言いながら意識改革ができていないと思う。今までの経験や生きてきた上での思いもあって変える、変わる事は難しいと思う。なにか歩みよるきっかけが必要だと思う。
男女共同参画は必要な事で、積極的な取り組みは必要だと思いますが、過度に推進するあまり逆差別になる恐れもあると思う。個々の能力や経験等も判断し参画や意識向上を持つ事も必要だと思います。
法律や制度の面では、確かに少しずつではあるが男女間での格差は小さくなってきているのだと思う。しかし、そういった制度や支援を知る機会が一般の人々には少なすぎる。いくらリーフレットやホームページで啓発したところで、自ら情報を得ようと手をのばさないと手に入らない知識や情報では、決して社会に広く浸透することはない。もっと強制的に知らざるを得ないシステムを構築する必要があるだろう。そのためにも社会の意志決定をする場を、男性が牛耳っている現状を変えなければ、このようなアンケートをしても何も変わらないだろう。
男性特有の性質、性格そして女性特有の性質、性格を深く掘り下げて探究してゆくことをすれば、男女間の問題解決に近づいてゆくことができるのではないかなと思いました。
男女共に給与をアップし、経済的に余裕ができる事が大切と思う。一部の金持ちと多くの貧乏人との格差が大きくなっており、精神論ばかり言っても何も解決しないと思う。
子供を産みたい人が産める社会。産後は仕事に復帰希望の人は復帰できる社会（1～3年の期間で）になればいいと思います。
情報が入りづらい人にも行きわたるようにする事。市として根気よく徹底的に取り組んで頂きたい。
私は現在 80 歳の女性です。地区の中で老人会の役員、幹事を 13 年程続けて今に至りますが、全くのボランティア活動です。毎月最低 4 日はその役割りを実行していますが、なかなか役員、幹事の後継者が無いのが現状です。なので 80 歳になった今も頑張っています。楽しいこと、うれしいことも多々ありますが、責任の強さがしんどく感じる今日この頃ではあります。
生活の質を上げるためには、職場や労働条件の改善が必要、大切だと思います。
急激な変化は無理だと思います。多角的な環境整備がなされる必要があると思います。
昭和時代は確かに男性の方が優遇された。団塊世代の私達は結婚するのが当たり前だった。女性は一人で生きていくだけの収入がなかったから。そういう意味では現在はかなり良くなったと思う。しかし、今でも掃除や料理、お茶入れは女性がするものと決めているかのように男性は動かない。私の地域でも「女性部」という役割りがあり、会館や不動尊の掃除はその女性部が担当している。未来は少しずつ改善されていくだろうとは思いますが。ちなみに、正論を言っている主人にお風呂の排水口の掃除をお願いしてみた。するとそんな所一度もやってくれたことがない主人がやってくれたのです。言葉にするって大切ですね。実際に経験しないと人の気持ちって分からないものです（笑）。

藤井寺市 男女共同参画に関するアンケート
調査結果報告書

発行年月：令和7年6月

発 行：市民生活部 協働人権課

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1

電 話：072-939-1059